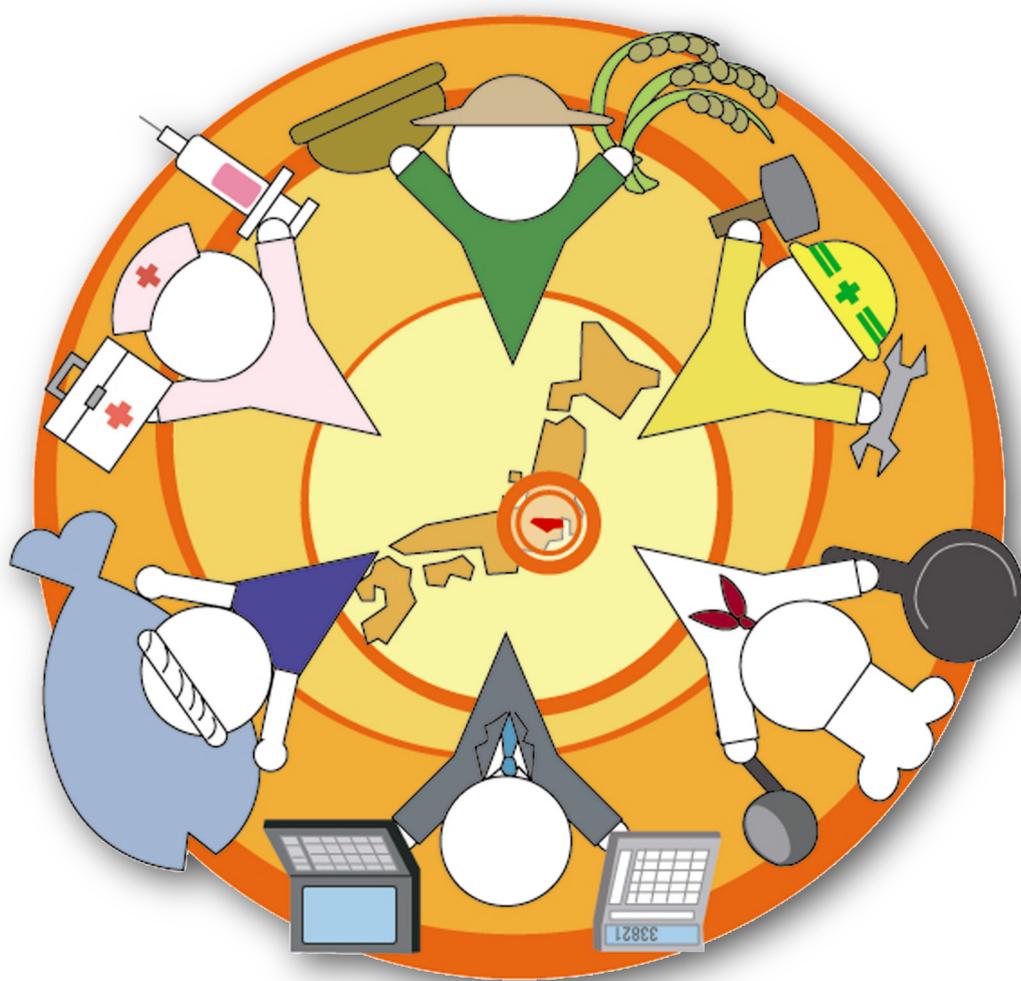


東京の産業教育

特集 生徒の進路実現を図る専門教育の取組



平成24年度 50号

東京都産業教育振興会

生涯自分を支える資格・技術を!



ひとに、地球に、未来の糧を。
学校法人 **食糧学院**



スポーツ
栄養



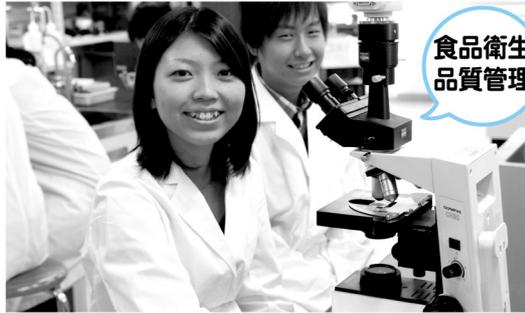
食品
メーカー



栄養
教諭



給食
(学校
病院)



食品衛生
品質管理

東京栄養食糧専門学校 渋谷から5分と駅の閑静な街 「食と栄養と健康」のスペシャリストの養成校



管理栄養士科 昼間部4年制 管理栄養士国家試験合格を全力サポート

栄養士科 昼間部2年制 多様化する社会に対応できる専門選択コース

取得できる資格
栄養士
管理栄養士国家試験受験資格

目指す資格
管理栄養士
栄養教諭1種
フードアナリスト4級

取得できる資格
栄養士

目指す資格
管理栄養士
栄養教諭2種
フードアナリスト4級



西洋
料理



パティ
シエ



日本
料理



中国
料理

東京調理師専門学校 新宿駅徒歩5分の好立地 「食と美と技」のスペシャリストの養成校



高度調理技術科 昼間部2年制 2年次には専門コースに分かれて深く学べる高度学科

調理技術科 昼間部1年制 西洋・日本・中国料理を総合的に学べるスピード取得コース

調理総合科 夜間部1.5年制 働きながらフルボリュームを学べる1年6ヶ月

パティシエ・ブーランジェ科 昼・夜間部1年制 1年間でパティシエ・ブーランジェを養成 ※調理師免許の取得は出来ません。

	高度調理技術科	調理技術科・調理総合科
調理師免許	取得できる資格	取得できる資格
3級レストランサービス技能士	目指す資格	-
食育インストラクター受験資格	取得できる資格	取得できる資格

お問い合わせ・お申し込み先

ひとに、地球に、未来の糧を。
学校法人 **食糧学院**

東京栄養食糧専門学校
東京調理師専門学校

詳しい内容、お問い合わせはこちらまで!

03-3424-9112

食糧学院

検索

東京の産業教育 第50号 目次

巻頭のことば

- 「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」 東京都産業教育振興会 理事 廣瀬 喜久子・・・1
(東京誠心調理師専門学校 理事長)

特集 生徒の進路実現を図る専門教育の取組

- 1 本校自動車研究部における生徒達の進路実現を図る取組
～省エネルギーカー製作を通じてより実践的な技術者を目指す～
昭和第一学園高等学校 自動車研究部顧問 新屋敷 誠・・・2
- 2 生徒の進路実現を図る専門教育の取組
東京都立足立工業高等学校長 栗田 博 康・・・4
- 3 進路を実現させるための本校での取り組み
～キャリアデザイン支援教育と資格の取得～
村田女子高等学校 教諭 景山 廣美・・・6
- 4 商業高校が担う生徒の進路実現への取組
～商業高校の学びとキャリア教育の関わり～
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 池田 哲・・・8
- 5 生徒の就職活動を支える商業教育の取り組み
東京都立芝商業高等学校 進路指導部主幹教諭 相田 誠一・・・10
- 6 生徒の進路実現を図る専門教育の取組
～大学卒業後を見据えた特色ある教育活動～
東京都立千早高等学校長 林 修・・・12
- 7 フードスペシャリストを育成する専門教育の取組
東京都立農業高等学校 食物科教諭 諸原 都・・・14
- 8 生徒の進路実現を図る看護教育の取り組み～スペシャリストの育成
愛国中学校・高等学校 副校長 高橋 英夫・・・16
- 9 総合学科高校における専門教育の役割について
東京都立町田総合高等学校 キャリアアドバイザー 桜井 伸一・・・18
- 10 都立産業技術高専におけるキャリア支援
東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス教務主事 富永 一利・・・20
- 11 “長期” インターンシップと職業理解
～自らの「生き方」の達成と実現に向けて～
マリールイズ美容専門学校 学校長 江原 美規子・・・22
- 12 昨今の就職支援の現状は？
二葉栄養専門学校就職課 課長 大久保 英夫・・・24
- 13 職業観の基礎を育む中学校技術・家庭科教育
江戸川区立小岩第四中学校長 阿久津 勝利・・・26

東京の産業界

- 1 コミュニケーション力溢れる人財の育成 ～考動力ある人材～
株式会社東京都民銀行 取締役頭取 柿 崎 昭 裕・・・28
- 2 未来を担う子どもたちとともに
東京書籍株式会社 常務取締役 編集局次長 渡 辺 能理夫・・・30
- 3 イノベーション経営
株式会社日刊工業新聞社 取締役社長 井 水 治 博・・・32

情報スクエア

- 1 第10回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 中央区立佃中学校長 加 藤 讓 司・・・34
- 2 簿記部、珠算部、ワープロ部の三部が全国競技大会に出場
東京都立第四商業高等学校長 大 林 誠・・・36
- 3 成長をサポートするマイコンカーラリー
東京都立総合工科高等学校 主幹教諭 下 山 和 弘・・・38
- 4 第29回全国都市緑化フェアTOKYOに参加して
東京都立瑞穂農芸高等学校園芸科学科教諭 中 里 友 紀・大 坂 朋 美・・・40
- 5 高校生夕張キャンプ第I期「農産物の流通等体験」に参加して
東京都立農芸高等学校長 花 野 耕 一・・・42
- 6 第22回全国産業教育フェア・第54回全国産業教育振興大会・岡山大会（事務局）・・・44

報 告

- 1 平成24年度 総会・講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 2 平成24年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・・・・・ 51
- 3 平成24年度 東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・・・・・・・ 52
- 4 平成24年度 産学懇談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- 5 平成24年度 第23回東京都産業教育振興会作文コンクール
① 入選者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
② 最優秀賞作文（高等学校・中学校の部）・・・・・・・・・・・・・・ 57
③ 応募校一覧・応募数の推移・分野別応募数・・・・・・・・・・・・・・ 60

本会の概要

- 1 平成24年度 事業経過報告（平成25年2月20日現在）・・・・・・・・・・・・ 63
 - 2 平成23年度 決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
 - 3 平成24年度 予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
 - 4 平成24年度 役員、委員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
 - 5 本 会 会 則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
 - 6 平成24年度 会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
- 本誌「東京の産業教育」50号記念表紙イラスト・コンペについて・・・・・・ 86
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

巻頭のことば

「生徒の進路実現を図る専門教育の取組」

東京都産業教育振興会 理事

学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校 理事長 廣 瀬 喜久子



我国は、長い期間、経済発展をし、更に雇用環境も大きな変革をしてきたと言えよう。

しかし、時代は大きく逆風の条件に向っている。経済成長率は低下し、雇用を生み出す生産能力が減退している。

2000年代はリーマンショックの影響もあり、更に2011年3月11日の東日本大震災から、経済は勿論のこと労働市場も急激に減少している。

しかも、働く意欲をもった若者層の労働人口が減少している。そうした現状から、国の政策としても高齢者の労働力、女性の活用、外国人労働者も視野に入れなければならない。そう見ると、働き方も大きく変わっていくのではないと思われる。雇用環境にも従来型から未来型へスライドしなければならない。

若者の就業目的も、量から質に変わる。即ち、自分らしさという個性、能力、特殊性、そしてそのことによって、かつての様に大学志向から、自分の専門性、中でも他の特異性が光らなければならない。ここに来てようやく産業社会の中で、どう貢献できる人材に自分を創造していくかが、これからの新しい進路の取り組みでの基本となるでしょう。

さて、その内のフードビジネス分野に関する、一部にふれておきますが、フードサービスインダストリーと言われる様になったのは、1970年頃からで、それからの産業界も大きく様変わりをしている。にもかかわらず、法的な部分は、あまり大きく変わっていない。私たちの食生活でさえ、現在の食卓の状況が全くと言ってよいほど進化している。ましてや、フードサービス産業の状況は、業種も業態も多様であり、他産業との複合ビジネスが複雑に混在している。こうした動向はマーケットの多様化により新たな業態商品開発が展開されている。

他産業と同様に経済的影響を受けており、食材原価の高騰と原価コントロール、合わせて消費者の低価格高品質、安全安心など多様なニーズへの対応も要求される。質の高い食材をいかに早く、効率的に調達できるかも大きな課題となり産地のアグリビジネスとの連携も欠かせない。その一方、技術的専門人材の量的確保も充足しておらず、万年的に人手不足の実態もある。特に調理専門職の人材は調理技術の力量には長けているものの、新たな顧客を開拓するマーケティング力やアグリ業界と結びつくコーディネート力、業態・商品開発力の面では課題が多く、特に都市部においてはアグリビジネスとの交流はなく、生産者や生産物に対するアクションはされていない。こうした背景から、これからの業界が求める人材は、6次産業化を視野においた食と農とのギャップを埋めるコーディネートやフードビジネス分野における人材の資質の向上と雇用の確保に貢献できる中核的専門人材の育成が意義あるものとなると期待される。また同時にこうした新たな人材育成のためのプラットフォームとなる教育プログラムの開発も急務であり、本校でもその研究開発に着手したところである。今後はあらゆる産業分野でこのような中核的専門人材の育成と輩出が教育界と産業界の取り組むべき課題であり、日本の経済を底上げしていく大きな力となると思われます。

特集

生徒の進路実現を図る専門教育の取組



本校自動車研究部における生徒達の進路実現を図る取組
—省エネルギーカー製作を通じてより実践的な技術者を目指す—

昭和第一学園高等学校
自動車研究部顧問 新屋敷 誠

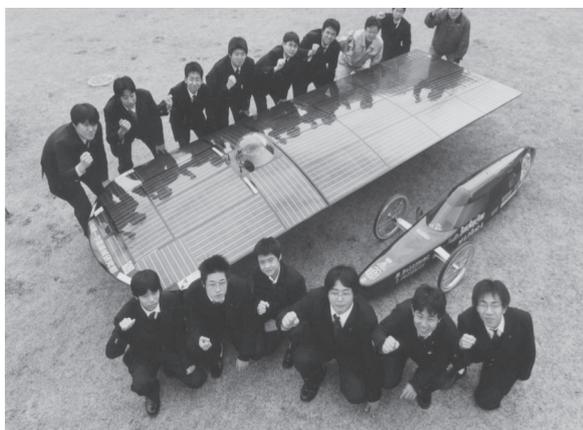
1 はじめに

本校は、東京都の多摩北東部立川市に位置し工学科（総合工学コース・機械コース・電子情報コース・建築コース）に普通科を併設した総合高校である。平成24年度には、創立72周年を迎えるに至った。建学以来「将来の産業界の第一線を担える中堅技術者の育成」を工学科の教育理念とし、モノづくり教育に重点を置いている。本稿では、自動車研究部に於けるモノづくりを通して生徒達の進路実現を図る取り組みについて概略報告する。



旋盤作業

2 省エネルギー競技への取り組み



近年、省エネルギーに対する関心の高まりとともに、省燃費競技への参加者は年々増加している。

自動車研究部では、創部以来一貫して産業界の第一線を担うエンジニアの育成に主眼を置きクラブ指導を進めている。具体的には、『主体性を持ったエンジニア』を目標にソーラーカーやエコランカー（1リットルのガソリンを使用して走行距離を競うレース）を作り各大会にエントリーしている。競技会場では、高度な加工技術や専門的な知

識を有する機構を取り入れた車両が導入され、急速に技術レベルが向上しているように思う。省燃費競技は、燃費を競うレースであることは勿論のこと参加チームの技術力、知識の整合性等を確かめる場でもある。エントラントの中には、自動車関連の企業チームやセミプロと言われる自動車を生業としているチームも多く含まれるが、自動車研究部の活動においては「モノづくり」が基本である。「モノづくり」の中から技能・技術を習得する事を主たる目的とし、私達の様な素人集団のそれがどれほど通用するものか、省燃費競技を通して試してきた。また、この競技は工業系の生徒達にとって夢を実現できる舞台でもある。机上のデッサンが少しずつ実物となり、日夜試行錯誤を繰り返して製作したマシンがゴールする瞬間のために、一年間の活動が繰り返されている。

3 モノづくりを通じて

自動車研究部では、前述の通り省エネルギー車の製作を通じて、自動車技術の向上と併せてモノづくりの基本的な技法を学ぶべく活動を行っている。また、当部では毎年10件前後の外部団体等

からの出展依頼（表1参照）を受けており、自動車研究部製作車両の展示と併せて自製ミニ CNCマシンによるモノづくりを行い大変好評をいただいている。出展中は来場者に対して熱心に研究内容や成果を語る生徒や依頼されたモノづくりに精を出す生徒等、学内とはまた一味違った生き生きとした姿を見せてくれる。更に、来場者の研究成果に対する讃辞やモノづくり（ネームプレート等）に対する感謝の言葉を受けて、否応なしに彼等のモチベーションは向上する。自らの研究成果やモノづくりに対して客観的に評価が得られる事を体験するのである。

出展名	依頼元
立川市 春の楽市	立川市
立川市 市民おもしろ大学	立川市
サイエンスドーム八王子	八王子市
多摩工業交流展	立川市商工会議所
昭島市産業祭	昭島市
東大和産業祭り	東大和市
いちょう祭り	八王子市
ビジネスフェア	青梅信金
こどもフェスタ	立川青年会議所

(表1) 主な出展先

4 進路実現に向けて

工学科の教育理念を中心にエンジニアとしての基本的な資質の向上を目指してクラブ指導を行っている。ところが、入部者の多くは自動車やモノづくりに興味を抱く生徒達であるが、入学当初は卒業後の進路希望が至極曖昧な生徒が多い。しかし、学年進行に伴い進路決定に於いて明らかに意識の変化がみられる。3年間の活動を通じて、研究成果及び出展等に於ける一定の評価の体験を通じて、モノづくりの喜びや満足感また、達成感を得ることになる。その結果、明確にエンジニアを志向する生徒が大半となるのである。つまり、生徒達にとっての価値ある作品を自分自身でつくれる技術的能力が得られたことは、職業的能力を獲得した事に等しく彼等の自信となるからである。

5 活躍する卒業生

本校を卒業後大学に進み大手自動車関連企業に於いて技能オリンピックにてメダルを獲得し、現在後進の指導に当たっている卒業生や、自動車メーカーにて技術を極め、海外青年協力隊に志願し途上国にて技術指導に当たる卒業生など多くの卒業生達が産業界に於いてエンジニアとして活躍している。指導者としては望外の喜びであり、彼等の更なる飛躍を期待したい。



第43回 技能オリンピック国内大会
銅メダル受賞（メカトロニクス部門）

6 おわりに

普通教科にはない工業系の専門教科に内在する職業教育はこの教科固有のものであるが、技術教育が職業教育の一端を担っていることは紛れもない事実である。また、本校での工業教育が生徒達の進路実現に向けて彼等の進路選択の一助となれば幸いである。

最後に、日々研鑽し寡黙な中に情熱を持って取り組む姿勢が技術者にとっての必須条件であると考える。今後も工学科にて学ぶことそして教えることに誇りを持ちつつ、モノづくりを通して勤労観・職業観の育成を計り、次世代の技術者を育てるべく努めて行きたい。



生徒の進路実現を図る専門教育の取組

東京都立足立工業高等学校長 栗田 博康

1 はじめに

本校は足立区にある唯一の工業高校である。昭和38年12月1日に地域の開設準備室ができ今年50周年を迎える学校である。開設時は機械科4クラス、電気科2クラス、電子科2クラスの8クラスであった。平成9年度より学科改変により総合技術科5クラスへなり、現在に至っている。

生徒の約90%は足立区内在住で93%が自転車通学である。卒業後の進路は就職希望が8割で区内の企業を希望しているものが多い、残りは大学・専門学校等の進学である。男子478名、女子5名在籍している。

地域から信頼され地域と共に生きる技術者の育成が足立工業高校の創立以来の目標である。



1年生の奉仕活動での表彰

このため本校の生徒は3年間の授業を通して地域との連携を深めている。1年生では教科「奉仕」、2年生では地域ものづくり企業と連携したインターンシップ、3年生では「課題研究」で企業からの指導を受けている。このように地域企業と協力した職業観育成、職人育成、さらに地域の方とのふれあいを通してコミュニケーション能力の育成、また、地域の方から感謝されることで、達成感を味わい、達成感を味わう生徒育成を行っている。

2 足立区と連携した1年生の奉仕活動

本校は教科「奉仕」において平成22年度より足立区と連携し、足立区や地域の方が高校生の奉仕活動を必要としているところに生徒を派遣する活動を始めました。特に小学校で実施している子どもたちの放課後の安全な居場所づくりと成長の手助けを行う「放課後子ども教室」という事業に生徒を派遣した。本校の生徒が平日に授業が終わってから自転車で小学校に向い15:30から17:00の間、校庭や教室で小学生たちの遊びや自主学习等の手助けを行う内容で実施した。

生徒たちはこの活動にやりがいを感じ10校の小学校で奉仕活動を行なってくれた。

このほか保育園、老人ホーム等への積極的に奉仕活動を行っている。

3 1年生の地域企業見学会

1学年全員が3月に実習の一環として地元工場見学会を実施する事を計画している。昨年は試行のため1クラス35名を3班にわけ学校を自転車で出発し午前中の実習時間を使い各班が別々に工場見学を実施した。学校近辺には企業がないため4時間の実習時間では1社しか見学が出来なかった。しかし、生徒たちは初めて経験する工場現場に感心したり驚いたり卒業後の進路について参考になったようである。また、3社の工場の方々も非常に快く生徒を受け入れていただきました。

今年度は近辺に工場が多い足立区役所の会議室を借り、そこから生徒を出発させる方向で計画している。

4 地域企業との連携したインターンシップ

平成24年度より2年生全員によるものづくりインターンシップを実施した。足立区内のものづくり企業限定で実施しようと考え、進路指導部が中心となり、足立区産業経済部就労支援課、東京



2年生のインターンシップ

都中小企業振興公社、地元の信用金庫の協力を得て企業開拓を行った。

156名の2年生を7月10日から12日までの3日間足立内56社に派遣した。企業も本校も初めての取り組みで、生徒がしっかり、インターンシップを出来るのか心配でしたが、156名全員が遅刻することなくしっかりと対応してくれた。

多くの企業からも、生徒に対してお褒めの言葉を頂きました。文化祭では企業の方をお呼びし、インターンシップ報告会を実施する予定である。

5 企業の実習見学会



企業授業見学会

企業の方による本校の実習授業の見学会を設定しました。今年度は始めてにもかかわらず40社が参加していただきました。

本校にどんな機器が導入されており、生徒がどんな実習を行っているのか、どんな技術を習得しているのかを理解してもらい、企業が採用をした時に学校で指導しておいてもらいたい内容、また、指導方法について意見交換をする機会を設定しました。さらに、地域企業との連携を密にし企業の

技術者による実践的な技術指導をお願いしていきたいと考えている。企業の方にはとても好評でぜひ来年度も実施していきたいと考えている。

6 地域と連携した課題研究

平成25年に東京で国体が実施される。それに伴い、足立区は柔道・剣道・トランポリンの会場を提供することになり、本校の生徒に国体の開会式までの日数を表示するカウントダウンタイマーの製作を依頼してきた。3年生の課題研究で希望者を募りデザインから検討をはじめ、デザインを足立区長に示し製作に入りました。8月18日に足立区長と製作した生徒の代表と除幕式を行いました。現在は足立区庁舎1階に展示してあります。



カウントダウンタイマー除幕式

本校生徒のキャリア教育を地域や地域企業と連携し行っていく取り組みは始まったばかりである。

地域で活躍できる技術者を育成していくため、今後さらに、本校教職員が一丸となり地域・地域企業との連携を深め、地域の技術力を学校教育に積極的に取り入れていく考えである。



進路を実現させるための本校での取り組み

～キャリアデザイン支援教育と資格の取得～

村田女子高等学校 教諭 景山 廣美

1 はじめに

本校は昭和6年(1931)に村田女子計理学校として創立され、昭和26年(1951)村田女子商業高等学校と改称、平成13年に普通科を設置し校名も村田女子高等学校とし現在に至る。

本校の母体でもある村田簿記学校(現在は東京経営短期大学として継承)の流れを汲むため、商業科に普通科が併設されたコース編成となった今日でも商業教育に対する熱意は非常に高い。建学の精神は「社会に貢献できる女性の育成」であり「簿記・珠算の実務に通じた堅実な人間を育てる」との信念を抱いて開学した。この教育信念のもと生徒達の将来の生き方を選び切り開くため、教員が一丸となって取り組んでいる。

2 現在の進路状況

「商業高校は就職する学校」とのイメージを持たれがちだが、本校の場合、商業科に在籍する生徒の約75%以上が就職ではなく進学する。進路先としては短大・専門学校から、大学へと進学実績を伸ばし、従来の商業科のイメージを払拭している。従来の就職希望者中心の就職指導から多様化する進学指導にも対応できる進路指導へと進化を遂げ、その結果生徒達は様々な進路先を選択できるようになった。

3 本校の進路指導

数ある指導プログラムの中でも、「キャリアデザイン支援教育」が進路指導の要である。最近では、どの大学でも口を揃えたかのように「キャリアデザイン教育」を公言するが、本校の進路責任者は以前から進路指導の基本はキャリアデザインにあると明言してきた。本校でのキャリアデザインは、自分の未来や将来の夢を思い描くことから始まる。キャリアはかつて「素晴らしい経歴」のことを指していたが、社会の変化に伴い意味も変

化し「人生の中でどのような経験をして来たか」を指すようになり、そのキャリアをデザインすることは、「自分が人生でどのような体験をしていきたいか」を考えること。つまり「生き方考えること」だと生徒達に話している。

キャリアを育成するためには環境が必要である。生徒達は学校生活の中で授業や講習での知識習得は勿論、クラスやクラブ活動の集団生活の中で人間関係を充実させ、様々な経験から個々の「キャリアの芽」を芽生えさせる。生えた芽をどの様に伸ばしたいかを想像させ、その未来予想図に向かって自分の意思で努力するように導き土台造りをする。それらの道標や足掛りを如何に生徒達にアシストできるかが教師の役目だと考えている。

キャリアデザイン支援教育は大きく3つの柱から成り立ち、ひとつはコミュニケーション能力のトレーニングである。これは単に友達と仲良くなる事ではなく、学校行事や委員会活動・クラブ活動、更にはカウンセラーによる面談やエゴグラム診断などによって多くの体験を積み、積極性を高め自分の可能性を広げて自己実現に近づけるようにすること。それと同時に集団の中で自分を生かすことを学ばせ人間関係形成能力と意思決定能力を養うことに主眼を置いている。また、広く社会へ貢献する心も養うことに配慮している。

二つ目には、将来を考えるための情報提供である。これは、学習ガイダンス・学部学科ガイダンス、大学からの出張授業、校内進学相談会、卒業生を囲む会そしてキャリア講演会などを開催して多くの情報提供を行い、情報活用能力・将来設計能力の向上に努めている。そして三つ目が受験や就職に向けての学習支援である。進路別選択コース・習熟度別授業・春期夏期冬期講習・勉強合宿・更には予備校によるサポートを用意して学力のアップを図り、より確実な進路実現を目指している。

これらの数多くのプログラムの中でも社会で活躍する女性を招いた「女性のキャリア講座」は多くの経験談が語られ、講演を通して「自分だったらどうしようか？」と考えるきっかけとなり生徒達には大好評である。

「算あるは勝る（有算者勝）」、この言葉は創立者が、政治家の尾崎弔堂先生から送られた言葉であり、本校の信条となっている。この教えには、「物事に緻密な計画性を持ってあたるならば必ず成就する」との意味がある。ひとつの事を成し遂げるには様々な方面に細心の配慮が必要である。この準備が不完全であれば、途中で頓挫する場面や残念な結果で終わる事が明白である。だからこそ用意周到に計画を立てる事が肝要になる。教師が生徒達に計画立案を指示するのは簡単だが、それだけでは生徒の成長は望めない。いかに生徒達に考えさせ計画を立てさせそして実行させるかが、進路決定には大きなポイントになる。

「あせらずに、あきらめないで、一歩ずつ」

本校の合言葉であるが、何事でも楽なものはない、途中で気持ちが折れそうな時を誰でも経験しているはず。そんな時こそ、この言葉が響く。誰にでも得手不得手があり、周りと同じように進まない事が多々ある。しかし、他人と比較して悲観するのではなく、昨日の自分より今日の自分が少しでも成長・進歩していれば良いのである。たとえ時間がかかっても自分の努力に見合った結果は必ずついてくる。

4 「資格取得による自信を」

本校で取得できる資格には、簿記・情報・珠算・電卓・秘書・英語・漢字等々他にもたくさんものがある。保護者の多くは、資格がたくさん取得できる魅力的な学校だと話される。確かに本校は資格取得に力を注いでおり、検定前には放課後講習等を行い、より多くの合格者が輩出できるように指導している。結果として履歴書に多くの資格を書ける生徒はたくさんいるが、生徒達にとってこの資格は一生の宝物となる財産でありスキルになっている。教育現場では資格に挑戦させることは大きな意味を持っている。資格に挑戦する事であれば出来るという自信も同時に身に付き、さらに次に挑戦しようとする意欲が高まる。その点だ

け見ても資格は魅力的である。人間育成を促す面からも大いに奨励して、工夫・応用する創造力を養いたいと考えている。全てではないが、在学中に得た多くの資格（技術や知識）がそのまま実社会で、即戦力につながらないこともある。つまり、その検定資格で得た知識を各企業の業務に合った形に変えたり応用したりする力も必要になってくるのだ。その様な場面に直面しても慌てずに、冷静に順応する能力も育てたいと考えながら指導をしている。

5 最後に

商業教育で求められるのは、即戦力として使える技能や能力を養うことである。社会人として求められるものには一般常識とマナー、基礎知識とスキル、物事に対する良し悪しの判断能力、仕事に対する意欲や姿勢、仲間との協調性など内容は多岐にわたる。それらをくまなく身に付けさせ、人としての成長を遂げさせるのが本校の目指す教育の根底である。近年、卒業生にオリンピック選手や公認会計士を輩出している。時代のニーズに応え最新の知識技能を修得させつつも、豊かな心を育み、社会に貢献できる女性の育成にこれからも邁進していきたい。





商業高校が担う生徒の進路実現への取組

～商業高校の学びとキャリア教育の関わり～

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 池田 悟

1 教科「商業」に関する学科の設置状況

平成24年度の都立高等学校の「商業」に関する学科の設置状況は、次の表のとおりである。

学科	全日制	定時制
商業科	芝商業、第一商業、赤羽商業、第三商業、第四商業、葛飾商業、第五商業、五日市	第三商業、葛飾商業、第五商業、荒川商業、五日市(併合科)、足立※分類上は普通科
情報処理科	第四商業、葛飾商業	
総合ビジネス科	荒川商業、江東商業	
ビジネスコミュニケーション科	千早、大田桜台	

2 新学習指導要領における「商業」の改善事項

教科「商業」の目標について、商業の各分野で学習する内容と関連する職業とのつながりに着目し、将来の職業を見据え、学び続ける力を育成するという趣旨を明確にするとともに、経済のサービス化・グローバル化、ICTの急速な進展、知識基盤社会の到来に対応し、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力、遵法精神や起業家精神等を身に付けた創造性豊かな人材を育成する観点から、科目の新設を含めた再構成や、内容の見直しなどの改善を図った。

3 専門高校の課題

～都立高校改革推進計画第一次実施計画～

専門高校に関する課題は、次の4点である。

- ① 専門的な技術・技能の確実な定着
- ② 生徒が専門高校の教育内容等を十分に理解しないまま専門高校への進学を選択し、中途退学者が多い状況であること

- ③ 専門高校の特色を理解した上で、学ぶ意欲と目的意識をもった生徒の確保と、生徒が希望する進路につなげる支援を充実させること
- ④ 専門高校の教員が企業現場の実態を十分に把握していないなど、実践的な指導力が不足していること

4 専門高校におけるキャリア教育の充実

～高等学校キャリア教育の手引き～

専門高校は、職業人として必要な専門的な知識・技能の高度化に対応する人材の育成が求められる一方、地域の様々な産業・社会を担う人材を輩出するという役割を担っている。将来のスペシャリスト育成を視野に入れ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に養うとともに、地域や産業界との連携を図った職業教育が求められる。そのためには、商業の基礎的な科目から専門的な科目にいたるまでの学習の流れとキャリア教育と関連付けた学習計画の作成、地域や生徒、学校の実態などを考慮した地域・社会との連携による実践的な教育活動や外部講師などの活用による最先端の知識・技能を習得する機会を設けるなどの取組が必要である。

5 各校の取組状況

都立芝商業高校と都立千早高校については、別ページに実践例が掲載されているので、ここでは、他の10校の取組等を紹介する。

〔都立荒川商業高校〕 学校と地域が一体となった実学を元にしたビジネス活動の実践、起業家精神の醸成、即戦力となる企業スペシャリストの育成を目指している。また、学校独自の資格・検定の奨励制度「ビジネスライセンス」を設定し、学習の達成感・成就感を育成している。

〔都立葛飾商業高校〕 高校3年間の進路指導計画を作成し、1学年は「基礎基本」、2学年は

「応用力」、3学年は「意思決定と進路希望の実現」を目標に、生徒・保護者・学校の三者が意図的・計画的に進路実現に取り組めるよう工夫している。また、学校ホームページに掲載し、外部に向けて発信している。

〔都立大田桜台高校〕 生徒の進路意識を高める取組として、各学年に以下の科目を設置している。1学年「キャリアデザイン」・「高校生活の充実」「進路関係・大学生活」「勤労観の育成と社会人」をテーマに独自教材による指導

2学年「東京の経済」・「東京の経済を「知る・考える」、「調べる」、「伝える」学習を通じた地域経済理解を通じた思考力・判断力・表現力の育成

3学年「プレゼンテーション技術」・「ロールプレイやディベートなどによる、プレゼンテーション技術や能力の育成

〔都立江東商業高校〕 「生徒の能力・適性・興味・意欲・関心・進路に応じた知識や技能の習得を通して望ましい職業観や勤労観をもち、英語・会計・ITのビジネス三言語を活用できる人材の育成」を目指す。進路指導部、2、3学年担任が連携して、卒業生による3学年対象の「進路懇談会」や進路決定した3学年による2学年対象の「進路選択活動体験発表」などを実施している。

〔都立第三商業高校〕 3年間を見通した、目標管理型の進路指導マネジメントシステムを構築し、1学年の「キャリアガイダンス」、2学年の「インターンシップ」で地域や地元企業との連携により、マナーやコミュニケーション能力を育成するとともに、進路選択能力や進路意識の確立を目指している。

〔都立第一商業高校〕 「高度資格取得」「進路保証」「人づくり」を柱に、職業観・勤労観を育成する指導計画を構築している。生徒の体験活動を重視した中高連携、高大連携やジョブシャドウなどを行っている。

〔都立赤羽商業高校〕 1学年からの計画的な進路学習や職業観を育成する外部講師による講演会、大学教員による体験授業やインターンシップなどによる、生徒一人一人の自己実現や進路決定に向けた3年間のキャリア教育計画を、進路指導部と各学年が連携して推進している。

〔都立第四商業高校〕 「就職も、進学も」を合言葉に、全校体制による生活指導・進路指導を通し

て、生徒の規範意識の向上や社会人としてのルール・マナーの醸成に取り組んでいる。生徒の自己実現を支援するために、ホームページによる情報発信、進路便りの発行、保護者会等を活用した保護者への的確な情報提供や大学・短大教養セミナー、2学年対象の3学年による進路講話、就職者対象の面接指導などを行っている。

〔都立第五商業高校〕 「ライフデザイン・社会体験活動」による地域貢献学習、インターンシップによる職業観の育成、産業労働局の「進め！若手商人育成事業」の一つである「商人インターンシップ」や実業意欲向上プログラムによる連携販売実習（五商ショップ）などによる、自己の目指す進路を実現するための計画を実践している。

〔都立五日市高校〕 「職業人インタビュー」を外部講師やハローワークと連携して実施したり、「商人インターンシップ」を活用して、地域の商工会と連携した「ヨルイチ」への参加を通して生徒の進路意識の向上を目指した取組を推進している。

〔東京都教育委員会と国際ロータリークラブとの協定によるインターンシップ実施校〕

第2750地区：芝商業、第五商業

第2580地区：赤羽商業、第四商業

6 まとめ

これからの都立商業高校は、学習指導要領の改訂を、現在の教育課程を見直す良い機会であると捉え、都立高校改革推進計画で示された課題を踏まえ、キャリア教育の視点から、教育活動を推進していくことが求められている。都立の商業高校が、生徒の進路実現を図り、東京の産業社会を支える人材を育成し続けるためには、常に現在の取組を検証し、評価と改善を繰り返していくことが肝要である。商業高校での学びを通して、生徒一人一人が自己の生き方・在り方を模索し、自己実現を図ることに結び付くような実践となることを期待したい。



生徒の就職活動を支える商業教育の取り組み

東京都立芝商業高等学校

進路指導部主幹教諭 相田 誠一

1 はじめに

本校は、88年の歴史があり多数の卒業生が教育界・産業界で活躍している。東京都港区（JR浜松町駅より3分）の好立地にあり、東京都の商業高校の中では、就職に定評がある学校である。

本校の使命は、商業教育を核とした教育活動を通し、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒を育成することにある。この使命を達成するために、次に示す学校づくりを行っている。①生徒一人ひとりの進路について、高度資格取得等を通して職業教育に取り組み、自己実現を支援する。②基礎学力を身につけさせ、英語・会計・ICTのビジネス三言語をツールとして活用できる生徒を育成する。③中高連携・高大連携・地域連携を遂行し、内外に開かれ、保護者・地域の方々から信頼される学校づくりを行っている。

進路実現を図るために、進路指導部が中心となり、3年間を見通した進路指導計画を作成・実行し、教職員が一体となって職業教育を充実させ、生徒の進路意識の啓発に努めている。

2 本校の特色ある取り組み

学年	取り組み
1 学年	5月 HR 合宿（礼法指導） 12月 インターンシップ
2 学年	6月 就職懇談会（見学） 12月 インターンシップ（希望者） 1月～2月 集団模擬面接
3 学年	4月 進路指導部面談 5月 会社見学会 6月 就職懇談会

1 学年では、5月に1泊2日のHR合宿の中で、芝商生としての必須の挨拶・マナーを身につけさせるため、礼法指導を行っている。12月にはキャ

リア教育の一環として、「国際ロータリー第2750地区と東京都教育委員会とのインターシップ事業の基本協定」に基づいた、インターシップを1年生全員に実施し、生徒の進路選択や職業選択への関心を啓発し、職業観、勤労観の早期育成を図っている。昨年度は89社の企業に協力をいただき実施した。

2 学年では、6月に就職懇談会を2年生全員に見学させ、3年生の活動している姿を見学させることにより、就職活動への早期意識づけを図っている。12月にはインターシップを希望者に対して実施しており、本校卒業生が就職している企業・東京中小企業家同友会港支部の企業他に協力をいただいた。昨年度は、54名の生徒が参加した。また、1月～2月にかけて集団模擬面接を2年生全員に対して実施し、最終学年に向けて、進路意識向上を図っている。

3 学年では、4月に進路指導部による個人面談を3年生全員に対して実施し、就職・進学的面から進路指導部7人の教員で、詳細なアドバイスを行っている。5月には会社見学会を行い、就職希望者全員に就職にあたっての心構えを学ばせている。今年度は企業10社に111名の生徒が訪問した。6月には卒業生による就職懇談会（写真参照）



就職懇談会

を体育館（ブース形式）で実施し、56社60名の卒業生に参加をいただき、7月からの就職活動に向けて、意識を高めてきた。また、就職希望生徒は全員、夏季休業中のお盆前後1週間を除いて毎日登校し、会社見学準備・SPI及び時事問題の学習・作文及び面接練習・履歴書作成練習などに取組み、9月の採用試験に備えさせている。

3 本校の就職状況変化と課題

ここ数年の進路状況を比べると、平成19年度卒業生が就職54.8%、進学41.7%（四年制大学20.1%、短期大学3.5%、専修・各種学校等18.1%）と就職の割合が高くなっていて、リーマン・ショック後はこの割合に変化が表れ、平成21年度卒業生では就職33.5%、進学57.7%（四年制大学22.8%、短期大学2.6%、専修・各種学校等32.3%）と進学が就職を大きく上回る状況になった。これは、就職の厳しさから、就職を考えていた生徒が進学に進路変更したことが原因と考えられる。平成23年度卒業生は就職が47.0%、進学44.9%（四年制大学22.2%、短期大学2.2%、専修・各種学校等20.5%）と就職が持ち直し、進学を上回った。

民間企業に就職した生徒の職種を比べると、本校の場合、事務職が圧倒的に多くなっている。平成19年度では、事務職71.3%、販売・サービス職12.9%、オペレータ職2.0%、営業職1.0%、商品管理職・その他12.8%となっており、事務職が7割を上回っていた。しかし、リーマン・ショック後は、職種にも変化が表れ、平成23年度は、東日本大震災の影響も加わり、事務職48.8%、販売・サービス職24.3%、オペレータ職5.4%、営業職4.8%、商品管理職・その他10.8%となっており、事務職が5割を落ち込み、販売・サービス職が2割を上回る状況になった。この原因として考えられることは、求人総数が激減しており、その中でも事務職求人の大幅な減少が影響している。そのため、事務職を希望している生徒の求人が足りず、他の職種も視野に入れて就職活動を行った結果が関係している。さらに、求人数が激減している企業が多くなり、競争倍率が高く不採用になる生徒が多数でている。過去の1社目内定率を比較してみると、平成19年度が92.5%に対し、平成23年度は56.0%と過去最低の結果となっ

た。このような厳しい状況の中ではあるが、就職希望者数も前年度を上回り、3月末には就職希望者全員の内定をいただくことができた。これは、本校の就職指導の強みである。

4 課題解決に向けての取り組み

不採用の理由として、最近では基礎学力不足・コミュニケーション力不足などの指摘が多くある。

このような現状から、基礎学力向上のために、本校では、朝学習を実施するとともに、読書活動を推奨し、就職対策講座の実施や進路委員活動を通して情報発信を行い、社会動向に目を向けさせている。また、本校教員に対しても、企業人事部の方を招いての研修会（写真参照）を実施し、企業の求める人材像や社会人基礎力についての研修を行い、本校の教育活動に活かす取り組みを行っている。今後も、就職に関しては厳しい状況が予測されているが、早期段階からの就職指導を充実させ、生徒の進路実現を図っていきたい。



企業人事部の方を招いての研修会



生徒の進路実現を図る専門教育の取組

—大学卒業後を見据えた特色ある教育活動の推進—

東京都立千早高等学校長 林 修

1 はじめに

東京都立千早高等学校は、平成9年9月に東京都教育委員会が策定した「都立高校改革推進計画」による「第一次実施計画」に基づき、平成16年4月に新しいタイプの進学型専門高校として開校し、今年度で9年目を迎えた。ビジネスに関する基礎的・基本的な知識・技能を修得させながら、「グローバルに激変する社会環境の中で主体的に対応し、将来、国際社会で活躍できる人材の育成」を目指して、大学等へ進学し継続して学習することを前提とした専門教育を行っている。

本校は、ビジネスコミュニケーション科として、英語教育とビジネス教育に重点を置いた教育課程を編成し、文系大学等への進学を目指した特色ある取組を展開している。卒業までの英語に関する科目の必履修単位数を23単位に設定し、選択科目を含めると最大33単位まで履修が可能である。また、ビジネス（商業）に関する科目については、必履修単位数を20単位とし、5単位を英語に関する科目で代替しているが、選択科目を含めると最大30単位までビジネス（商業）に関する科目を履修できるように教育課程を編成するとともに、特色ある教育活動を推進している。

○平成24年度入学生まで ※（）内は単位数

1年 (必修)	ビジネス基礎 (2)	簿記 (4)	情報処理 (2)
2年 (必修)	情報処理 (2)	商品と流通 (4)、会計 (4)、文書デザイン (4) のうち1科目	
2年 (選択)	商業技術 (3)、マーケティング (3)、原価計算 (3)、コミュニティデザイン (3) のうち2科目まで		
3年 (必修)	課題研究 (4)	総合実践 (2)	
3年 (選択)	会計総合 (4) 1科目又は国際ビジネス (2)、コミュニティデザイン演習 (2) のうち2科目まで		

○平成25年度入学生から (予定) ※（）内は単位数

1年 (必修)	ビジネス基礎 (2)	簿記 (4)	情報処理 (2)
2年 (必修)	総合実践 (2)	マーケティング (4)、財務会計I (4)、電子商取引 (4) のうち1科目	
2年 (選択)	ビジネス実務 (3)、広告と販売促進 (3)、原価計算 (3)、コミュニティデザイン (3) のうち2科目まで		
3年 (必修)	課題研究 (3)	総合実践 (3)	
3年 (選択)	会計総合 (4) 1科目又は商品開発 (2)、ビジネス経済応用 (2)、コミュニティデザイン演習 (2) のうち2科目まで		

ビジネス（商業）に関する科目のカリキュラム

2 学校設定科目「コミュニティデザイン」

学校設定科目「コミュニティデザイン」(第2学年・3単位)及び「コミュニティデザイン演習」(第3学年・2単位)を、それぞれ選択科目として開講している。この科目の目標は、「福祉」「環境」「国際協力」「コミュニティ」の4つの分野について、『私たちが住むコミュニティを、今よりもさらに良くするために私たちに何が出来るのか』という視点で考えていくことで、主体的に社会にかかわるための資質や能力を養うことである。



フェアトレード商品のパッケージデザイン

授業では、『①現状の問題点を発見(Introduction)→②課題について調査(Survey)→③ゲストとディスカッション(Workshop)→④講師の先生の講演(Lecture)→⑤活動場所の見学・体験(Fieldwork)→⑥発表資料を作成(Research)→⑦発表・まとめ(Presentation)』という流れで学習活動を展開している。

この学習を通じて、生徒には、身近に起こっている社会問題に関心を持ち、よりよい社会を実現するために自ら問題を解決しようとする力が養われる。また、将来、大学等で学びたい分野や専門がより明確になるとともに、受験で必要となる小論文を作成する力やプレゼンテーション能力が身に付く。

3 課題研究「ソーシャルビジネス」

「課題研究」(第3学年・4単位)の中にソーシャルビジネスの講座を開講している。この講座の目標は、ビジネスを用いて様々な社会の問題を解決する手法を学ぶとともに、実際の活動を通じて問題解決能力を養うことである。

授業では、平成17年8月に東京都教育委員会が設置した「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の教育支援プログラムにより、民間企業との連携プロジェクトを展開している。例えば、企業におけるCSR活動「全商品リサイクル」を題材として取り入れ、難民キャンプに寄贈する衣料を回収し支援物資を発送するという活動からソーシャルビジネスを学ぶとともに、新しい社会貢献活動の在り方等を提案している。



企業での新商品開発に関するプレゼンテーション

この学習を通じて、生徒には、国際社会に貢献しようとする意欲や新商品を開発する力が養われるとともに、企業や地域とのかかわりの中で実践的なコミュニケーション能力が身に付く。

4 部活動「CBP(千早ビジネスプロジェクト)」

部活動「CBP(千早ビジネスプロジェクト)」は、放課後に週1回及び休日や長期休業日に活動を行っている。この活動の目標は、『授業で学習したことが、社会の中でどのように生かされているのかを実際に確かめ、本物を体験する』ことで学習内容の定着を図るとともに、主体的に社会にかかわるための資質や能力を養うことである。

活動内容は大きく2つのカテゴリーに分かれており、①社会の求めている支援的な行動や活動を「福祉・社会貢献・国際理解」等をテーマに外部団体等と連携を図り活動を行う『コミュニティデザイン・サークル』と、②実際の企業活動の表舞台や裏舞台を見学しながら日頃は気付かない各企業の工夫やアイデアを発見する『ビジネス・サークル』で構成されている。



テレビ局の見学及び体験学習

この活動を通じて、生徒には、学年を越えた良好な人間関係を形成する力や自ら積極的に行動する力が養われるとともに、物事に対する見方や考え方が広がり、柔軟な思考力・発想力が身に付く。

5 おわりに

本校では、このほか、英語教育とビジネス教育を柱に、授業と連動させた学校行事(海外修学旅行やイングリッシュキャンプ等)、海外大学連携プログラム等、特色ある教育活動を展開している。

今後も、「役立つビジネスを社会から学ぶ」ことを重視しながら、大学卒業後を見据えた「7年間のキャリア教育」を推進し、生徒の多様な受験を支援して希望進路を実現できるように、全教職員の力を結集させて取り組んでいく。



フードスペシャリストを育成する専門教育の取組

東京都立農業高等学校 食物科教諭 諸原 都

1 はじめに

東京都立農業高等学校は創立103年を数える伝統のある専門課程の高等学校である。農業学科には、「都市園芸科」「緑地計画科」「食品科学科」の3つの科、家庭学科には「服飾科」「食物科」の2つの科がある。

食物科は卒業と同時に調理師免許を取得できる都立高校唯一の調理師養成施設として昭和44年より厚生労働省の認可を受けた。

食物科では、次のような教育目標を掲げている。「安全で豊かな食生活を送るため、調理、栄養、食品衛生などの学習を通して、適切な食品を選択できる能力と、実践的な調理技術を習得させる。さらに食生活の充実に貢献できる調理師を養成する。」

食分野の担い手としての資質、食の安全を守る能力や調理技術の向上を目指し、専門的な知識を具体的に学び、将来社会へ貢献できる「食」のスペシャリストを育成している。

2 食物科のカリキュラム

食物科では、普通教科に加え家庭学科としての教科、調理師養成施設としての専門教科をカリキュラムに取り入れている。

専門教科の教科書は、調理師養成教育全書((社)全国調理師養成施設協会)を使用している。

専門教科に関しては、調理師養成施設指導要領により、1単位35時間の授業を実時数行っている。

学校行事等で授業ができなくなる時間については、2、3年生では週1回の調理実習で7時間目の補充授業を設定し、また他の教科は夏期・冬期休業中に平均8時間ほど集中講座として授業を行っている。

普通教科	家庭学科 専門教科	調理師養成施設 専門教科
国語 地理歴史 公民 数学 理科 保健体育 芸術 外国語 家庭 奉仕	生活産業基礎 生活産業情報 課題研究	調理 栄養 食品 食品衛生 公衆衛生 衛生法規 食文化 必修選択

<食物科 カリキュラム>

3 食物科授業の特徴

○調理実習：基本調理、和食洋食と中国料理、西洋料理と日本料理の実習を、基礎から応用まで3年間で計画的に指導している。調理実習の指導は調理師の資格が必要であるため、市民講師としてレストラン、ホテル、料亭等のプロの調理師の方を招聘し、本校教員とティームティーチングを実施している。また調理実習に則して、中国料理、西洋料理、日本料理の各店に於いて、接客、料理、マナーを学んでいる。



調理師の先生による中国料理実習

○集団給食実習：調理師資格取得条件として年間4回、集団給食実習を実施している。高校生レストラン「たまごの木」で教職員、保護者、地域の方々に試食していただき貴重な意見をいただいている。1回の食事提供数を100食以上とし、調理のみでなく、献立作成や原価計算、食材発注、集客告知、サービスなどを勉強している。



3年和食弁当

＜生徒の感想＞：食物科最終学年は松花堂弁当で勝負しました。メニューからコスト計算、試食を重ねて、本番に望みました。日本の淡い秋の色彩をいかに表現するか、いかに見た目、味でお客様を満足させるかを第一に考え、この一席に高校3年間の成果と想いを込めておもてなしをしました。

○特別実習：普段の調理実習以外に、外部講師による特別実習で専門性の高い内容を取り入れ、調理師としての心構えや意識を持たせている。

「包丁実習」「手打ちそば実習」「握りずし実習」「デコレーションケーキ実習」「チョコレート実習」「製パン実習」「製菓実習」などがある。

○食物調理技術検定：全国高等学校家庭科食物調理技術検定を、1年次に4級と3級、2年次に2級までを全員が受検している。1級は3年次に希望者が挑戦することができる。平成23年度は、1級受検者のうち90%の合格者を出した。

4 卒業生の進路状況

卒業生の進路の多くは学んだことを活かし、関連分野へ進学、就職している。

4年制大学や短期大学へ進学を希望する生徒は、栄養士・管理栄養士の資格取得をめざしている。また、専門分野を極めるため、専門学校の製菓コースや製パンコースへ進む生徒もいる。

調理師として就職していく生徒は、2年次よりインターンシップとして調理師の現場を実際に経験し、ホテル、レストラン、保育園の調理場などへ就職している。

平成23年度は大学短大進学26%、専門学校進学54%、就職17%であった。

5 まとめと今後の課題

食分野に興味、関心が深く調理師資格取得という目標を明確に持って入学してくる生徒たちは授業に意欲的に取り組んでいる。知識と技術の向上を図り、チームとしての協調性やコミュニケーション能力を培い、社会性を育む授業を展開している。今後の課題は、専門学科を持つ高校と調理師養成施設を併設し、管理していくために有資格教員の確保、授業時数の確保、施設の充実、講師の確保などいくつかあげられる。特色ある高校を目指し、21世紀の食に関するスペシャリストを養成する機関を維持するには学校全体の理解と協力を得て、実施していく必要がある。



調理技術検定1級生徒作品



生徒の進路実現を図る看護教育の取り組み ～スペシャリストの育成

愛国中学校・高等学校 副校長 高橋 英夫

1 はじめに

昭和13年に愛国女子商業学校として発足した本校では、『社会人としては豊かな知識と技術とをもって経済的に独立し、家庭人としては美しい情操と強い奉仕心とをもって一家幸福の源泉となる、健全な精神と身体とをそなえた女子の育成を目的とする』という建学精神のもと、創立以来、職業教育に力を入れております。中でも、女性の特性を活かした資格を取得し、社会に貢献できる生徒を育成するため、昭和41年衛生看護科を、ついで、昭和55年に衛生看護専攻科(2年課程)を開設いたしました。

2 衛生看護科で「看護」の三要素を学ぶ

「知識」看護基礎医学・基礎看護・成人看護・老人看護・母子看護・精神看護・看護臨床実習・看護情報処理について各診療科の専門医や看護科教諭が講義や授業を行い、人体のしくみと働きを知ることにより、疾病を患った方への援助方法を学びます。

「技術」患者様に対して安全・安楽な看護ができるよう、環境整備・体位変換・食事介助・バイタルサイン測定・清拭などの実技の練習を重ねます。

「態度」看護教育を校訓である『親切正直』の実践の場と考え、日々の学校生活の中で誠意を以て患者様の御家族などに接するという看護倫理を育成し、美しく上品な言葉遣いや立居振舞が身に付くよう配慮しております。

「知識」「技術」「態度」を身に付けさせる基本は、何と言っても、生徒が自主的・積極的に目的意識を持って学習・行動ができるかどうか、鍵となります。そのために、大切なことは、自己学習能力の向上・自分の意見の明確な発言・グループワークでの意見交換・コミュニケーション技術の向上・実習への強い探究心などです。社会性を育てるた

めの例を挙げましょう。私達は、さくらんぼ学級と呼んでいますが、いわゆるプリセプター制度の導入です。他学年と交流を持つことにより、自己を振り返り、看護師になりたいという気持ちを再認識できます。また、モチベーションを高めることも、1年後・2年後の自分の姿がイメージできるようになります。



看護実習室でのベッドメイキング

3 憧れのナースキャップを戴く～戴帽式～

高校2年生の第2学期末には、教科と実技の内部試験を経て戴帽式が行われます。この戴帽式は、ナースキャップを戴く儀式とキャンドルサービスを併せたものです。ナースキャップの白の色は、「純潔・博愛・高貴」の精神を表わします。キャンドルの灯りはナイチンゲールの精神を継承する



戴帽式～キャンドルサービス～



戴帽式～ナイチンゲール誓詞～

証しです。戴帽式の後、戴帽生は臨床実習に行くことを許され、看護職者としての第一歩を踏み出すこととなります。

(参考) ナイチンゲール誓詞より抜粋

「我は、わが力の限りわが任務の標準を高くせんことを努むべし。わが任務にあたりて、取り扱へる人々の私事のすべて、わが知り得たる一家の内事のすべて、我は人にもらさざるべし。我は、心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。」

4 看護の現場へ～臨床実習・資格試験～

戴帽式の後、臨床実習が始まります。2年生での基礎実習を経て、3年生になって病院・保育園・老人保健施設（ゆうあい苑・なでしこ保育園・式場病院・岩倉産婦人科・まつしま病院・苑田第一病院・最成病院・江戸川病院）などで週4日17週間の実習を行います。

患者様や症状には個性性があって理論通りに行かず、生徒は悩むこともあります。そのような場合に備えて、生徒と学校との連絡ノートを活用したり、学年日誌を記入したり、面接をしたりと、情報交換をして、悩みがすみやかに解決するように配慮しています。特に、患者様の「ありがとう」の言葉に励まされることが多く、生徒は更なる成長を遂げています。

この臨床実習では、実習終了後に生徒が看護師として働きたいとより強く思えるようなアプローチもしています。

また、2月に都道府県が実施する准看護師試験

に対しては、伝統である「全員受験・全員合格」を目指して、学園が一丸となってサポートしています。3年生になる春休みに資格試験問題の課題を宿題とし、4月には模擬試験を行います。その結果に応じて、休業の第2・4土曜日に補習を行います。さらに、夏休みには、問題集を宿題としています。12月には、成績別の補習を行い、自分の実力と勉強の仕方の再認識をし、資格試験に合格したいというモチベーションをさらに高めています。いよいよ、試験が迫ってきた1月になると、模擬試験の実施場所をいつもの教室ではない場所に移動し、試験当日の緊張感を事前体験できるようにしています。

5 広がる未来への可能性

高等部卒業生は殆どが併設の衛生看護専攻科へ進学し、2年間で看護師受験資格を取得し、国家試験に臨んでいます。専攻科卒業後には、全員が希望通り、専攻科の実習病院である順天堂大学附属病院・日本医科大学附属病院を筆頭に大学病院や総合病院に就職しています。専攻科には、年齢制限がなく准看護師からステップアップしたいと考える女性には、いつでも、いくつになっても、勉強のための門戸を開いております。

看護師資格は、生涯ライセンスです。自分のライフサイクルにあわせて、様々な場で活躍できる魅力的な資格です。この看護師という国家資格を高校の3年間と専攻科の2年間のあわせて5年間という最短期間で取得できるのは、東京都内で愛国高等学校1校です。今、この時も多くの卒業生が看護師として「いのちの現場」で活躍し、患者様の生きる支えとなっていることは私共の喜びであり、誇りとするところでもあります。



校舎



総合学科高校における専門教育の役割について

東京都立町田総合高等学校
キャリアアドバイザー 桜井 伸一

東京都立町田総合高等学校は、平成21年4月に、八王子・町田地区初の総合学科高校として開校いたしました。以来、「地域に根ざした学校作り」を合言葉に、総合学科高校の特性を最大限に生かし、キャリア教育を教育活動の根幹に据え、これまでさまざまな取り組みを行ってまいりました。

そもそも総合学科高校とはどのような高校なのか、というご質問をよくいただきます。中学校などでは、「選択履修により普通教育と専門教育の両方を総合的に学べる学科」との説明をされている場合が多いようです。もちろん、これは間違いではありません。確かにカリキュラムをご覧顶きますと、普通教育と専門教育の両方を選択することにより学ぶことができます。しかしこのことが、総合学科に対する「誤解」を招いていることも確かです。「総合学科は、普通教育も専門教育も中途半端である」等の厳しいご指摘を頂くことがあります。私はこのようなご指摘に対して、「総合学科高校が誕生した背景」について説明しております。

ご存知の通り、少子高齢化のスピードは類を見ないほど顕著であります。また、長引く日本経済の苦戦は、企業の求人活動にも大きな影響をもたらしています。当然ながら、これらの社会状況は、我々教育界にも大きな影響が出ています。今や大学は、「学生を選ぶ」側から、「学生に選ばれる」側に移行しております。また、大学さえ卒業すれば就職できるという「神話」は、崩れつつあります。この社会状況の中、普通科を中心とする多くの高等学校は依然として、「四年制大学へ一般入試で合格する」ことを前提としたカリキュラムを提供しています。リクルート進学総研の調べによれば、高等学校卒業生の四年制大学進学率は54.3%、私立大学における入試方式別に見た入学者の割合は、一般入試48.4%、それ以外の入試51.6%です。高校卒業生の50%が大学進学、そのうち50%が

一般入試で合格と考えると、「四年制大学へ一般入試で合格する」ことを前提としたカリキュラムでは、4人に1人に対するニーズしか満たしていないこととなります。また、文部科学省が公開している各種の調査・統計からも、現在の高校生が、学びに対する興味関心の希薄さ、将来との関連性が見えないまま授業を受けている現実、受験終了後に剥落する「知」の危険性が読み取れます。これは、生徒の進路実現を十分に図れていないと言わざるを得ない状況です。

総合学科高校は、この課題を解決するために、「自主・自律の精神に基づいた主体的な進路選択」、「一人一人に合った学びと進路実現」ができることを最大の目標にしています。その一番の基本となるのが、「選択科目主体の授業」です。選択科目の内容は普通科目に留まらず、例えば本校であれば、家政・福祉・看護・商業・情報・自然科学などの幅広い専門科目から授業が選択できます。ここでご指摘を受けるのが、「総合学科は、普通教育も専門教育も中途半端である」というご意見です。これは、3年間で社会に出て行く「職業人」を育てる専門学科と、上級学校の専門的な学問領域の導入を学ぶことで、進路意識を高め「満足度が高い進路実現」を目指す総合学科の違いを理解していただければ、ご納得いただけると思います。本校の生徒に対しては、「満足のいく進路選択を実現するためには、まず普通科の上級学校はないという認識を持ち、専門科目を幅広く学び、今から自分の専門性について向き合う努力が必要」という指導をしております。

ただし、「選択科目」が意義のある選択となるためには、選んだ選択科目が、自己の進路希望としっかりとつながりがあることが大切です。そこで、総合学科高校では、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」において、上級学校の理解、職業の理解、社会情勢の理解などを中心に、進路

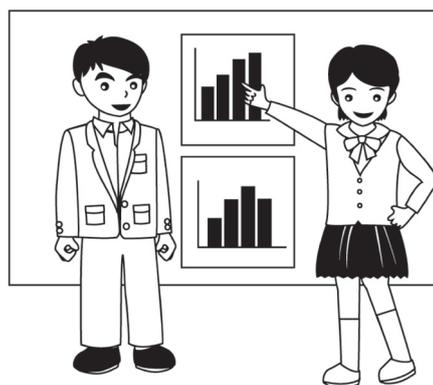


学習を組織的に行い、自己の進路を見据えた科目選びができるよう時間をかけて指導しています。この中には、現役大学生を招いたワークショップや町田商工会議所の協力のもとで行う社会人インタビュー、複数の講演会や外部講師による授業等、外部人材を活用したプログラムを多く取り入れるよう心がけています。進路実現では、商業高校ですと簿記検定や情報処理関連の資格など、上位級に合格する生徒も少なくありません。工業高校ですと、電気工事士や危険物取扱者や消防設備士など、仕事と直結する資格に多数合格しています。こうした資格取得が進学や就職に直結するため、大変大きな強みとなっています。資格取得にそこまで時間を割けませんので、総合学科高校では総合的な学習の時間において、卒業研究を実施しています。これは、今まで学んだ選択科目の知識や技術を活かして、自分の進路や将来の目標に関連した研究テーマを設定し研究を重ね、卒業論文を作成し研究成果についてプレゼンテーションを行う学習です。この研究成果や研究の過程を、四年制大学等の推薦入試やAO入試等においてPRすることにより、高い評価を頂いております。これを総合学科の強みとして活用しています。

もう一つ町田総合高校としての取り組みをご紹介します。本校では、学校生活全てが「キャリア教育」という捉え方をしております。

「体育祭」、「文化祭」、「合唱祭」、「生徒会活動」、「部活動」、「新入生キャンプ」、「小笠原諸島への修学旅行」など、これらはすべて学習の成果を発表する場であり、学習でインプットした知識や技能をアウトプットすることで学力を定着させ、自信と学習意欲を持たせること目的に実施していま

す。このような学校行事や課外活動を中心に、学校生活全体を通して「社会人基礎力」の育成を図ることを目標にしています。総合学科は仕組み上、クラス単位の活動が、年次を重ねるごとに極端に減少していきます。その代わりに、選択科目単位の活動や有志での活動がメインとなり、その中には異学年の生徒同士が関わりを持つことが日常となります。このような場面で生徒に求められる力は、まさに「前に踏み出す力」であり、「考え抜く力」であり、「チームで働く力」です。先生の指示を待って動くのではなく、自分で考え判断し勇気を持って主体的に動く姿勢が不可欠です。この姿勢の原動力となるのが、同じ専門性を高めたいと考える仲間の集まりであるという前提条件です。私はこれまでの実践より、生徒が自尊感情や自己肯定感を持ち、学習意欲を高め、進路実現に向け前向きに努力する姿勢を引き出すために、専門教育はとても重要であると確信していますし、キャリア教育の一層の充実が求められる今日、専門教育の力が、生徒の進路実現を図るために必要であることは疑いようのない事実だと思います。





都立産業技術高専におけるキャリア支援

東京都立産業技術高等専門学校

品川キャンパス教務主事 富永 一利

1 本校の概要

高専の教育システムは大学とは異なり、中学校卒業後の早い年齢段階から5年間（専攻科進学の場合、7年間）一貫の実践的専門教育を行い、産業の生産現場での中堅的な役割を果たすことのできる技術者の育成を目指している。

東京都立産業技術高等専門学校は、平成18年に都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編されて開校した公立高専である。前身校の都立工業高専（現、品川キャンパス）と都立航空工業高専（現、荒川キャンパス）は、昭和37年に経済成長を支える科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成という産業界からの要望に応えるために、全国で初めて設立された高等専門学校である。ただし、都立工業高専は、昭和10年に設立された東京府立電機工業学校まで、また、都立航空工業高専は昭和13年に設立された東京府立航空工業学校まで、その歴史をたどることができ、本校はこの首都東京で80年の永きにわたり、技術者教育の伝統を延々と受け継いできたと言える。

本校の本科は、ものづくり工学科1学科のみで、2キャンパスで8つの教育コースを持ち、全国でも最大規模となっている。特徴としては、1年終了時にコースを選べるコース選択性や、首都東京の問題解決に取り組むための東京工学科目群の設置などがあげられる。また、校内塾による学生への補習体制の強化や、キャリア支援教育など、学生への支援体制も整備されている。

平成20年には、公立大学法人首都大学東京に移管され、首都大学東京や産業技術大学院大学との連携も強化された。

2 本校の就職状況

平成23年度の本科卒業生288名に対し、就職は59%の170名、進学は35%の100名となっている。この比率は近年とほぼ同様の傾向であり大きく変化していない。専攻科は修了生33名に対し就職は48%の16名、大学院への進学は42%の14名となっている。

本校の進路支援は第4学年当初の進路ガイダンスから始まり、夏季休業中のインターンシップによる就業体験を経て、後期開始後の第2回進路ガイダンスから本格的な支援となる。秋季には研修旅行・工場見学において各コースの特色を活かしながら様々な業種の企業、研究所、大学等の見学を行い、学生は広い視野に立って一人一人が自分のキャリアを考える。その後、家庭からの協力を得て、本人・家庭・学校が一体となって進路を決定していく。また、首都大学東京の学生サポートセンターの協力で面接の心構えや対策を行う。その後、第3回進路ガイダンスを実施し、学年末試験終了直後から各自の第一志望の企業や大学について本腰を入れて検討を始める。

就職状況に関しては、平成21年度から求人企業数が大幅に落ち込んだが、平成23年度の状況は品川では660社（昨年度から8%増）、荒川では471社（昨年度から0.4%増）から求人があり、来校された企業数は品川では220社（昨年度から5%増）、荒川では111社（昨年度から13%減）となっており、昨年度と比較しても大きな落ち込みはない。

就職希望者172名に対し、品川キャンパスと荒川キャンパスで延べ1131社からの求人があり、平均で一人当たり6.6社の求人となっている。本校では9月末の内定時期に大多数の学生が内定し、昨年度末の内定状況は、就職支援室で斡旋を行った学生172名中、170名（99%）が内定を頂いている。

3 本校のインターンシップの概要

本科インターンシップに関しては、本校の前身校である工業高専では昭和 50 年頃から近隣の中小企業に工場実習という名で迎え入れていただいていた。また、航空高専では平成 12 年から荒川区の地元企業に学生が派遣され実習が行われた。その後、インターンシップが単位として認定されてからは参加者が増加した。

現在では、学校全体で 105 社の企業から実習を受け入れていただいている。さらに、250 社を上回る受入れ承諾の回答を得ている。

実施時期は 4 年の夏休みで期間は 1 週間から 2 週間となっている。インターンシップへの参加手順は、おおよそ以下の通りであり、

- ①ガイダンス
- ②インターンシップ受入先の紹介
- ③希望実習先の申込
- ④校内面接
- ⑤保険加入・実施前のガイダンス

希望企業の決定においては、志望理由や目的に関して担当教員と十分に面接等を通じて検討する。また実習終了後に報告書を作成し発表会を行う。

平成 23 年度の実績は、品川キャンパスでは 48 社に 77 名の学生を受け入れていただき、荒川キャンパスでは 41 社に 49 名の学生を受け入れていただいた。また、この中には企業以外に研究機関や大学の研究室等も含まれる。

専攻科におけるインターンシップは、本科の就業体験を主体とした目的とは少し異なり、より技術的、工学的体験を通じて企業における研究・開発及び製造現場におけるものづくりを知ることが目的に実施している。対象は専攻科 1 年であり、必修で全員が実施する。実施時期は本科同様夏休みであるが、期間は 2 週間以上で 2 単位となっている。インターンシップ終了後、報告書の作成及び報告会で発表を行う。

4 低学年におけるキャリア教育

本校ではキャリア教育の一環として、低学年の学生向けにワークショップ「カタリ場」を 3 年生対象に実施している。「カタリ場」とは大学生を中心とする主に 20 代の多様な人々の経験談を聴き語り合うことで、これまでの自分を振り返りこれからの新しい自分を描くためのワークショップである。この企画に協力いただいた「NPO カタリバ」は、

- ・幼少期からの様々な直接体験の機会が昔に比べて乏しくなっていること
- ・多様で幅広い人間関係の不足からモデルとすべき生き方を見つけにくいこと
- ・成功体験や自己肯定感の自覚の機会が少ないこと

を補うために、多様な他者と幅広い人間関係を構築する機会を、高校生に提供している。平成 21 年度には、主に東京都と神奈川県 の 80 校でワークショップ・カタリ場を実施した実績をもつ。

平成 24 年 2 月に品川キャンパス 3 年生 159 名に対してワークショップを行った。内容は、「導入」、「先輩の話」、「座談会」、「まとめ」となっており、学生 4～5 名に対してスタッフ 1 名の小グループによるワークショップ活動により濃厚な語り合いが行われた。今回のワークショップではゴール（目標）を以下のようにセッティングした。

- ・将来の働き方へのイメージを広げ、興味を持つ。
- ・自身が納得のいく高専生活をイメージする。
- ・今後の高専生活に向けて具体的な目標をたてる。

カタリ場実施後のアンケート結果から、ゴール達成度評価は、「将来の働き方のイメージは広がり、興味を持つことができたが、納得のいく高専生活の具体的な行動目標を立てることができなかつた」となり、行動目標を立てるためにはもう少し時間が必要と考えられる。このように、学生のキャリア教育に対して、一定の効果が認められたため、平成 24 年度以降も継続して実施する。



“長期”企業連携インターンシップと職業理解

～自らの「生き方」の達成と実現に向けて～

マリールイズ美容専門学校 学校長 江原 美規子

1 はじめに

本校は明治44年マリールイズ女史がヨーロッパの美容技術を掲げ帰国、日本女性の髪を洋髪に変え、今日の美容の基礎を築きました。後に「日本近代美容の母」と呼ばれるようになりました。

大正2年日比谷にマリールイズ美容講習所を創設、昭和4年東京府知事第1号・第2号の認可を受けた101年の歴史を有する”総合的な美容専門学校”であります。

2 新生マリールイズ美容専門学校改変と特色

創設者の「教育理念」の原点に立ち、社会の変化と少子化に対応した総合美容の専門学校として、「スタイリスト」を目指す人材育成に変革を進め、4年目を迎える学校であります。

学校方針は「豊かな人格の上に培う技術」を教育の根幹に据え、進路実現の「夢」を育むことのできる学校として101年の伝統を継承し、教育課程を改変しました。

「6つの基本的方向性に基づく方策」の推進

- ①スキルアップに理想的な少人数制授業の編成。
- ②個性重視と「コース」による専門技術の特化。
- ③入学前による「職業講話」「キャリアガイダンス」を重視し、職種「ミスマッチ」を解消。
- ④長期インターンシップの検証と研鑽を図る。
- ⑤資格修得とコンテスト出場による技術の向上。
- ⑥「人格形成と質の高い技術」を修得し、未来のグローバルな社会に根ざした人材育成。

3 自立した専門職としての人材育成と体験重視

今日の美容業界では美容師になって平均勤務年数1.8年といわれています。

将来の「夢の実現」を美容の世界に求め就職後、5年以内に8割が他業界に進路変更をする実態は指導者として厳しく現状を認識すると共に、業界

として責任を痛感しています。

本来、自ら選択した美容の技術者として、卒業後には専門職を生かし「生き生き」と働いている姿こそが指導者の喜びであり、広くは技術者の養成における業界の「期待」でもあります。

本校はこの課題に向けた新たな取り組みとして1学年40名のマンツーマン指導、これからのグローバルな世界において、美容業界の未来を担う期待される人材の育成、将来の「生き方」に繋がる「進路」を可能にする学校を目指しています。

「本校における教育課程の特色化」

①小人数制によるマンツーマン指導。

専門知識を習得し、インターンシップを通して質の高い技術者育成と特色化を推進している。

②自分スタイルのプロになるコース選択実施。

「国際ヘアスタイリストコース」は、本校独自の観点と知識を生かし、美容技術はもとより、言葉や文化、流行などグローバルな世界を視野に、技術者を育成している。

「ブライダルアーティストコース」は、日本の婚礼支度にとって代表的な「水化粧」と着物の着付けの技術を養成している。

「2コース」を設定し、将来を見据えた自己選択による“個性の伸長”を目指している。

③企業と学校連携における教育活動の実施。

本校の関連企業より「プロのスタイリスト」を迎い入れて「職業講話」を実施、入学者には事前学習として「キャリアガイダンス」を2回実施、体験学習「報告書」を提出させている。

(株)美容マリールイズの理解と協力をえて、目黒雅叙園で行われる学校説明会では、美容室の所属のプロを講師として依頼し、職場の経験談や美容の職業理解を深める「講話」を実施。プロによる「実体験講話」は入学前受講者にとって新しい発見であり、美容の専門職を理解する基盤とな

2 年生前期カリキュラム

	月	火	水	木	金	
1 時限目 9:00～10:00	和服 着付け	カウンセリング	ブライダル ヘア・メイク	コンテスト 演習	インターン シップ	
2 時限目 10:10～11:00	和服 着付け	マナー	ブライダル ヘア・メイク	コンテスト 演習		ブライダル・アーティ ストコース
3 時限目 11:10～12:00	和服 着付け	マナー	ブライダル ヘア・メイク	コンテスト 演習		
4 時限目 12:50～13:40	インターンシップ 自己評価・まとめ	ヘア・アレンジ (アップ)	接客	和化粧	明治神宮内 明治記念館美容室	
5 時限目 13:50～14:40	デザイン	ヘア・アレンジ (アップ)	美容 文化論	和化粧	明治記念館美容室	
6 時限目 14:50～15:40	デザイン	ヘア・アレンジ (アップ)	美容 文化論	和化粧	目黒雅叙園美容室	

企業との長期インターンシップによるカリキュラム

り、自らの進路決定を確実なものとする「意識改革」を図ることに成果を上げている。

さらに、入学前「キャリアガイダンス」を重視することは、職業理解における「ミスマッチ」を解消、退学者を減少させる「動機づけ」に成果をあげる目的をもって、生徒募集と「職業講話」を同時に企画・推進している。



結婚式場のサロンでの実習



職業講話と学校説明会

④「ヘアサロン」や「結婚式場」での、長期インターンシップを経て職業意識の自己確立。

六ヶ月間週一回に至る長期インターンシップでは、自らが体験をすることにより、美容の専門職

を正しく理解すると共に、現場での接客対応など多くの事を自らが学ぶこととなる。

厳しい中に「喜び」を体感、専門技術者の「人格形成の場」となり、自己変革を促し、職人気質が芽生え、学校生活を有意義に過ごしている。

本校は新たな取り組みとして、未来社会を見据えた「OJT」を生かした教育改革にも取り組み、今日に至っている。

4 今後の専修学校に期待されること

国の「日本再生戦略」に専修学校は人材育成の「中核的な教育機関」として明文化された。学習成果の国際的な通用性を確保する「質保証」が技術者養成の学校として見直されたのであります。

今後、専修学校の役割・使命としてのキャリア教育、職業教育の充実と人材育成を目指すことが、専門学校の責務であり、期待されていることである。



昨今の就職支援の現状は？

二葉栄養専門学校就職課 課長 大久保 英夫

最近の最大の懸念事項は、大手企業・法人の採用条件の悪化・求人数の減少にあるところです。

それぞれの業態で厳しい経営環境にさらされている昨今、特に非正規雇用での求人募集が多く見られるようになったことが我々就職を支援する立場の者にとって本当に気掛かりでなりません。

そのような状況下の中で若い学生諸君をどのようにしたら正規雇用での採用内定に至らしめるかが必要にして最大の目標になるかもしれません。

また就職を希望する学生の思いと企業側の仕事に対する要望をどのようにすり合わせていけるかも（マッチング）大事な課題でもあると思われま

す。

さて本校からの就職先企業・法人の選択先を学生にどのように勧めるかですが、大変大ざっぱではありますが、どのような資質の学生がどのような企業に向いているのか簡略に列举してみます。

栄養士科・管理栄養士科の学生

保育園・・・本校では大変希望者が多い就職希望先です。

コックタイプの学生。

調理に関して関心がある学生。

基礎的調理技術を習得している学生。

もちろん子供が大好きな学生。

委託会社（給食関連）・・・色々な仕事を受託しておりますので、積極性があり協調性豊かな学生。

フットワークの軽い学生。

病院・・・専門性を追求しようとする意志が強い学生。

福祉施設・・・ボランティア精神あふれる学生、在学中に出来れば介護ヘルパー二級資格（業態によって必要がある場合）を取得した学生。

調理師科の学生

ホテル・・・安定、ブランド志向、じっくりと技術を習得しようとする希望する学生。

専門店・・・専門料理・技術を早い期間で習得したいと思う学生。

早く料理の職人になりたいと思う学生。

自分で開業を目指す学生。

委託会社（給食関連）・・・ホテル、専門店に比べて時間的・安定的な職場環境を望む学生。

以上のように簡単に区分けをしていますが、本校の学生の就職先は殆どが現業職・現場主体であり、調理の基礎技術・栄養の基礎知識が必要とされる業態となります。

では、どのように、仕事と学生の相性を見極めるのか？と言いますと、就職を希望する学生と相対でしっかりと話し込むことに努めています、非常にアナログですが。

就職支援をする現場では当たり前のことであると思われませんが、この当たり前のことを徹底的に追求していくことこそが、学生との信頼関係を構築しミスマッチの発生をおさえることになると私なりに理解しております。

次に、校外実習・臨地実習での様子です、やはり現場の体験は学生にとって重要な企業選択肢ですし、企業サイドからも大変意義のある学生選択の重要要素であることには間違いありません。

本校としても現場実習には重きを置き、学生には積極的に熱意をもって参加するように指導を徹底しております。

また、企業の採用担当者との話では、ネットをおおいに利用することもあるのですが、メールでのやり取りやパソコン画面だけではなく、学生と直接会ってお互いの思いを収斂させていく機会を出来るだけ多く作りたいとのご意見も多く聞いております。

内定になかなか至らない学生気質（本校の場合）

- 専門学校に入学する学生が卒業したらどのような仕事の付きたいのか明確に目標を定めきれない学生。
- 地元志向が非常に強い学生。
- 自分の就職活動を全て就職支援の担当者に任せってしまう学生。
- メール・ネット世代の為か？電話・手紙でのやり取りが非常に苦手な学生。
- 就職サイトからの企業との接触が多くなった現

在、パソコン画面からエントリーしてしまえば就活をしているという気分になってしまう又は、満足してしまう学生。

- 専門学校に入ることは現場に強い人材になるという意識が希薄な学生。
- 自分から行動を起こさない、起こせない自発性の欠如。
- 自分の殻から抜け出そうとしない学生。
- 複数の人間との係わりを持つとしない学生。
- 面倒なことには関わらないようにする学生。

等々

以上の他にも多くの事例がありますが、特に就職支援を実施するに当たり、このような点にも十分配慮をし、支援を粘り強く実施していくことこそが大切でありましょう。





職業観の基礎を育む中学校技術・家庭科教育

江戸川区立小岩第四中学校 校長 阿久津 勝利

はじめに

中学校では、平成20年3月に改訂された学習指導要領に基づく指導への移行を平成21年から行い、今年度より全面実施をしている。

今回の学習指導要領の改訂は、改正された教育基本法や学校教育法等の規定にのっとり、平成20年1月の中央教育審議会答申を踏まえて行われた。改正学校教育法 第二十一条には、教育基本法第五条第二項に規定する目的を実現するための義務教育の10個の目標が掲げられている。そして、第十項には、「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。」が定められている。これが、小・中学校における進路指導やキャリア教育、さらには職業にかかわる教育を行うことの根拠と考えることができる。

また、中央教育審議会の答申では、中学校技術・家庭科の改善の基本方針として、

○社会の変化に対応し、

「持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。」が掲げられており、

勤労観・職業観を育成することが中学校技術・家庭科の役割の一つであることが明確に示されている。

産業教育に携わる関係者は、義務教育段階で産業や職業にかかわる教育がどのように行われているか、是非知っていただく必要があると考える。

ここでは、中学校技術・家庭科の技術分野における職業観の基礎を育む指導内容について、概説することにする。

1 技術・家庭科 技術分野の目標

学習指導要領では、目標が次のように定められている。

「ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。」

現代社会で活用されている技術は多種多様であるが、この目標からわかるように、中学校技術・家庭科の技術分野では、「材料と加工」「エネルギーの変換」「生物育成」「情報活用」という4つの観点に整理して指導する。

また、生徒に身に付けさせる能力は、

- ・基礎的な知識及び技術
- ・技術と社会や環境とのかかわりの理解
- ・技術を適切に評価し活用する能力と態度となっている。

2 技術分野の指導内容の具体

それぞれの指導内容でどのような学習が行われているか、T社の教科書の目次を紹介する。

材料と加工

1章 材料と加工法

- 1 材料と加工の技術について知ろう
- 2 材料の基本的な性質を調べよう
- 3 製品を丈夫にする工夫を知ろう
- 4 材料に適した加工法を知ろう

2章 製作品の設計・製作

- 1 生活に役立つ製作品を設計しよう
ものづくりを楽しもう
製図
- 2 製作の作業手順を考えて製作しよう
基礎技能
- 3 完成した製作品を評価しよう

3章 材料と加工の技術の評価・活用

- 1 持続可能な社会のための技術について考えよう

他の3つの指導内容についてもほぼ同様な展開で教科書が編集されている。

これらの内容を、中学校3年間ではあるが、わずか87.5時間で指導する。

3 「基礎的な知識及び技術の習得」の指導

男女別の内容で、それぞれ男子だけ、女子だけではあったが315時間もの指導時間のあった時代と違って、それぞれの内容で扱う知識及び技術は、絞り込まれた基礎として厳選されたものとなり、学習指導要領に表現された目標には遠いと感じざるを得ない内容となっているのが現実である。どちらかといえば基礎の基礎を体験するという程度に終わっている。

4 「技術と社会や環境とのかかわりの理解」の指導

高等学校以降の専門教育の基礎となる職業観の育成という観点では大切な指導内容である。授業時数が少ない中では、この内容にかかわる学習活動に十分な時間をかけることは期待できない。生徒が教科書の記述、写真、資料等から考えたり、かかわる事を自ら調べたりする中で興味・関心を高め、望ましい職業観を身に付けていくことが期待される。前述の教科書の記載内容を紹介する。

①技術の発達

技術と産業の発達

農業（食糧生産） 建設業（建物生産）
製造業（製品生産） 産業と技術の発達

②技術と技術者の紹介

- ・ 沖縄の美ら海水族館にある世界最大のアクリル樹脂水槽を製作した香川県のアクリル加工会社
- ・ 金屏風や金蒔絵に使われてきた金箔、金粉の技術を発展させた電解銅粉の製造技術を開発した京都府の金属箔粉の製造会社
- ・ 新幹線をはじめとする鉄道先頭車両のハンマ打ち出しによる板金技術
- ・ 技能五輪国際大会

③製品開発から製造までのプロセス

- ・ 自動車メーカー

④技術と環境

- ・ 環境と資源、暮らしの調和を図った持続可能な社会の構築

⑤生産、作業現場の写真

溶接、鉄骨のボルト接合、プレス加工、林産、レーザー加工、旋削、鋳造、鍛造、耐震実験、車両点検、電力会社、飛行機の整備工場、作物栽培、畜産、養殖、植林、造林、植物工場、バスロケーションシステム、POS、へら絞り加工、きさげ加工、曲げわっぱ製作、製図作業、建設現場

おわりに

「技術を適切に評価し活用する能力と態度」の指導は、今回の改訂で新たに導入された指導内容である。職業観を育成する上でも大事な観点の指導内容である。技術の在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用できる能力をどう育成するか、その指導と評価については実践が始まったばかりであり、今後の研究成果が期待される。



東京の産業界



コミュニケーション力溢れる人財の育成

～考動力ある人材～

株式会社東京都民銀行 取締役頭取 柿崎 昭裕

1 東京の地方銀行として

「首都圏における中小企業の発展と個人のしあわせのために、企業市民として金融サービスを通じ社会に貢献する」

これは、創業以来、当行が掲げる経営理念です。当行は、昭和26年（1951年）12月、戦後の中小企業の金融難を緩和するために、誕生しました。当時は、戦後の不況期で、大企業に比べると信用力や担保力では劣る中小企業は、既存の金融機関から十分な融資を受けることができず、経営もたいへん厳しいものでした。

そのような中で、当行は東京商工会議所、経済同友会、産業界、東京都等各方面の期待と支援を受け設立されました。以来、61年間揺らぐことのない姿勢を貫き、地元、東京で中小企業事業金融を柱とし、お客さまとともに歩んできました。

近年では、インターネットの発展やライフスタイルの変化等により、企業も個人もニーズが多様化し、銀行が果たすべき役割も広がっています。企業からは、資金面だけでなく、新しい仕事や販路、事業提携につながるような情報が求められています。

一方、地元東京に目を向けると、少子高齢化が進展するなか、高度成長期に建設され老朽化していた団地の再生が始まっています。古い団地を中高層のマンションに建て替え、新たに若い世代を呼び込み、高齢化していた街を若返らせる。そして、お年寄りや若いファミリーと一緒に暮らし、自然と交流ができる街に生まれ変わらせようといった街の再生プロジェクトが多摩ニュータウン等で始まっています。そのような取組みに対し、当行も新しいタイプの住宅ローン等を発売し応援しています。今後もいたるところでプロジェクトが動き出すことが予想されるため、地域の実情に合わせた商品の開発を行っていきます。

このように時代時代に合わせて、様々な形で、金融サービスを通じて、東京の発展に貢献していくことが、今後も変わらない当行の使命だと考えています。

2 銀行と教育の係わり合い

ここで、銀行における教育との係わり合いについて考えてみます。

これは二つの側面があると思います。一つ目は「自社の行員の教育」という側面、二つ目は「小学校、中学校等教育現場との関係」という側面です。

まず、一つ目の「自社の行員教育」ですが、銀行の仕事の「出来栄え」は人によるところが大きいため、行員教育が重要になります。

銀行には、昔から三大業務といわれる、預金、融資、為替という業務があります。これに加え、最近では、規制緩和の波、金融自由化の流れにより、証券業務、生命保険、損害保険等、新しい商品・業務が年々増加してきました。新商品等を扱う行員には、複雑な商品の仕組みを理解してお客さまに説明するための知識、お客様一人ひとりのニーズに合わせて、最適な商品を提供するためのコンサルティング能力、年齢も職業も社会的地位も異なる実に様々なお客さまとリレーションを高めるためのコミュニケーションスキルといった「力」が必要で、毎日毎日の勉強が重要になります。当然、すべての行員のスキルアップを図るために、様々な教育プログラムを用意して教育を行っています。

二つ目の「小学校、中学校等教育現場との関係」で考えますと、数年前から金融教育の重要性という問題が大きくクローズアップされています。

これは平成14年に金融庁が公表した「証券市場の改革促進プログラム」による「誰もが投資し

やすい市場の整備の一環として、学校における金融・証券教育の一層の推進を図る」という要請に基づくものです。

これにより、小学校から大学にいたるまで、「金融教育」といわれるものが増えています。例えば、小学校での「お金の役割」といった基礎的なものから大学での専門的なものまで、様々な教育プログラムが用意されています。銀行業界でも夏休み等を利用した小学生のための「銀行見学会」といったイベントを企画したり、中学生には職場体験として、銀行の支店での「業務体験会」を開催したりしています。

特に、最近では、投資信託等リスクのある商品が増加していますし、振り込め詐欺や未公開株詐欺といった金融の場を介した犯罪も増加していることから、すべての人々に正しい金融知識が必要とされており、金融教育の重要性が増しています。「金融」は、普段の生活に密接に結びついているものですが、内容は複雑で詳しく理解している人が少ないのも事実です。したがって、今後ますます「金融教育」の場で銀行の役割が増えていくものと思います。

3 CSR 活動と教育

実は、銀行と教育の係わりは金融教育だけではありません。最近では、CSRの活動が銀行でも増えています。CSRは日本語では企業の社会的責任と訳されます。当行では、「地域経済への貢献」「地域社会への貢献」「環境問題への取組み」の3つの柱を基本に活動を展開しています。

「地域経済への貢献」は、当行が掲げる経営理念そのものですし、前段で述べた金融教育は「地域社会への貢献」の分野にあたります。また当行では、「ECODOMO 定期預金」という定期預金残高の一定相当額を財団法人日本環境協会が運営する「こどもエコクラブ」に寄付しています。寄付金を使った環境イベント等、子供たちの環境教育プログラムに企画段階から参加することにより「環境問題への取組み」の分野において、日本の未来を担う子供たちの環境教育の分野でも、微力ながら協力しています。

4 企業と人材教育

当行は現在、中期経営計画の主要な施策の一つとして「考動力ある人材の育成」を掲げています。行動力を「考動力」と表記するところがミソで、自らが考えて行動し課題を解決できる人材の育成に取り組んでいます。

当行にも、毎年、数十名の新入行員が入行します。希望に胸を膨らませて社会人になるわけですが、一人前になるまでには相当な苦労を重ねます。

なかでも、学生時代にあまり経験したことの無い、世代も価値観も異なる様々な人たちとのコミュニケーションが一番大変なようです。

我々企業も社員教育で一番苦勞することが、世代を超えたコミュニケーション能力を身に付けさせることです。

産業教育として、学校で様々な基礎技術を身に付けることもたいへん重要な事ですが、社会人となった時に、そして家庭を持った時に、実は一番なくてはならない能力がコミュニケーション能力、つまり、「雑談力」だと思います。

これからの難しい時代を生き抜くために必要なものは何かを考えながら、企業と産業教育の連携を図ることが重要だと思います。





未来を担う子どもたちとともに

東京書籍株式会社
常務取締役 編集局次長 渡辺 能理夫

1 教科書づくり 100年の「不易と流行」

当社は、1909（明治42）年に国定教科書の翻刻発行会社として創業しました。「翻刻発行」とは、国（文部省）が編纂した原本通りに教科書を印刷・製造することです。以来100年以上、当社は一貫して教科書の発行を中核事業としてきましたが、その業態は変化を続けてきました。

第二次世界大戦後、国定教科書が廃止されて検定教科書制度が実施されると、当社は企画部（現在の編集局）を設け、自ら教科書の編集を始めました。この時、創立当初の印刷会社から、自ら教科書を編集する出版社へと変身しました。その後、印刷部門を企業分離するとともに、一般図書の出版も始め、名実ともに出版社としての歩みを進めます。さらに、視聴覚教育の発展に伴ってビデオ教材や教育ソフトも発行するようになり、現在では「指導者用デジタル教科書」などのICT事業を大きく発展させようとしています。

「教育は国家百年の計」と言われ、その中で教科書は重要な役割を担っていますから、「不易」の価値を何よりも大切にしなければなりません。一方で、教科書は子どもたちにとって未来への糧でありたいと願っていますので、今の時代の子どもの課題に答えていくという意味で、「流行」を絶えず意識する必要もあると考えています。

この思いは、当社の教科書づくりの基本方針であるとともに、当社の企業としての在り方の基本方針でもあります。当社が企業理念として、「教育と文化を通じて人づくり」を不動の存在意義としつつ、「たえまない挑戦と自己革新」という躍動的な行動規範を掲げているのはそのためです。

2 「確かな学力」と「生きる力」

平成20年に告示された新学習指導要領は、平成23年度の小学校から逐年で実施されてきており、平成25年度の高校入学生から全面実施とな

ります。今回の学習指導要領改訂に当たっては、「確かな学力」が大きな課題とされ、小中高とも各教科の授業時数や学習内容が増やされました。教科書も「質量ともに充実」することが求められ、新しい教科書はページ数が大幅に増加しました。

増えたページは、これからの時代を生きていく子どもたちにとって必要な新しい知識を扱うことに当てられています。その中には、学習指導要領に示された内容を超えた「発展的な学習」も含まれています。その一方で、基礎的・基本的な知識や技能を定着させるための「学び直し」や「繰り返し学習」のためのページも増えています。

しかし、激動する現代にあっては、子どもの時に身に付けた知識や技能が、大人になっても通用するとは限りません。そこで、知識・技能の習得とともに、それらを活用して自ら新しい知識を創り出す力が重要です。それが「生きる力」と言われるもので、特に「思考力」「判断力」「表現力」および「学習意欲」が重視されています。

こうした課題を受けて、新しい教科書では、学習した知識を確認する場面とともに、それをもとに考えたり、話し合ったりして、そのことを自分の言葉で表現する場面を増やしました。教科書に沿って授業を進めることで、考えたり話し合ったりする日々の学習活動が促され、そうした学習を積み重ねることで、子どもたちの「思考力」「判断力」「表現力」が育つことを願っています。

3 「デジタル化・ネットワーク化」の中で

デジタル化・ネットワーク化への対応も、現在の大きな課題ですが、これについては二つの面から述べたいと思います。

第一に、教科書の内容についてです。デジタル化・ネットワーク化が急激に進む時代を生きていく子どもたちが、あふれる情報に振り回されずに主体的に活用できるように、「メディアリテラ

シー」や「情報リテラシー」をいかにして身に付けさせるかは、喫緊の教育課題です。

学習指導要領は、小学校の社会科や中学校の技術・家庭科などで「情報」を大きな項目として取り上げています。また、高校では共通教科「情報」が設置されています。さらに、これらの教科に限らず、他教科を含む学校教育の全課程の中で、情報を活用する能力や態度を育てる配慮が求められています。教科書においても、教科を問わず、日常的な学習の中にメディアリテラシーにつながる要素を意識的に組み込んでいきたいと思えます。

第二は、「デジタル教科書」の開発についてです。デジタル化・ネットワーク化の一層の進展を図る上でも、また必要なりテラシーを育てるためにも、学校教育における ICT 活用の促進が国家的課題とされており、その一環として「デジタル教科書」の普及も進められています。

先生が授業で提示する「指導者用デジタル教科書」は、当社を含む各社の主要教科のものが商品化され、すでに全国の小中学校で活用されつつあります。また、国の「学びのイノベーション」事業において、教科書会社が共同で「児童生徒用デジタル教科書」を開発し、研究指定校での実証研究が行われています。さらに当社は、高校の「生徒用デジタル教科書」の商品化も始めました。

技術面の課題は早晩解決されるでしょう。費用や制度に関する検討は、少し時間を要するかもしれませんが、それ以上に、授業法・指導法の開発や、子どもの学習や成長に与える影響についての研究に、もっと時間が必要だと思えます。

4 未来への「夢」を育てたい

現在、様々な困難な課題が横たわっています。大人も含めて、未来が明るいと思える人は年々減っているようです。

それでも、教科書づくりに携わる人間としては、子どもたちに未来への明るい「夢」を持ってほしいと願っています。自分たちの向かう未来に対する前向きな思い、たくましく生きていこうという意欲、社会に積極的に参画していこうとする態度などを子どもたちが育てていく上で、一助となる教科書をつくりたいと願っています。

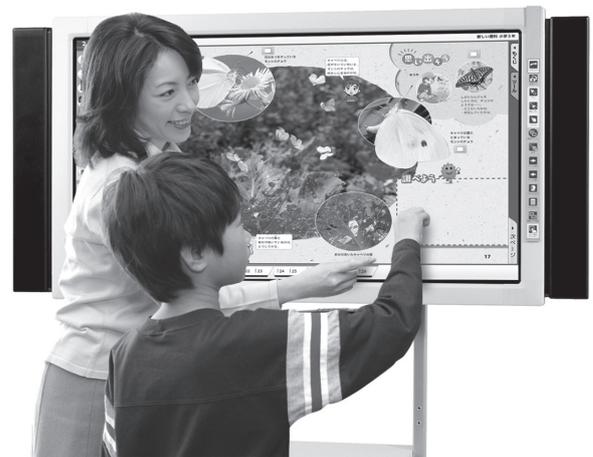
今の教科書には、社会や産業など様々な現場で働く人々が数多く登場しています。「〇〇さんの

話」という現場の生の声を掲載する例が増えています。ものづくりや社会的活動に取り組む人々の生きた言葉を伝えることで、子どもたちに大人への共感や憧れを持ってほしいと考えています。

以前、小学校の社会科の取材で聞いた米づくり農家の方の言葉が印象に残っています。

「よく子どもたちから、『米づくりにはどんな苦労がありますか』と聞かれます。でも我々は、おいしい米をつくるためにはいくらでも努力をするけれど、それを苦労とは感じていないんですよね。」

こんな大人の魅力を子どもたちに伝えていきたいと念じています。



「指導者用デジタル教科書」のイメージ



イノベーション経営

日刊工業新聞社 代表取締役社長 井水 治博

◆世界一の長寿企業国

日本には創業以来100年を超える「長寿企業」が約2万5000社あります。その数は他国を大きく引き離しており、世界で1世紀以上の歴史を積み重ねてきた企業の半分は日本の会社だといわれています。

さらに、創業200年以上の企業が日本には約3000社あります。他国で最も多いドイツでも約1500社で、フランス、英国、オランダがいずれも300社程度で続きます。

日本は世界一の長寿企業国であり、長い期間にわたって持続、発展する企業が多いことは日本の産業界が世界に誇れる長所の一つです。このことは、もっと教育の現場などで広く知られるべきだと思います。

◆秘訣を体系化

日刊工業新聞社は2011年に「100年経営の会」を発足しました。元経済産業事務次官の北畑隆生氏に会長を務めていただき、長寿企業が保有する戦略やノウハウを研究し、体系化しようとしています。

狙いは長寿企業を多数輩出してきた日本型経営の強さをより強くすることです。同時に、研究結果を世界に示して賛同を集め、行き過ぎた市場原理主義の是正にも結びつけようとしています。

100年経営の会は設立から1年あまりの間に、シンポジウムや勉強会などを開催してきました。創業100年を超す企業の経営者の講演や、学識者の研究成果の説明などを見ると、長寿企業に共通する特徴としていくつかの点が挙げられます。



大分県臼杵市での100年経営の会シンポ

◆「100年経営」の共通点

まず、明確な経営理念を持ち、全社員に徹底していること。わかりやすい理念の下に結束してより大きな力を発揮しています。

長期的な経営視点を持っていることも長寿企業に共通します。事業の目的を「顧客満足の提供」「地域社会への貢献」などに置き、それを実現するために事業を継続。目先の利益ばかりを追うのではありません。その結果、顧客や地域にとって「なくてはならない存在」となっていきます。

そして、環境の変化に適応するため絶え間ない革新を繰り返すことが、企業の継続、発展のカギを握ります。不断のイノベーションは長寿企業に欠かせないのです。

100年前の1912年は明治時代の最後の年に当たります。その後は2度の世界大戦を経た後に、ヒト、モノ、カネのグローバル化が一段と進み、大量の情報が通信網を行き交うようになりました。

環境への適応能力が高くなければ、変化が非常に激しかったこの100年間を乗り切れなかったでしょう。長寿企業は伝統の継承と並行して、常に時代に合わせた「革新＝イノベーション」を行っ

ているのです。

◆常識からの脱却

天然の繊維原料に含まれる余分な物を取り除く工程を精練（せいれん）と呼びます。この言葉に由来するセーレンという社名の企業が福井市にあります。

同社の創業は1889年。1970年代以降、貿易摩擦が激しくなる中で対米繊維輸出自主規制、オイルショックに見舞われ、1985年のプラザ合意後の急激な円高にとどめを刺されそうになりました。

存亡の危機を迎えた同社は1988年に策定した経営理念でビジネスモデルの転換を掲げました。「常識」＝「従来の延長」では生き残れないと考えたのです。

それまでの事業形態では常識だと思っていた「賃加工・下請け」から脱却し、自ら「企画・製造・販売」する業態へと転換。非衣料、非繊維分野の事業化に取り組みました。繊維製品の一連の工程のうち染色加工という部分だけを請け負っていましたが、自社の一貫生産体制を構築して市場のニーズに直接触れる立場になるとともに、ITを活用して迅速に適量を生産・供給する仕組みをつくりました。

企業風土、企業文化を大きく変えることをいとわず、改革というより革命と呼ぶ方が適切なほどの変貌を計画し、そしてやりきったのです。

◆「鉄道」ではなく「輸送」

セーレンにとって「革命」前の事業をオールドビジネス、「革命」後の常識を打ち砕いた事業をニュービジネスと分類できます。繊維産業の衰退が始まった1972年度の売上高は127億円で、オールドビジネスが97.3%を占めていました。

それが、2011年度は売上高860億円の規模に成長し、オールドビジネスの割合は10.3%。ニュービジネスが9割近くになりました。

同社の「革命」をけん引する川田達男会長兼社長は、社員の思いこみが企業をダメにした例として、かつて繁栄した米国の鉄道事業者が自動車の登場に直面した際、「自分たちは鉄道の会社」という発想から抜けられなかったことを挙げます。

「自分たちは鉄道事業を手がけているのではな

く、輸送事業を手がけている」と考えれば、むしろ自動車という新しい輸送手段が現れたことを活用して、自動車を取り込んだ新事業でさらなる発展ができたかもしれません。

◆閉塞感を打破

絶え間ないイノベーションを繰り返して事業を維持、発展してきた長寿企業は、改革のノウハウを蓄積しています。社員に経営理念を徹底しベクトルを合わせる経験を積ませているので、動き出した改革をやりきれます。

老舗企業の研究というと、歴史を振り返りノスタルジーにひたっていると受け止められることもあります。しかし、100年経営の会が目指していることは、「これからの100年」に企業が発展を続けるための経営モデルをつくることです。

長寿企業にイノベーションを学び、日本経済を覆う閉塞感を打破することに結びつけ、活力のある社会を築きたいと考えております。



情報スクエア



第10回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
中央区立佃中学校長

加藤 譲司

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

1. 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会
2. 後援 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
3. 日時 平成24年11月10日(土)
平成24年11月17日(土) 食部門
4. 場所 東京都立工芸高等学校
女子栄養大学(食部門)
5. 対象者 東京都内中学校に通学する中学生
6. 内容
 - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(授業内部門・応用部門)
 - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京地区予選
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
 - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
 - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
 - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)

7. 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も10回を数え常連校が増えると同時に各中学校に定着した。毎年ながら会場校の校長先生をはじめ諸先生方には多大なるご理解とご支援をいただいで開催である。そして主開催会場を東京都立工芸高等学校へ移して、4年目の実施となる。その実績と経験

を生かし会場への機材の搬入等の準備が順調に進められた。また作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校のご協力をいただきながら、開催へ向けての準備を進めた。今年度は日程調整の結果、食部門のみ日程を分けて2週に渡っての開催となった。

生徒作品コンクールは、ここ2年間「公立学校美術展覧会」会場から直接搬入したが、東京都美



生徒作品展の様子

術館の工事終了による日程変更となり今年度は各地区で選ばれた作品が直接会場校へ送られてきている。その結果、当日持

参分も含めて各地区相当分の作品は出展されたものの、公美展との関係や選択授業がなくなったことなどのためか総出展数は減ってしまった。

開催のスタッフは、東京都中学校技術・家庭科

研究会事業部員を中心に工芸高校会場40名、女子栄養大学会場で25名の体制で準備を進めた。



調理風景(女子栄養)

8. 開催結果

今年の参加生徒数は、見学の保護者を含めると両会場併せて700名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

＜関東甲信越大会に向けての予選大会＞

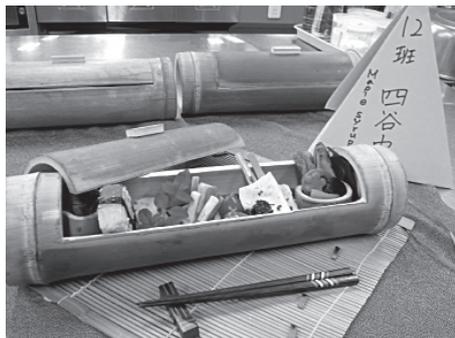
○「創造アイデアロボットコンテスト」の授業内部門：技術・家庭科の授業での取り組みを想定して、モーター3個まで使用したロボットでゴミをかき集め、一定時間内で相手コートにどれだけ送れるかを競う1対1の競技。41名の生徒が参加。応用部門：モーター6個まで使用した大型のロボットで、高さの違う7つのゴールに、アイテムであるバドミントンのシャトルを運び込む対戦型の競技である。置いたアイテム数の多いチームが、そのゴールを獲得する。最終的に獲得ゴールが多いチームの勝ちとなる。126名が参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工道具を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた13名が参加した。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、合計67作品であった。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の審査応募が125チーム321名。選考後、当日の本大会は20チーム50名が参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では事前選考の7校22名の参加であった。



優勝おべんとう

＜東京都ロボットコンテスト＞ モーター2個

◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、格闘型のロボットが主流になっている。

「格闘部門（団体戦）」は、900mm×900mmのリングで1チーム3台（先鋒、中堅、大将）の2足歩行ロボット同士が戦う競技である。2勝した

方が勝ちになる。引き分けの場合は代表戦で勝負を決める。46チーム94台が参加した。

また、「格闘部門（個人戦）」では44チームの参加により競い合った。

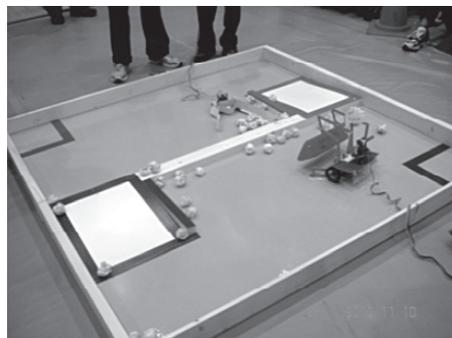


開会式選手宣誓

9. 成果と課題

ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、東京都の中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の本教科に対する認識を深められたと捉えている。しかし、部門によっては、昨年度比での減少がみられた。その背景には今年度より完全実施となった新指導要領により、標準授業時数としての選択授業が消滅したことが要因の一つと考えられる。今後各地区各校において少ない授業

時数（1・2年は週2時間 3年は1時間）の中で、授業内容や取り組み組む実習を工夫改善していくことにより、ものづくりの



新ルール事業内部門

楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。都中技家研としても、来年度のものづくりフェアに向けて、研修を深め生徒一人ひとりにとって更に魅力的な事業となるよう課題設定をすることにより、ものづくりへの興味・関心・意欲を一層高めていきたい。その一環として今回減少した生徒作品展への出品数を増やす方策も検討したい。

開催会場の東京都立工芸高等学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会をはじめ東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと共に充実に結びついており感謝申し上げる。



簿記部、珠算部、ワープロ部の三部が 全国競技大会に出場

東京都立第四商業高等学校長 大林 誠

本校は、昭和15年の創立以来、地域の産業や経済を支える人材育成を目指す学校として今年度で73周年を迎えます。これまで2万人以上の有為な人材をビジネス界に輩出してきました。

本校では硬式野球部やアーチェリー部など多くの運動部が活躍している一方で、簿記部、珠算部、ワープロ部などの商業系文化部も全国大会を目指して活動をしています。

最近の商業系文化部の全国大会出場をまとめると以下のとおりです。

年 度	出場部活動名・その他
平成12年度	簿記部
13年度	珠算部
14年度	簿記部・珠算部
15年度	簿記部・珠算部
16年度	簿記部・珠算部 簿記部は全国大会で団体4位
17年度	簿記部・珠算部・ワープロ部
18年度	珠算部・パソコン部
19年度	出場なし
20年度	出場なし
21年度	出場なし
22年度	簿記部・珠算部
23年度	出場なし

残念ながら、ここ数年は平成22年度を除いて全国大会出場には至らない時期が続いていました。

その中で、今年度は3年生の部員を中心に強い意志で全国大会出場を目標に掲げ、部活動に取り組んだ結果、簿記部、珠算部、ワープロ部の3部が揃って全国大会出場を果たすことができました。3部同時の全国大会出場は平成17年度以来の快挙です。どの部活動も運動系の部活動に比べると少数精鋭での活動ですが、商業科教員の熱心な指導の下、地道な活動をしています。

以下に各部活の活動状況と東京都予選の状況、全国大会に出場した生徒の感想をまとめました。

<第28回 全国高等学校簿記コンクール>

簿記部：

部員は13人。週3回（月・火・金）活動をしている。主に、東京都予選や全国大会の過去問題への取り組みや、日商簿記1級で出題される内容も一部取り入れて勉強している。学校や自宅で問題を解く他、わからないところは、生徒同士で教え合うなどして切磋琢磨してきた。

8校が出場した東京都予選では、惜しくも団体での全国大会出場は逃したが、個人で東京都代表選手に1名が選ばれた。

生徒感想：

私は今回東京都の大会を突破し、初めて簿記コンクールに出場することができました。団体での出場を逃したため、個人で全国大会に出場できると聞いたときには本当に驚きました。

全国大会はとても緊張しましたが、自分なりに頑張ることができたので、良かったと思います。

全国各地から集まった高校生が自分の想像していた以上にたくさんいて、圧倒されました。

また、とても難しい問題だったのにもかかわらず、満点をとった高校生もいて、全国のレベルを痛感しました。良い成績は残せませんでしたが、全国の高校生と対戦する良い経験ができました。



<第59回 全国高等学校珠算・電卓競技大会>

珠算部：

部員は5人。週2回（火・金）活動している。

上級生が下級生に教えるというスタイルで活動している。競技大会では普通計算と応用計算の部門があるが、応用計算は難易度が高いため、特に時間をかけて勉強している。

東京都予選では、団体戦は惜しくも代表を逃したが、個人部門で出場権を得た。代表に選ばれた生徒は、昨年度も数点差で全国大会出場を逃していたため、今回は雪辱を果たした形となった。

生徒感想：

私は、珠算部に入部して三年目で全国大会に出場することができました。全国大会は、約500名が参加するほど規模が大きく、会場の雰囲気に圧倒されてしまいました。しかし、高校生活最後の大きな大会だったので、悔いのないように落ち着いて計算しようと自分に言い聞かせました。結果として入賞することはできませんでしたが、実力を十分発揮できたと思います。全国のレベルの高さを目の当たりにして、更なる実力の向上に努めなければと思い知らされました。

この経験を生かし、今後は後輩を全国大会に出場させるために、できる限りの指導をしていきたいです。また、高校卒業後は、就職先で、珠算で培った集中力や忍耐力を生かして社会に貢献できるよう人になりたいと思っています。

**<第59回 全国高等学校ワープロ競技大会>**

ワープロ部：

部員は5名。週2回（月・木）活動している。

活動の主力は3年生であるが、東京都予選と進路活動の時期が重なってしまったため、練習時間の確保が難しかった。自宅練習も取り入れ、見事に団体優勝を勝ち取ることができた。

生徒感想：

私たちは東京予選を経て、高千穂大学で行われた全国大会へ出場しました。全国大会では、練習中にまず驚いたことは、選手たちが時間を惜しむように、練習に集中している姿です。各チームとも1秒も無駄にしない意気込みで練習する様子を見て、東京代表である私たちとの差を感じました。

また、競技中に感じたことは、キーボードを打つ速度が段違いに早いことでした。ここでも全国のレベルの高さに驚きました。



大会の結果は、団体では40位、個人では100位付近というものでした。上位に入賞した団体は、入力方法の違いではなく、やはり速さの違いでした。日々の練習方法や全国大会にかける思いの違いを感じました。入賞することはできなかったのですが、全国の実力者に挑戦し、自分たちのレベルを知ることができたので、とても良い経験になりました。これを機に自分たちのスキルをさらに磨いていこうと決意しました。

どの部活も残念ながら入賞を果たすことはできませんでしたが、全国との差を知るよい機会になったと思います。上には上がいることを実感し、悔しい思いをしたことは貴重な経験です。

今後は、全国大会で学んだことや経験を下級生に伝えて、これまで以上に地道ではあるが活発な部活動を続けていくことを期待します。最後に今回の全国大会出場に関して、お世話になりました関係者の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



成長をサポートするマイコンカーラリー

東京都立総合工科高等学校 主幹教諭 下山 和弘

1. はじめに

私たちの身の回りの電気製品は、マイコン（マイクロコンピュータ）を組み込み、自動的に動作を制御するものが多い。このマイコンは、産業界において重要な半導体部品のひとつである。半導体業界は高度経済成長を経て、電子立国日本の高度な技術で日本経済を支えてきた。しかし、アジア諸国における技術の進展や価格競争により、日本の技術水準や経済が危ぶまれている。日々進化する技術への対応には、若年者の育成が必要不可欠である。マイコンカーラリーは、有効な育成ツールであり、日本全国の工業系高校生が技術の向上を目指して青春の情熱を注いでいる。

2. マイコンカーラリーとは

ラジコンカーは速さや方向を人間が操作して走行させている。この人間の操作をマイコンで自動制御する車がマイコンカーである。そのためには、車に搭載したセンサがコースを読み取る。それを基にコースの状況をマイコンが判断し、モータを制御して走行させる。ハンドル操作もモータで制御している。これらの制御を上手にやりつつ、規定のコースを走行し、速さを競う。

大会当日にコースが発表される。コースは1周60m程度で、直線や曲線、坂、直角カーブ、レーンチェンジなどで構成され、黒地に白線を引き、センサが路面の色を読み取る。スタートも、センサがゲートを開いたのを感知、確認して、自動

である。早いマシンはこのコースを秒速3mから4mで1周する。この秘訣はプログラムの外、個々のマシンのセンサやモータを制御する電気回路に加え、構造や機構が大きく影響する。マイコンカーの製作には機械・電気・情報の技術が必要な工業の総合実習の教材として、全国の工業系高校生が技術の向上を成し遂げている。

マイコンカーラリーは、全国工業高等学校長協会・北海道工業高等学校長会の主催で、全国大会が毎年1月に北海道札幌市で開催され、今年度で18回目となる。この大会は、札幌近郊の工業高校の先生が「生徒の学習成果を発表する場」として、北海道を中心にスタートした。スタート当時は、先生も生徒も初めてマイコンを扱う人が多く、共に学習する雰囲気生まれた。以来、大会成績や結果の重視ではなく、取り組む姿勢や態度、考え方、課題解決の経験を評価し、生徒の目の輝きと成長を教員がサポートする教育的大会として現在まで受け継がれている。

3. 北海道から全国へ、最後が東京

こうしてマイコンカーラリーは、北海道から4年後には全国11地区へ広まった。ロボット競技会は、費用とモノ、時間をどれだけ費やせるかが勝敗を左右するポイントになるが、この大会は取り組みにおける様々な経験を重視することから、個々の工夫も全体の技術向上のために公開することを積極的に行ってきた。この趣旨に賛同した、(株)日立製作所の半導体部門（現(株)ルネサスエレクトロニクス）から、自社のマイコンを生徒の学習のために現在も提供いただいている。

全国に広がったマイコンカーラリーだが、東京を中心とした南関東地区（東京・神奈川・千葉・山梨）はロボット競技会が数多く開催されていたこともあり、唯一の空白地区であった。

平成10年度末に東京都総合技術教育センター



(現教職員研修センター)で北海道の先生による教員向けマイコンカー製作講習会が開催された。

平成11年6月、当時の勤務校でロボット製作の部活動を行っていた生徒から「マイコンカーラリーが東京にはないので、自分たちが製作して大会に出場したい」という声があがった。彼らはマイコンカーラリーへの出場希望を何度も強く申し出るので、コースの準備や運営補助を手伝うことを条件に、講習会に参加した先生方と試走会を開催した。集まった学校は6校だったが、完走することすらままならない状況であった。

平成12年、本格的に南関東地区大会をスタートさせ、生徒が主体となって準備や運営補助をするよう指導した。生徒は自分たちが発端を作った競技会ということで準備から片付けまで、自発的によく動いた。後輩にもその情熱を徹底して伝え、いつの間にか他校の生徒も一緒になって、大会開催のための活動を進めるようになった。準備での協力体制が仲間意識に繋がり、技術交流も盛んになっていった。地区大会には卒業生が後輩の指導に現れ、地区の先輩として他校の生徒にも技術指導を行っている。この流れは、平成24年で13回目を迎え、地区全体の生徒交流の場として生徒が主体的に技術を磨き、それを公開し、技術者の育成に大いに貢献していると実感している。

4. 生徒主体の競技会

南関東地区では全国に先駆け3つの改革に取り組んだ。1つ目は新人部門の創設である。マイコンカーに取り組む生徒は部活動と課題研究に大別できる。部活動は卒業まで継続的に取り組むことができるが、課題研究は1年間の取り組みである。最初はキットマシンの製作から始める場合が多い。キットをマスターすると、さらに高度な制



御を行うために、オリジナルマシンの設計から始めて、高度な技術を追求する。キットマシンとオリジナルマシンでは、性能に雲泥の差が生じる。南関東地区独自にレギュレーション毎で競技を行い、初めて取り組む生徒が全国大会に出場できるようにした。他地区からの賛同もあり、全国大会ではBASICクラスとして創設された。

2つ目は、1つの学校からの全国大会出場人数の制限である。ロボットの競技会は経験が長いほど技術の蓄積が有利に働く。施設・設備による製作技術にも影響が大きい。全国大会に出場した生徒は学校に戻ってからその様子等を伝えることができる。全国大会を多くの学校が経験できるように学校毎の全国大会への参加人数も制限している。現在では各地区でも人数制限を設けている。

3つ目は、大会中の生徒と教員の棲み分けである。大会要項で生徒が自ら製作したものとあるが、ロボット製作では指導教員の技術力に依存することが多い。そこで、大会期間中は、先生はアドバイス程度しか行えないようにするために生徒控室への立ち入りを制限している。全国大会で、引率教員自身がマシンの調整を行っている報告があったことから、現在は生徒控室の立ち入りは制限されている。地区大会から学校を超えて生徒同士の絆が芽生え、全国大会でも地区の仲間として、問題が生じると互いに協力し、ベストな方法を求め、生徒自ら解決している。

5. まとめ

先の東日本大震災では協賛いただいている、㈱ルネサスエレクトロニクスのマイコンの生産工場が被災し、部品の供給が停止したために、全国のさまざまな分野の工場も長期に渡り、生産停止や縮小といった影響が出た。それでも当初の予測よりも数ヶ月早く回復したが、その背景には、マイコンの取引先企業の社員が支援に回ったからと聞いている。技術者にとって己の技術の追求は当然だが、助け合える仲間作りのためにも協調性やコミュニケーション能力の育成も重要な能力と考える。マイコンカーラリーに出場した生徒は、マイコンカーで得た技術や経験を元にマイコンの業界への進路を選択する者が多いのは南関東地区の特徴である。今後も生徒が主体的に活動できるマイコンカーラリーを発展・継続させていきたい。

第29回全国都市緑化フェア TOKYO に参加して

東京都立瑞穂農芸高等学校 園芸科学科 中里 友紀
大坂 朋美

1 はじめに

本校は、東京都多摩地域西部の自然に囲まれた狭山丘陵を背景に、昭和24年に東京都立農林高等学校定時制課程瑞穂分校として開校し、昭和40年に独立して東京都立瑞穂農芸高等学校となった。設置学科は農業科と家庭科である。農業科として畜産科学科、園芸科学科及び食品科を設置している。また、家庭科として生活デザイン科を設置している。

2 全国都市緑化フェア

全国都市緑化フェアは、都市緑化意識の高揚や都市緑化に関する知識の普及などを図ることを目的に、昭和58年度より毎年開催されている。今年も井の頭恩賜公園等を会場にして、9月29日から10月28日の30日間、「第29回全国都市緑化フェア TOKYO」が行われた。

3 「クラインガルテン」の出典まで

(1) はじめに

都立農業系高校として、上記への出典を依頼され、通常の科目内で実施するのは難しいと考え、3学年の課題研究で実施することとした。課題研究のテーマに、「形に残るものの製作をしたい」と考えて、造園について興味を示していた男子生徒5名にこのテーマを提案した。

(2) 庭園デザインまで

生徒とともに最初に取り組んだのは、「緑化フェア」、「クラインガルテン」とは何かを調べることである。生徒たちには、自分たちが何の目的で、どのようなコンセプトの庭園を製作するのかとしっかりと把握する必要がある。その上で初めて庭園のデザインに取り組む、という手順で研究をすすめた。その過程で提案されてきたのが次の条件である。1) クラインガルテンには小屋、庭、畑が必須である。その中で、庭、畑のデザインと

施工を行う。2) 庭は基本的にはドイツ風でなくてはならない。3) 緑化フェアのテーマゾーンの一部であり、多くの人を訪れる。特に、キッズビレッジの一部に属するので、子供たちに見てもらえる機会も多いと思われる。このような条件を受けて、生徒たちは次のような提案をしてきた。4) 「畑」では野菜と牧草を栽培し、瑞穂農芸の特徴である「畜産」の要素を入れる。5) 「庭園」には牧場をイメージしたものを取り入れ、牧場には家畜のオーナメント等を設置し、見学する人たちの興味をひく。6) 畑や牧場で仕事をした人が小屋で一休みするというテーマにして、小屋から見たときにほっとするような景観を作る。上記のような要素をデザインにしたのが次のものである。

カリキュラムに、造園技術や設計などが無い本校において、デザイン画に取り組むことは初めての経験となった。このような過程を経て、「小屋を起点として牧草地、野菜畑、牧場を散策でき、小屋に戻るとハーブ園を眺められる」という庭園を施工することとなった。牧草地には9月、10月に青葉が望めるライ麦か大麦、牧場は芝を張り柵で囲った中に家畜のオーナメントを、野菜畑には洋風の秋野菜（コールラビやロマネスコなど）を、といった形で具体的に計画し、施工に向けて準備を始めた。

(3) 施工

実際に現地で施工にとりかかれるのは8月以降なので、1学期間は学校の敷地において施工の練習をすることになった。授業で造園技術を学んだことのない生徒にとって、全てが初めてであるがゆえに強い興味を持って取り組むことができ、練習期間を設けられたことはよい機会となった。

いよいよ8月に入り、9月下旬の開幕にむけてプレッシャーのかかる中、施工が始まった。最も労力を要したものが園路施工で、これは幅1m長さが延べ20mにわたるレンガ舗装である。レン

ガで園路を敷き、園路を歩くことで牧場と畑、庭園を散策できるようにという生徒たちの発案である。8月の容赦ない暑さの中、施工初体験の生徒たちであったが誰一人やめようと言い出す者もなく、むしろ回を重ねるごとに改善点や工夫を発見し、効率よく施工を進めていく姿があった。

8月、生徒全員で4日間、その他管理などを含めるとのべ12日間の施工で、園路施工、芝張り、牧草のライ麦の播種と育苗等が終了した。9月に入ってから野菜栽培のための畑の造成とと定植、ハーブ園の施工などに延べ5日間を費やし、無事に瑞穂農芸高校の庭園が仕上がった。牧場に設置を考えていた家畜のオーナメントについては、JA東京植木様の計らいで、子どもが乗ることも可能な木製の頑丈なオーナメントを借りることができ、仕上がりをよくした。また、畜産科学科から古いミルク缶を提供してもらい、きれいに塗りなおして展示。小屋の周りには瑞穂農芸高校園芸科学科の主力生産品でもあるブルーベリーの苗を飾った。どれも提案は生徒からではあったが、このようなオーナメント等の協力がなくては仕上がりに差が出たと思われ、生徒ともども感謝している。

(4) 緑化フェア開幕とその後

フェア開幕後、本校からは園芸科学科全学年において校外学習としてクラインガルテンの見学を実施した。生徒たちがこの庭園を作りあげたという誇りと達成感を、製作にあたった5名だけではなく全員と共有することができた。また、同時に出展しているほかの農業系高校作品や農業関係の大学、造園会社の作品などを目の当たりにし、刺激を受けた生徒も多い。さらに大学の作品を熱心に見入って、大学の先生と交流をもった生徒もいた。課題研究として製作にあたった生徒5名の中には、造園系の会社に進路を決定させた者もあり、卒業後の活躍も楽しみである。

全国都市緑化フェアの活動のほんの一部ではあったが、製作にあたった生徒をはじめ、本校園芸科学科の生徒全体に様々な影響を受ける良い機会となった。

なお、課題研究として製作にあたった生徒5名は、10月のフェア閉幕後、小屋や庭園に使用したハーブなどを持ち帰り本校敷地内に改めて定植し、庭園を再現させる課題に取り組んでいる。今

後、これらの研究成果をパワーポイントにまとめて発表する予定である。

最後に、高校卒業後、農業・環境を志す本校の生徒が、都市緑化フェアに携わることができたことは、大きな自信になったと確信する。この経験を活かし、将来東京、日本全体の緑化活動を主体的かつリーダー的な立場で実践してくれることを期待している。今回は大変貴重な経験となった。





高校生夕張キャンプ第Ⅰ期「農産物の流通等体験」に参加して

東京都立農芸高等学校長 花野 耕一

1 はじめに

高校生夕張キャンプは、東京都の自治体間連携モデル事業の一環として実施したものである。その目的は、北海道及び東京都の高校生を対象として、広く夕張市訪問を呼びかけ、夕張市民との交流を深め、夕張市の自然、歴史、文化、施設、産業等を直接体験することを通して、未来への洞察力、発想力、行動力を培うなど青少年の健全育成の実現に貢献することである。

「北海道夕張市を応援するために何かできないか」という東京都教育委員会からの呼びかけに、都立の商業高校9校、農業高校5校は、夕張市について調査し、商業、農業の専門知識・技能を活かして、夕張市の魅力を表現する様々な企画や商品開発を行った。そして、東京都教育委員会に企画書を提出し、平成24年6月23日、「高校生夕張キャンプ選抜大会」でプレゼンテーションを行った。



高校生夕張キャンプ選抜大会

激戦の結果、都立荒川商業高等学校、都立葛飾商業高等学校、都立園芸高等学校、都立農芸高等学校の4校が高校生夕張キャンプ第Ⅰ期「農産物の流通等体験」の参加校に選ばれた。

私は、平成24年7月23日から27日まで、高校生夕張キャンプ第Ⅰ期「農産物の流通等体験」の団長を仰せつかり、5名の引率教員、5名の事

務局員と共に、都立商業高校生徒15名、都立農業高校生徒20名を引率した。関係各位の御理解と御尽力により、参加生徒は貴重な体験をし、4泊5日の日程を無事に終了することができた。

2 高校生夕張キャンプ第Ⅰ期「農産物の流通等体験」の概要

(1) 高校生夕張キャンプ第Ⅰ期の目的

夕張メロンの流通・販売体験などの夕張市の様々な魅力に触れるとともに、北海道夕張高校生と交流し、夕張市の魅力を表現した商品を開発するための情報収集を図る。

(2) 高校生夕張キャンプ第Ⅰ期の日程

平成24年7月23日(月)～27日(金)4泊5日

(3) 主な訪問場所

北海道物産センター夕張店、夕張ツムラ、JA夕張市、夕張メロン農家、北海道夕張高等学校、石炭博物館等

(4) 宿泊場所

合宿の宿「ひまわり」

3 開会セレモニー



開会セレモニー

開会セレモニーで、生徒は鈴木直道夕張市長、瀬古利彦教育委員、高野敬三理事を始め、多くの

方々から激励の言葉をかけていただき、都立高校の代表としての自覚とキャンプへの参加意欲を高めた。

4 農業体験

6班に分かれ、夕張メロン栽培農家で農作業体験を行った。メロン農家の方々からは、夕張メロン農家としての誇り、夕張メロンにかける思いを語っていただいた。



メロン農家の方々との交流

5 販売体験

道の駅「夕張メロード」で夕張市の農産物や東京都立農業系高校のジャム、クッキー、酸乳等、農産加工品の販売体験を行った。生徒は、夕張市の方々との販売を通して触れ合い、品物を分かりやすく説明する難しさ、商品が売れる喜びなど、多くのことを感じとっていた。



農業高校の生産品の販売体験

6 北海道夕張高等学校との交流

北海道夕張高等学校を訪問し、開会式、夕張高校生徒会による夕張市の紹介、長いも蒸しパン実習、都立高校生による企画発表、グループ交流を行った。グループ交流では、夕張の現状と未来に

ついて語り合った。その様子は、翌日、新聞やテレビで報道された。



グループ交流

7 まとめ

「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、生徒は実際に夕張を訪れてみて、東京で考えた企画や商品開発はさらに改善、工夫が必要であることを痛感した。今後は、現地で得た情報をもとに、夕張の魅力を表現した優れた企画や商品開発を行っていく。

今回の高校生夕張キャンプ第Ⅰ期「農産物の流通等体験」は、商業高校と農業高校の生徒にとって、商業や農業等の産業の意義や役割を改めて理解し、産業や地域社会の発展を図る創造的な資質・能力と実践力を養う機会となった。

また、夕張高校の生徒や夕張市民との交流を深め、夕張の産業等を直接体験することを通して、夕張の課題を解決するための洞察力、発想力、行動力を培うことができた。

さらに、夕張市が財政再生団体として、市民とともに地域の再生と財政の再建を目指して新しいまちづくりに取り組んでいることを実際に学ぶ機会となった。

少子高齢化やグローバル化が進む我が国において、夕張市が抱える課題は、他の地方にとってもいずれは直面する課題である。鈴木直道夕張市長の「ピンチをチャンスに変える」という強い意志と情熱のもとで、夕張市民が再生に向けて挑戦する姿は、次代を担う高校生に感動と勇気を与えてくれた。

おわりに、今回の高校生夕張キャンプでは、夕張の高校生と東京の高校生が友情を深め、21世紀を共に助け合って生きていくという心の絆を結ぶことができた。

第22回全国産業教育フェア—岡山大会

—さんフェア岡山2012—

届けよう 晴れの国から 未来の夢を！

第22回全国産業教育フェア岡山大会(さんフェア岡山2012)が、平成24年11月10日(土)と11日(日)の両日にわたり、岡山県総合グランド体育館(桃太郎アリーナ)をメイン会場に岡山武道館、岡山商科大学附属高校などで開催されました。

総合開会式の桃太郎アリーナ・サブアリーナでは、生徒実行委員の司会進行のもと大会実行委員会会長、文部科学省、岡山県知事、岡山県議会議長のあいさつ、祝辞に続いて生徒実行委員の歓迎のことば、そしてマスコットキャラクター部門、キャッチフレーズ部門の表彰が行われ、生徒実行委員会のオープニングアトラクションが行われました。

このほか、各会場において実習、課題研究で製作した作品の展示や実演。

専門高校等の特色を生かした様々な体験コーナーや小中学生を対象とした子ども達の笑顔でいっぱいのお仕事体験・キッズビジネスタウン。

実習での製品や生産物等、学校生産物などの展示即売会。

日頃の実習などでの生徒作品や研究過程、また感想等についての発表。

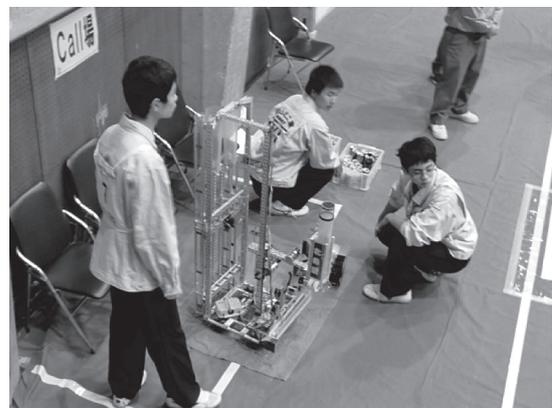
日頃の学習やインターンシップ体験で学んだことや体験したことでの意見や体験の発表。

家庭科生徒を中心としたファッションショーや生徒実行委員と来場者との参加・交流イベント。

農業科を中心とした生徒のフラワーアレンジメントコンテスト。自作ロボットによるロボット競技の全国大会。

企業・大学・短大・専門学校等の紹介、展示実演、知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業に関しての全国の専門高校等生徒による学習成果の発表会など多彩な催し物、発表が行われました。(長)

実行委員会の生徒を中心に参加生徒は日頃の成果を緊張しながらも生き生きと発表していました。(長)



(ロボット競技大会会場の様子)

第54回 全国産業教育振興大会 (岡山大会)

開催日 平成24年11月10日(土) 15:30～17:00

会場 岡山ロイヤルホテル

主催 全国産業教育振興連絡協議会

公益財団法人産業教育振興中央会

第54回全国産業教育振興大会は11月10日(土)岡山ロイヤルホテルで多くの関係者の出席のもと開催されました。

開会の辞、国歌斉唱、あいさつに続いて講演、岡山県津山地域の名物ご当地グルメ「ホルモンうどん」で応援して地域おこしに取り組んでいる津

山ホルモンうどん研究会代表 鈴木 康正 氏を講師に迎え「ご当地グルメでまちづくりひとづくり」の講演がありました。

講演後、大会決議文が協議され採択、最後に次年度開催県として愛知県産業教育振興会よりあいさつがありました。(長)



決 議

専門高校は、専門的職業人の育成・輩出を通じ、我が国の産業・経済・地域社会の発展を支える原動力として大きな役割を果たしてきた。近年、産業を支える人材の高齢化や団塊の世代の退職等に伴って、技術・技能を身に付けた後継者の育成や高齢化社会を支える医療や福祉に関わる人材の育成が強く求められており、専門高校への期待は一層大きいものがある。

しかし、近年の高等学校の再編では、大学進学意欲の高まり等からの普通科偏重や財政上の問題からの専門高校の統廃合や縮減が進むなど、専門高校に対する社会からの期待に応える上からも極めて憂慮すべき状況がある。

今日、我が国は、経済成長の停滞や急激な少子高齢化に伴う労働力人口の減少、さらには東日本大震災の影響等により社会全体の活力が低下している状況にあると言われている。我が国が活力を取り戻し、将来にわたり発展していくためには、将来のスペシャリストを育成する専門高校の充実は不可欠であり、国及び地方公共団体は、その責務として専門高校の一層の整備充実に取り組むことが重要となってくる。

全国産業教育振興会連絡協議会は、専門高校の生徒による第22回全国産業教育フェア岡山大会にあわせ、教育界と産業界の緊密な連携の下、第54回全国産業教育振興大会を開催し、専門高校・産業教育の一層の充実に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを表明する。

- 一、専門分野での基礎・基本を重視した先端的、伝統的な知識、技術・技能の習得のための教育内容の充実。各種検定試験等の積極的な活用や生徒が取り組む各種発表会・競技会等への支援。
- 一、職業人としての規範意識、コミュニケーション能力、実践的な能力を身に付けるための企業等における長期インターンシップ（就業体験）の推進など、特色ある教育活動への支援。
- 一、地域自主戦略交付金の積極的活用による実験・実習施設・設備の整備及び東日本大震災被災校に対する実験・実習施設・設備等の早急な整備支援。生徒の専門性向上に資する少人数指導に対応した教職員定数の改善及び教職員の研修機会の確保。「専門教科・科目」担当教員の養成及び採用の拡充。
- 一、専門高校卒業生の採用枠の確保・拡大及び地域による格差是正、女子の採用促進など就職支援の充実。
- 一、大学入試における専門高校の特性を踏まえた「専門教科・科目」の入試問題への導入・拡大及び各種資格・検定の取得を評価した多様な入学者選抜の実施・拡充。
- 一、専門高校専攻科での学修を大学等の単位として認定する制度及び専門高校専攻科（2年課程）修了に伴う国家資格取得者（看護師、海技士等）の大学等編入学制度の早期実現。
- 一、専門高校への幅広い理解・啓発を図る全国産業教育フェア等の充実。保護者の経済的負担軽減を図るための通学費や専門教科教科書、教材費などへの就学支援策の充実。

以上決議する。

平成24年11月10日

第54回全国産業教育振興大会（岡山大会）

報 告

平成24年度 総会・功労企業表彰 報告

平成24年度総会・功労企業表彰及び講演会が6月8日（金）午後2時から、BIZ新宿（新宿区立産業会館）において開催されました。

来賓として（財）産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立中学校長会副会長の室賀薫様（練馬区立光が丘第三中学校長）をお迎えしました。

開会にあたり、西澤宏繁会長から「都産振は、産業界、各学校、都教委の三者が協力して職業関連教育の充実を図ろうとする組織である。普通科偏重の世だが、なんとしても産業教育を推進して行く。当会では会報・会誌の発行、また作文コンクールを通じて夢や希望を語り、暗いニュースばかりの世の中ですが、明日の日本を背負う生徒を育てて行きたい。地道にそしてささやかではあるが産業教育の活動を推進していきたいと思う。この総会で忌憚のないご意見等を頂き、会の充実発展に頑張っていきたい。」との挨拶がありました。

引き続き、常任理事の直原裕都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

本会は、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて、大きな成果を挙げてきた。これはお集まりの皆様のご尽力によるものであり、感謝申し上げる。都教委は平成9年度以降、科学技術の進歩・産業構造の変化・国際化や情報化等の進展に対応し、「科学技術高校」「産業高校」「ビジネスコミュニケーション科」など、専門高校を設置し都民の多様なニーズに応えてきた。しかし近年、わが国の社会経済状況はグローバル化などにより益々厳しさを増し、若者の意識も変容するなど状況は変化している。この様な状況を踏まえ、本年2月、都教委では10年間の長期計画である「都立高校改革推進計画」を改めて策定し、「生徒一人ひとりの潜在能力を顕在化して伸ばす教育の実践」を基本的な考え方として、施策を展開していくこととした。本日の総会でご意見・ご指導をいただければ幸いです。

来賓を代表して中山淑廣様より挨拶を頂いた後、西澤会長を議長として、事務局から6議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました。

（総会資料等承認議案は会員企業・学校等に配布済みです。）

本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁（留任）
副 会 長 久保村昭衛（留任）
同 金子 昌男（留任）
同 石井 末勝（新任）
（東京都立六郷工科高等学校長）
理 事 長 大原 正行（留任）
常任理事 直原 裕（留任）
同 藤本 龍夫（留任）

総会終了後、産業界会員功労者（永年会員）の表彰が行われました。

本年度の表彰企業は次の1社でした。

○株式会社 川邑研究所（目黒区）

出席された、代表取締役 川邑正弘氏に、西澤会長から感謝状と記念品が手渡されました。また川邑氏から研究所の業務や取り扱い製品等の紹介と感謝の意が述べられました。（山）



川邑正弘氏（右）と西澤会長



講演会・講演要旨「宇宙と私たちの暮らし」

講師：間宮 馨 氏

財団法人日本宇宙フォーラム 理事長

ご紹介に預かりました財団法人日本宇宙フォーラム理事長の間宮でございます。このような場所で、皆様のような立派な方にお話できることをとても光栄に思っております。

私は、宇宙をやりたくて大学を選び、宇宙をやりたくて、科学技術庁を選びました。宇宙開発事業団（現在のJAXA）の監督をしたり、「きぼう」を作るためにNASAと交渉をしたりしました。その後、JAXAの副理事長を5年務めて4年前に日本宇宙フォーラムに移りました。

その間、一般の方は宇宙に関心はあるけれども、どうやって近付いたらいいかわからない、置き去りにされた状態にあると感じていました。そこでフォーラムに来てからは、「宇宙という難しい領域」と、「受益者たる一般の方」との橋渡しをしたいと思い、いろいろな事業を展開してきました。

今日は、日本の宇宙技術、世界における日本の位置付け、暮らしの中の宇宙技術、「教育」への期待等についてお話しします。

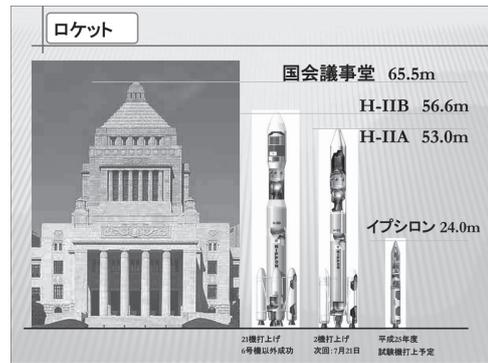
【日本の宇宙技術と世界での位置づけ】

今使っているロケットは、H-IIAとH-IIBです。来年打ち上げられるイプシロンは、小型衛星を打ち上げるものです。国の衛星は、全てH-IIAで打ち上げております。後で出てきますけれども、物資をステーションに輸送する「こうのとり」を打ち上げる専用ロケットがH-IIBで、H-IIAのエンジンを2つ束ねて、能力を倍にしたロケットです。世界でも最大級のものです

イプシロンは、ロケットを一種のインテリジェント化して、自分で必要に応じて不具合を判断できるようになったロケットをモバイル管制をして、数人がパソコンで打ち上げるようになります。

次に、世界のロケット比較ですが、H-IIAは能力的には「アリアン」の半分ぐらいですが、成功率は95.2%で、信頼性は十分あります。打上げ値段が高いので、国際競争力が少し劣っていますが、三菱重工が何とか半額にしようと頑張っています。

実用衛星としては「だいち」「きく8号」「いぶき」



ロケット（国会議事堂とロケットの比較）

「みちびき」があります。

「だいち」地球観測衛星です。5年間で650万枚という膨大な画像を送ってきております。2.5m以上のものを識別する能力があり、東日本大震災を含む世界中の多くの災害対応で活躍しました。

「きく8号」は技術試験衛星シリーズのほぼ最後の衛星で、移動体通信のために打ち上げられました。災害で地上局が皆やられたら、頼みは衛星のみになります。東日本大震災のときも、インターネット接続で、現地と東京都を結ぶチャンネルを確保しました。

温室効果ガス測定技術衛星「いぶき」は、100分ごとに地球上の5万6千点を観測できます。将来的には大陸レベルや国レベルで、どこがどの程度、炭酸ガスを出しているのかがわかるようになる、世界で初めての衛星です。

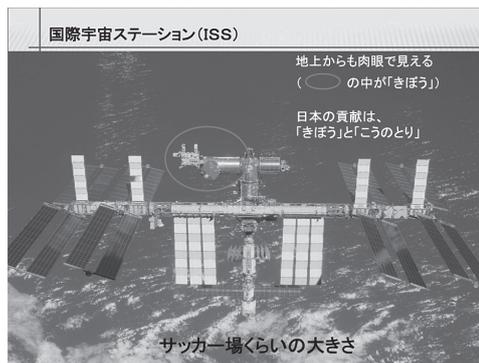
準天頂衛星「みちびき」は今1機しかありません。3機上げると、8時間ごとに順番に日本の上に衛星が来るわけです。3機揃えば、GPSで10mの誤差が1m以下になります。精度が上がり、耕運機やトラクタなどの自動制御も可能になります。

科学衛星としては、「すざく」、「あかり」、「ひので」があります。「すざく」は、X線天文衛星です。「あかり」は赤外線天文衛星です。星の誕生する現場の観察ができ、ガスが充満している中から星が生まれつつあるところを見つけました。

太陽観測衛星「ひので」は太陽を見る衛星ですが、可視光、紫外線、X線を3つ併せて見られ、太陽表面よりも200倍も温度が高いコロナについて、何故



太陽観測衛星「ひので」



国際宇宙ステーション (ISS)

そんなに温度が上がるのかは謎なのですが、それを解明するきっかけを探っているところです。

月・惑星探査機には、「かぐや」「あかつき」「はやぶさ」の3つがあります。

アポロは月に行きましたが、人が行くことが目的であって、科学観測はしていません。月のことは何にもわかっていないのです。月の本格的な観測は「かぐや」が初めてです。金星探査機「あかつき」は、金星大気を観測しようと打ち上げましたが、金星周回軌道投入に失敗。軌道修正等を行い、2015年にもう一度金星に近付くので、軌道投入をしようと思っています。

「はやぶさ」につきましては、最近立て続けに3本映画ができ、大まかなストーリーはお分かりだと思います。「はやぶさ」は7年間、60億kmの旅をしたわけですが、本当に絶え間ないトラブル続きでした。しかし7年ぶりに地球に戻ってきて、小惑星「イトカワ」の試料が入ったカプセルを分離しました。太陽系の起源に迫る成果を出すべく今でも世界中で研究しています。

「はやぶさ」から我々が得た教訓は、まず①高い目標を持つ②怯まないで勇気を持って挑戦する③何度失敗しても成功するまでは決してあきらめない根性を持つということ。これは、企業や教育の現場でも活かせると思っています。

次に有人宇宙活動ですが、日本人の宇宙飛行士は

切れ目なく宇宙に滞在していて、その結果、滞在時間の総計で日本はロシアとアメリカに次いで3番目です。これはたいへんな財産で、今後の日本の宇宙開発利用に大いに役立つものです。

今飛んでいる国際宇宙ステーション (ISS) を近くから撮影したもので、地上からでもよく見えます。「きぼう」というのは日本の実験棟で、大型バスぐらいの大きさです。

ISSに荷物を運ぶものの1つに日本の「こうのとり」があります。これは、「きぼう」と同じように、大型バス1台分ぐらいの大きさで、将来は小動物や人を運ぶかもしれません。

残った課題は帰還技術・回収技術ですが、実は回収に関しては400kmから帰ってくるよりもはるかに難しい技術を「はやぶさ」で獲得していますので、そう難しくはありません。

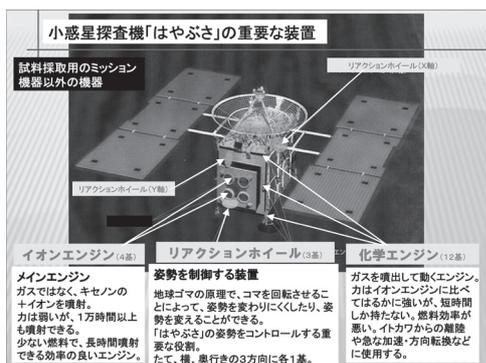
【暮らしの中の宇宙技術】

宇宙技術を直接利用する分野としては、通信、放送、気象というのが典型的ですが、最近は地球観測と測位が加わりました。

朝起きてテレビで観る天気予報には、「ひまわり」がほとんどのデータを提供しています。また、カーナビでどこに行くかチェックをする、携帯で位置ゲームをすると、グーグルで画面に実際の画像が出てきますが、衛星の画像を使っています。また、航路の確保や衛星電話も、衛星を使います。夜になればCS、BSで娯楽を楽しんでいます。

間接的にも建物の下にゴムと鉄のばねを入れた免震構造や瞬時に膨らまない間に合わないエアバックも宇宙技術を使っているのです。切らずに果物の甘さや酸度を測る技術も近赤外線を利用した宇宙技術です。

また宇宙フォーラムは、宇宙技術と一般の人とのつながりを強化する活動をしています。ロケットの先端部に塗られた塗料は、+600℃までの高温から精密な人工衛星を守っています。この技術を建材等に利用すれば、夏は涼しく冬暖かく電気が大いに節約



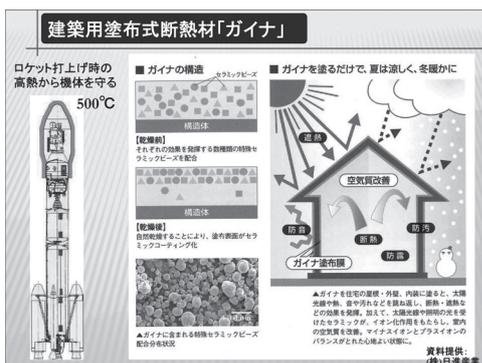
小惑星探査機「はやぶさ」の重要な装置

できます。宇宙フォーラムは、このようにして開発された断熱塗料「ガイナ」の販売を応援しています。

またGPSや「みちびき」が発信する位置情報は屋根で止まるので、屋内や地下街には入って来ません。したがって、屋内や地下街は、位置情報に関しては真っ暗闇です。それを明るくしようと二次発信源を天井に埋め込んで、そこから「緯度、経度、階数」を発信する「IMES」(インドア・メッセージング・システム)を実用化したいと考えています。ある人がある部屋でSOSを発した場合、今は消防車や警察がビルに来て、そのビルの中のどこにいるのかは分からないので、助けようがありません。しかし、このシステムが入ると、ビルの何階のどの部屋にいるのかわかるのです。今、これを二子玉川のショッピングセンターの全館で実証試験しています。ある人が地下街のある店の前に行くと、ピンポンと携帯が鳴り、その店でこういう特売をしているという情報が入ってくる。緊急時も役に立つし、日常でも役に立ちます。

7月21日に「このとり」の3号機が上がります。ハイビジョンカメラ2台がISSに取り付けられて、24時間365日地表を舐めて撮影します。リアルタイムの画像が皆さんのお手元にそのまま届くようなシステムを、宇宙フォーラムが3年かけて開発しました。9月頃から運用に入る予定です。全世界の500箇所に一瞬にして画像を送るシステムができています。教育やビジネスでの使い方に関して意見をいただいて、それを実現する方向で考えていますので、是非ご協力いただきたいと思っています。

Space-i と称して、毎月1回宇宙に関する旬な情報を、宇宙フォーラムが無料で全国の科学館に発送しています。非常に喜ばれており、東京都内の科学館も利用しています。現在は宇宙だけの情報を載せていますが、これを全科学技術に拡大していき、『Space i』を『Science i』にしたいと思っています。これには研究開発機関の情報、企業の新製品等の情報、科学館側が喜ぶ情報を何でも載せたいと思っています。



建築用塗布式断熱材「ガイナ」

相乗り小型衛星については、都立産業技術高等専門学校が1回利用して打ち上げた実績があります。いつでも応募できますし、採用されれば一番直近で打ち上げてもらえますので、チャレンジをしていただけだと思います。宇宙フォーラムは事務局をしており、技術的なご相談等ご協力できると思います。

【教育への期待】

優れた資質を持つ日本人の能力を開花させるため、教育が非常に大きな役割を果たすべきと思っています。教育においては子どもの心に火をつけなければならぬわけですが、火をつけるのには、宇宙というのは非常に良い素材ではないかと考えております。

私は、40年近く宇宙に携わってきましたが、最初に学んだのが、「宇宙開発のやり方」です。そのやり方とは、まず、1番目に目標を設定し、2番目に必要な手段を抽出し、3番目に手段を組み合わせながら達成時期までに目標達成が出来るような線表を作り、4番目に、作った線表通りに実行すると言うものです。

ここで最も重要なのが、「目標設定」です。ケネディ大統領が「1960年代末までに月に人を送る」と決めたように「具体的な目標」と「達成時期」を決めることです。ここで言う目標とは「ある時点における状態の規定」です。「状態の規定」とは、誰もが間違いなく受けとめられる規定の仕方、あいまいさがない状態、のことでこれが目標です。このやり方はどこにでも使えます。是非、教育現場の中で、このやり方を導入していただきたい。目標を達成する計画を作るといふ努力があって、それを実現するという事で得られる達成感が人を大きく成長させます。

もう一つは、「本物体験」です、本物は非常にインパクトが大きいので、何かを考え直すというきっかけになります。特に挑戦しようという気持ちが育つと思います。宇宙の例で言えば、実際にいろいろな施設がありますが、筑波宇宙センターへ行ってみれば、ロケットはいかに巨大なものであるかとか、実験室がまたさまざま大きいものであることを実感できます。一番いいのは小型衛星の製作・打ち上げで、これは本当にはらはらドキドキの経験ができますし、今までやったことがないことをすべてやらなくてはいけなくなるので、自分で気が付かなかった能力が開花します。これは宇宙だけではなく、他の分野でも同じだと思います。今後、是非導入し、生徒達に挑戦の機会を与えてやっていただきたいと思っています。

ご清聴、どうもありがとうございました。(山)

(質疑応答が活発に行われましたが、割愛しました)

平成 24 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成 24 年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」に対する表彰式を平成 24 年 11 月 19 日に都庁第二本庁舎 31 階特別会議室で行いました。

表彰式では、西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が渡されました。会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して直原裕教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて公益財団法人産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、丹藤浩東京都公立高等学校長協会長、堀米孝尚東京都中学校長会長の 3 名のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都農芸高等学校花野耕一校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、御下賜金記念産業教育功労者 23 名中 18 名、中学校技術・家庭科教育功労者 7 名中 6 名でした。(長)

受賞者は次の方々です。

I 御下賜金記念産業教育功労者

(敬称略・順不同)

東京都立農芸高等学校	統括校長	花 野 耕 一
東京都立赤羽商業高等学校	校 長	渡 邊 淳 子
東京都立総合工科高等学校	校 長	森 健
東京都立園芸高等学校	校 長	千 谷 順一郎
東京都立総合工科高等学校	主任教諭	小 林 尚
東京都立総合工科高等学校	専修実習助手	市 川 辰 夫
東京都立総合工科高等学校	非常勤講師	太 田 智 子
東京都立蔵前工業高等学校	主任教諭	小 林 紀 仁
東京都立蔵前工業高等学校	教 諭	坂 本 篤
東京都立墨田工業高等学校	主任教諭	大久保 健
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	田 中 敬 司
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	古 川 純 一
東京都立園芸高等学校	主幹教諭	庭 野 省 三
東京都立園芸高等学校	主任教諭	安 永 福太郎
東京都立農業高等学校	主幹教諭	金 子 淳 一
愛国高等学校	副 校 長	高 橋 英 夫
岩倉高等学校	教 諭	伊 勢 嘉 明
岩倉高等学校	教 諭	鈴 木 好 男
大森学園高等学校	教 諭	齋 藤 幸 男
昭和第一学園高等学校	教 諭	北 田 実
昭和第一学園高等学校	教 諭	武 田 秀 雄
安田学園高等学校	教 諭	沖 山 一 成
安田学園高等学校	書 記	石 田 信 之

II 中学校技術・家庭科教育功労者

羽村市立羽村第一中学校	校 長	吉 田 哲 三
墨田区立本所中学校	副 校 長	幸 丸 滋

荒川区立第一中学校
江戸川区立松江第一中学校
新宿区立西早稲田中学校
武蔵野市立第五中学校
狛江市立狛江第三中学校

副校長
主幹教諭
主幹教諭
主任教諭
主任教諭

佐藤 栄一郎
升井 英雄
勝間田 稔
齋藤 友康
谷口 久美子



平成24年度 東京都産業教育振興会後援事業

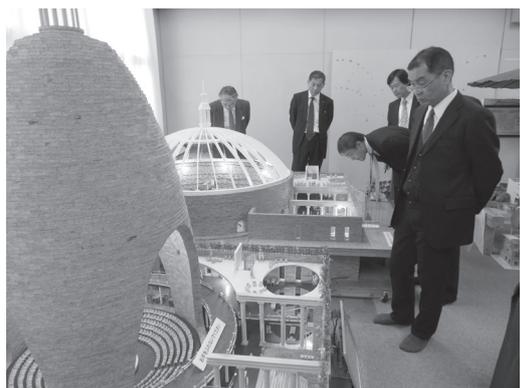
下記の団体に対し後援を行い、状況は以下の通りであった。

	対象事業	開催期間	実施場所	参加者数
1	第28回葛飾区産業フェア ○工業・商業・観光展	10月 19日～21日	テクノプラザかつしか、 城東地域中小企業振興センター	94,000
	○農業・伝統産業展	10月 26日～28日	テクノプラザかつしか	
2	第55回全国自動車教育研究大会（東京大会）	10月 18日～19日	セミナーハウス 「クロス・ウェーブ府中」	100
3	平成24年度第19回東京都高等学校工業科生徒 研究成果発表大会	11月23日	東京都立総合工科高等学校 2階 視聴覚室	100
4	第10回創造ものづくりフェア in TOKYO	11月17日	東京都立工芸高等学校	300
5	第13回全国中学生創造ものづくり教育フェア 関東甲信越地区大会東京大会	12月2日	東京都府中市立府中第二中学校	300
6	第13回全国中学生創造ものづくり教育フェア	1月26日～27日	新木場タワー、女子栄養大学 及び中央区立佃中学校	11,000

平成24年度 産学懇談会

平成24.11.8(木)午後1時より都立蔵前工業高等学校において、平成24年度の産学懇談会を実施いたしました。始めに会場校の授業と施設見学を行い、懇談会場にて見学を踏まえた説明が行われました。

【授業及び施設見学】



その後、参加されました皆様から次のようなご感想をいただきました。

○実習費用など恵まれた学校。都内屈指の恵まれた学校ではないかと思う。資格をたくさん取得させている。先生方が率先して指導している姿を見ることができた。

○生徒が生き生きし、先生が自信を持って指導していると感じた。感動こそが成長につながると思う。

○廊下がピカピカ、表示も良い。教師の姿勢、安全面、建築での夢、資格取得表示良い。先生のプライドを感じた。専門高校の良さがある。

○手を動かしながらの子どもの成長を感じられるのが良い。この10年位で資格取得が注目され始めてきたのではないか。

○手作りの良さ、手で確認していく良さが印象に残った。

○実習が多く工業高校ならではの専門科目が多い。思い切った教育課程を作成できている。配分された限られた予算で頑張っている学校だと感じた。

○資格取得はモチベーション維持には良い。生徒が良い顔をしている。寝ている生徒がほとんどいない。

○清掃がきれいに行き届いている。誰が清掃しているのかと思うほどである。校長以下真剣にやっているということを実



感じた。10月の時点では就職が決まっているとのことだが、環境を考えるとその設備は重要である。より多くの生徒をものづくりの世界へ導いてほしい。

ご感想などに続き、以下のような意見交換がなされました。

○中学校では技術・家庭科の時間数が少なくなっている。また今は周囲にあるものがブラックボックスになっている。便利さとともに「危険」に対しての指導がされているのがわかった。

○15・16歳の教育では道具を使う感覚が大切であり、重要な時期である。そこでの教育の在り方をもう一度考える必要があるのではないか。生徒募集段階で希望者が押しかけるような対策、「大学を出れば」の価値は終わってきていると思う。日本の教育の在り方について再度考えていく時期だと思う。



○良い雰囲気である。好きなことをやり、資格を取得し就職につながる環境が大切である。現在の私的資格を公的資格に格上げする方策はないものだろうか。

○学校の施設や設備を使ってもらおう工夫。教員の身分と問題等あり難しいかもしれないが産学協同センターなどを作り、これをかませて行くなど出来ないか。

○産業界には技能オリンピックというのがある。金・銀メダルが多いときは景気もいいが最近は少ない。実業高校は40%から20%に減少しているが、ものづくりの匠をつくる必要がある。

○メカトロニクスは日本のものづくりが世界に勝ち抜く分野ではないか。こういうところに重点化を行政の方で面倒を見てほしい。募集人数など日本を強くして行くという視点で重点化を変えていくことが重要だと思う。

○CADはきれいな製作図ができるが、ベテランの手書き図面はさらに上の視点の違いがある。手書き図面は苦労の上でも力が備わる。高校時代は原理・原則にのっとった学習が大切なのは。

○ベテラン技能者を取り入れての教育などの工夫が、学校教育、工業教育に必要であるとする。

○産業界との交流として年間カリキュラムなどに導入できるのか。ニーズにあった公開講座の設計や地域との連携は行っている。

○台東区の学校運営協議会において、2人の教諭が企業訪問を行った。これが生徒のインターンシップにもつなり、企業から学校に講師として行ってほしいという動きになった。

ご参加いただきました皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、会場をご提供くださいました都立蔵前工業高等学校の豊田校長先生、金子副校長先生をはじめ、教職員の皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。(生)



平成24年度「作文コンクール」入選者一覧と最優秀作品

今年度の「作文コンクール」の応募者数は、中学校の部が40校159名、高等学校の部は18校94名、専修学校の部は3校21名で、総数61校274名でした。

昨年度に比べ中学校の部は4名、専修学校の部は3名増加しましたが、高校の部は3名の減で、全体で4名約1%の増でした。来年度も更に都産振の作文コンクールをPRし、各学校での取り組みをお願いしていく必要があります。

応募作文は、各部の選考委員による第一次選考を経て、約18%、50作品が第二次選考にあがりました。第二次選考は、高校・専修の部が10月29日に、中学校の部は10月30日に行われました。厳正な選考の結果中学校の部は最優秀賞：1、優秀賞：3、佳作：19の23名入選（約14%）、高校・専修の部からは最優秀賞：1、優秀賞：4、佳作：13、計18名（約17%）が入選され、中学校の部及び高校・専修の部の総計の入選者数は41名（約15%）となりました。

入選者に対する表彰式は12月21日に選考委員、本会役員、東京都教育庁管理職等の出席を得て、東京都庁第二本庁舎10階の201・202会議室において行われました。（生）

入選者は以下の通りです。

中 学 校 の 部

最優秀賞	僕と本のパートナー	世田谷区立喜多見中学校	2年	沖山 慎之介
優 秀 賞	学習に対しての心構え	足立区立第六中学校	3年	齋藤 真由
優 秀 賞	「うれしさ」というやりがい	東京都立大泉高等学校附属中学校	3年	小野 真悠子
優 秀 賞	伝統芸能「能」を通じて	筑波大学附属中学校	1年	藤波 重紀
佳 作	将来の夢	愛国中学校	3年	加藤 瞳依
佳 作	ふれあい	千代田区立神田一橋中学校	2年	實松 虎太郎
佳 作	あのとき、あの場所で仕事をして	中央区立晴海中学校	3年	光武 晴香
佳 作	とっておきの夢	中央区立晴海中学校	3年	神谷 咲
佳 作	和紙のうち作りを体験して	港区立朝日中学校	1年	岡下 湖都音
佳 作	集団教育の大切さ	文京区立第六中学校	3年	高木 りさ
佳 作	将来の夢	墨田区立両国中学校	2年	佐藤 ちひろ
佳 作	ものづくりの楽しさ	江東区立有明中学校	2年	半谷 雅
佳 作	ものづくりの喜び	江東区立有明中学校	2年	鳥山 翔平
佳 作	私の夢	品川区立日野中学校	3年	光島 舞
佳 作	未来	品川区立日野中学校	3年	並木 瑠璃
佳 作	私の将来の夢	目黒区立第八中学校	2年	立堀 華奈子
佳 作	夢に向かって	目黒区立第十中学校	1年	小野 眞高
佳 作	一つの繋がりの中で	大田区立羽田中学校	3年	小林 真穂
佳 作	夢の実現に向けて	中野区立中野中学校	2年	川本 りな

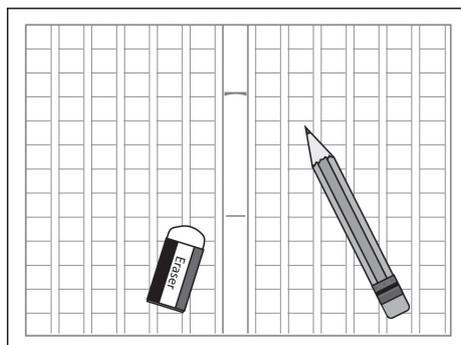
佳作	技術・家庭科分野	足立区立第六中学校	3年	荒木	菜々実
佳作	誰かのために思って	足立区立第七中学校	3年	鈴木	詩織
佳作	作ることの喜び、ものづくりの喜び	足立区立第十二中学校	3年	奥山	翔太郎
佳作	生きがいとなるもの	調布市立第四中学校	2年	黒川	由衣

高等学校の部

最優秀賞	一頭の子豚から教わったこと	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年	山崎	明日香
優秀賞	挑戦	東京都立葛飾商業高等学校	3年	高橋	裕貴
優秀賞	地域のためにできること	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年	尾山	駿
優秀賞	「無知」を知る課題別学習の重要性	東京大学教育学部附属中等教育学校	4年	黒木	縫
佳作	笑顔の魔女になりたい	東京都立忍岡高等学校	3年	山田	笑美
佳作	きゅうりからの成長	東京都立忍岡高等学校	3年	齋藤	早代子
佳作	夢と目標	東京都立忍岡高等学校	3年	高橋	八千代
佳作	ボランティアの楽しさ	東京都立橋高等学校	2年	高橋	桜香
佳作	おもてなしの心	東京都立農業高等学校	2年	五十嵐	明日香
佳作	私の夢	東京都立農業高等学校	2年	高佐	侑矢
佳作	実習を通して学んだこと	東京都立農業高等学校	2年	手塚	明利
佳作	植物と共に生きるということ	東京都立農産高等学校	3年	松永	文音
佳作	笑顔のきっかけ	東京都立農産高等学校	2年	柳谷	采佳
佳作	今の私に出来る事	東京都立野津田高等学校	2年	大場	若穂
佳作	学習を通して得たこと	国際理容美容専門学校	2年	湯川	晃慎

専修学校等の部

優秀賞	私のインターンシップ	ホスピタリティツーリズム専門学校	2年	長谷川	静郁
佳作	私の成長期	中央工学校	2年	水須	麻里絵
佳作	ホテルを知った私	ホスピタリティツーリズム専門学校	2年	中井	晴美



作文コンクール最優秀作文

僕と本のパートナー

世田谷区立喜多見中学校 2年 沖山 槇之介

十五歳で作った本棚。技術の先生の机の上に置いてあった。あれが十五歳だと聞いたとき、驚くと同時に呆れた。そんなに古い本棚よりも、新しい本棚の方がいいと思ったからだ。でも、今は違う。

「ものづくり」への考え方が大きく変わったからだ。

せっかちな僕は、小学生の頃から「とにかく早く完成させたい。」ということだけを考え、ものを作るとき、いつも焦っていた。中学生になっても、ものづくりではやっぱり焦っていた。

そんな考えが変わったのは、一年生の三学期に受けた技術の授業がきっかけだった。木工室での実習。冬休みの宿題で、一から設計した本棚の製作実習。作業工程表の決められた作業まで進めないと、居残り学習に参加しなければならなかった。放課後は、部活動がある。僕は居残り学習に参加したくなかった。ここまで順調に進んできた作業、その焦りからちょっとしたミスを引き起こしてしまった。

ショックだった。と同時に、入学したときに先生が言っていたことが頭をよぎった。

「よい製品って、どういう製品のことをいうのかな。デザイン性、機能性、安全性、価格...、長く使いたいと思えるようなものが、自分にとっての一番よい製品なのかもしれないね。」

焦りの中で、スピード重視で作った製品が本当に「良い製品」と言えるのか。確かにスピードを重視しなければならないこともある。例えば、その製品を購入したい人が、すぐにでも手に入れたいと思っているとき。世の中の経済活動の中でのものづくりでは、納期がある。でも、学校の中でのものづくりは違う。確かに提出期限はあるが、先生はいつも言っている。中学校は社会に出るための練習の場。たくさん失敗して、その失敗を活かし、いずれ成功すればいいと。ものづくりの作業を繰り返し行うことで何度も失敗するかもしれないが、慣れが出てくる。そうすれば、自然とスピードが上がる。このことに気付いた僕は、焦った気持ちのまま続けてもミスを繰り返すと思い、居残り学習で気持ちを切り替えて取り組むことにした。

「丁寧に最後まで仕上げよう。その方が製品に愛着も湧き、大切に長く使いたいと思えるのでは。」

翌日の居残り学習は、落ち着いて取り組むことができた。さらに、正確な作業を心掛けたことで、予定よりも作業を進めることができた。

こうして僕の「長く使いたくなる本棚」は完成した。読書好きの僕にとって、たくさんの本たちを整理できるよいパートナーを得ることができたのだ。

それから、完成までの道のりも大事ということも感じた。

今までの僕は、「完成品がすべて」だと思っていた。世の中のものづくりでは、当然「完成品」が良くなければ、買い手が見つからない。でも、授業の中では、製作者も使用者も自分自身だ。誰かに手伝ってもらってばかりの作品では、愛着は生まれまいだろう。一方、多少、「完成品」としての見栄えが悪くとも、今の自分にできる最大限の努力で完成させた製品なら、長く、そして大事に使う気になる。

だからこそ、これから「完成品」になるまでの道のりを大切にしたいと思えるようになったのだと思う。そんなことに気付かせてくれた技術の授業を通して、「ものを作るって、何だろう？」と考えることが増えた。成功体験だけでなく、失敗からさまざまなことを学んだからだと思う。そして、自分なりに答えを導き出すことができるようになった。これをきっかけに、他の授業や生活のあらゆる場面で自分の意見を堂々と表現できるようになってきた。人前で話すことも苦ではなくなってきた。自分自身に問いかけ、答えを出すということができるようになったこと、それがこの授業で得たことかもしれない。「ものづくり」、それは僕と本との最高のパートナーを出わせてくれた貴重な体験だ。この本棚を見るたびに、さまざまなことを思い出す。僕が大人になったときに、「これは十五歳の本棚だよ。」そんな風に伝えてみたい。それを聞いた人は驚くだろう。そこから、僕がここに記したさまざまな体験についてゆっくりと語ってあげたいと思っている。

一頭の子豚から教わったこと

東京都立瑞穂農芸高等学校 3年 山崎 明日香

家畜というのは人の生活に役立てる為に飼われ、それ以上の存在にはなれません。中にはその事実を受け入れられない人もいますが、私も幼い頃はそう思っていました。あの頃は生き物の命を奪って食べるということが理解できず、ただ単純に「可哀想」と思っただけなのだと思います。

私は畜産科学科で、家畜というものを一番深く学ぶために養豚類型を専攻しました。そこで、一頭の子豚と出会ったのです。その子豚は大ヨークシャー種の雄の子豚で、兄弟たちと群れ飼育をしていた時に、左後ろ脚を怪我してしまい、これ以上一緒に飼育を続けると群れでは餌が食べられず衰弱死してしまう、という理由で隔離飼育をすることにしました。痛々しく腫れあがる脚を庇いながら歩く姿を、今でも覚えています。

その頃の子豚は、既に死んでしまったような目をしていました。全てを諦めているような、そのような目でした。私は、この子豚はこのまま死んでしまうのかもしれない、と思いました。それと同時に一つの疑問が浮かんできたのです。この子豚の生まれてきた意味は何なのだろう、と。子豚は人間の手によって肉になるために生まれてきますが、家畜として生きられずに死んでしまうのはあまりに無意味な死ではないかと、とても悲しい気持ちになりました。私はどうしてもこの子豚が生まれてきた意味を無駄にたくなくて、どうにかしてでも肉豚としての一生を送らせてやりたいと考えたのです。それからの私はこの子豚の脚が良くなるよう、毎日管理に取り組みました。薬を塗ったり、寝床をきれいにしたりの日々が続く、次第に私のことを意識してくれるようになってきましたが、脚の怪我はあまり良くなりませんでした。

そんなある日、先生からもう飼育をやめて淘汰したらどうかとの提案がありました。子豚をこれ以上、痛みを耐えさせ続けて生かすのは可哀想だ、という理由からです。養豚農家ならばきっともっと早い段階で淘汰していると思います。ですから、もう淘汰をして苦しみから解放してあげた方が良いのかもしれない、そう思うこともありました。でも、そうしてしまったらこの子豚の生れてきた意味は何なのか

と。自分でもどちらが良い方法なのか分からなくなり、悩んでしまう日々が続いていました。

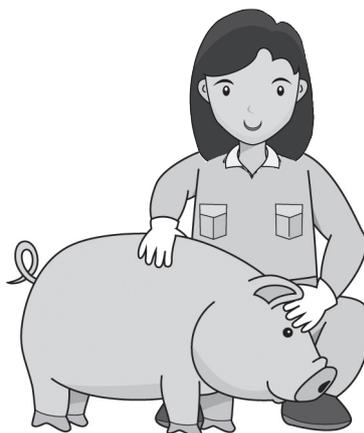
それから一か月程経ったある日、子豚が死んでしまいました。脚の怪我が元での衰弱死でした。

その時の私の感情は「可哀想」ではありませんでした。子豚の死によって、私の考えに一つの結論を導き出すことができました。家畜として生まれさせたからには、家畜として利用し尽くすことこそが、命を提供してくれる家畜や、食卓に並ぶまでの過程に携わる沢山の人々に対して感謝を表せることなのだと思います。

この経験により、私には新しい目標ができました。それは豚の飼育と解体、ハムやソーセージへの加工、またそれらを食べることのできるレストランが一緒になった、総合的な養豚牧場を運営したいという目標です。このことにより、命が肉になって食べておいしく無駄なく加工することが人々に広く伝わりやすくと考えるからです。肉をスーパーで購入する時、生きている豚を思い浮かべる人はあまりいないと思います。でも私の考える養豚牧場では、生きている豚とお肉とが身近に存在しているので、これなら家畜への感謝の気持ちを、消費者の方が自然と感ずることができると思います。私の目標とする養豚牧場では加工して販売するので、豚の部位も利用します。血液や皮、爪や毛、内臓も骨もです。今でもこれらのものは利用されていますが私の考える理想は食べることに使う利用です。食べることこそ、命をいただいた家畜への感謝を一番表せると思うからです。皆さんはそうは思いませんか？

ですから私は、養豚の技術的な勉強と食肉加工や食品製造の分野も学べる大学や、その後専門学校にも進み、技術を身につけたいと考えています。また、小さいとき子供たちに養豚経験を気軽に経験してもらえそうな、養豚学校を開きたいとも考えています。肉を食べるということは、動物の死があることを小さい頃から経験的に知ってもらうことによって無駄なく食べる感謝の気持ちが身に付くと考えるからです。私のこの目標を実現させるには、長い年月と資金が必要となりますが、同じ志を持った仲間が、全国にはいると思います。私はその人たちと連携や協力することによって、農業法人の設立や、既にある養豚経営の共同経営など、夢を諦めないかぎり色々な方法があると思います。

理想とする養豚経営を通して、人が生きるということは命をいただいているということ。たくさんの命をもらった自分の命を大切に、周りの人の命も大切にしていきたいです。



平成24年度 「作文コンクール」 応募校一覧

< 中学校の部 >

番号	区・市名	学校名	応募人数	入選者数
1	千代田区	神田一橋中学校	10	1
2	中央区	晴海中学校	8	2
3	港区	朝日中学校	1	1
4	新宿区	落合中学校	1	
5		落合第二中学校	1	
6	文京区	第六中学校	10	1
7	墨田区	両国中学校	6	1
8	江東区	有明中学校	2	2
9	品川区	日野中学校	10	2
10		豊葉の杜中学校	1	
11	目黒区	第八中学校	3	1
12		第十中学校	2	1
13	大田区	大森第六中学校	1	
14		羽田中学校	1	1
15		南六郷中学校	6	
16	世田谷区	喜多見中学校	1	1
17	中野区	中野中学校	4	1
18		北中野中学校	1	
19	杉並区	井荻中学校	2	
20		泉南中学校	7	
21	北区	浮間中学校	1	
22		王子桜中学校	5	
23		十条富士見中学校	1	
24	荒川区	第七中学校	1	
25	練馬区	開進第四中学校	1	
26		貫井中学校	1	
27		谷原中学校	1	
28	足立区	第六中学校	10	2
29		第七中学校	10	1
30		第十二中学校	1	1
31		千寿青葉中学校	5	
32	葛飾区	堀切中学校	8	
33	江戸川区	葛西中学校	1	
34		小岩第四中学校	5	
35	調布市	第四中学校	2	1
36		第七中学校	3	
37	羽村市	羽村第三中学校	10	
38	都立	大泉高附属中学校	10	1
39	国立	筑波大附属中学校	2	1
40	私立	愛国中学校	3	1
計			159	23

< 高等学校・専修学校の部 >

番号	学校名	応募人数	入選者数
1	都立農芸高等学校	2	
2	都立工芸高等学校	6	
3	都立忍岡高等学校	10	3
4	都立葛飾商業高等学校	1	1
5	都立科学技術高等学校	2	
6	都立農産高等学校	9	2
7	都立橘高等学校	4	1
8	都立野津田高等学校	1	1
9	都立町田総合高等学校	1	
10	都立瑞穂農芸高等学校	10	2
11	都立第五商業高等学校	2	
12	都立農業高等学校	9	3
13	都立大島高等学校	2	
14	東京大学教育学部附属中等教育学校	1	1
15	愛国高等学校	4	
16	明昭学園 岩倉高等学校	10	
17	蒲田女子高等学校	10	
18	国際理容美容専門学校	10	1
計		94	15
1	ホスピタリティツーリズム専門学校	8	2
2	中央工学校	4	1
3	青山製図専門学校	9	
計		21	3

まとめ

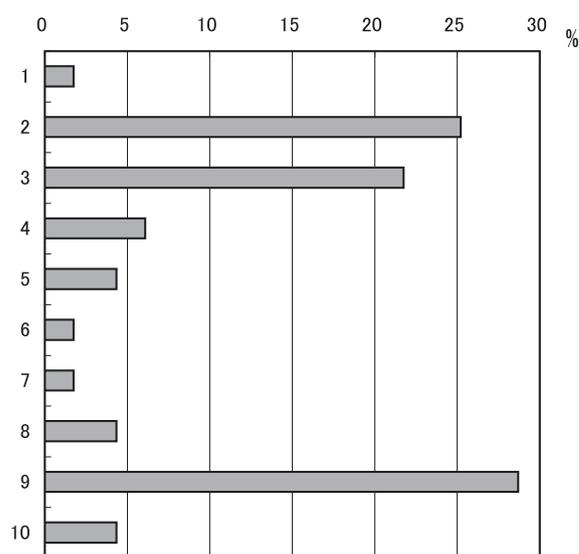
校数 (入選校数)	応募者数	入選者数
中学校 40校 (19校)	159	23
高校等 18校 (9校)	94	15
専修学校 3校 (2校)	21	3
総計 61校 (30校)	274	41

《参考》

分野別応募数 高校・専修の部(本年度)

	数	%
①技術・家庭科の授業等を通して学び得たこと	2	1.7
②高等学校等における専門教科の学習を通して学び得たこと	29	25.2
③インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	25	21.7
④職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	7	6.1
⑤つくることの喜び、ものづくりの喜び	5	4.3
⑥働くことの喜び	2	1.7
⑦学習に対する心構え	2	1.7
⑧私の生きがい	5	4.3
⑨私の進路、将来の夢	33	28.7
⑩私の職業観	5	4.3

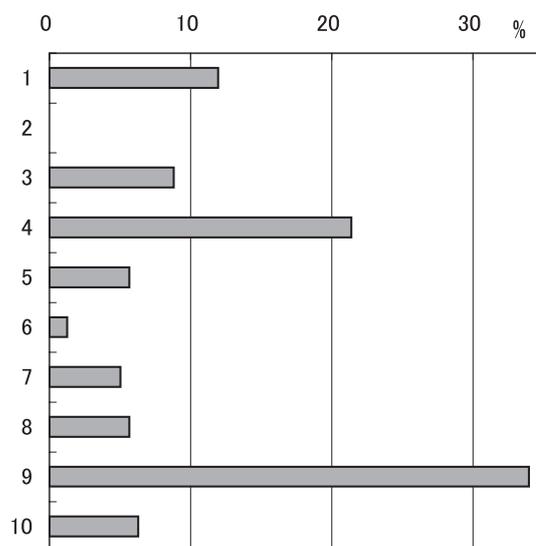
115

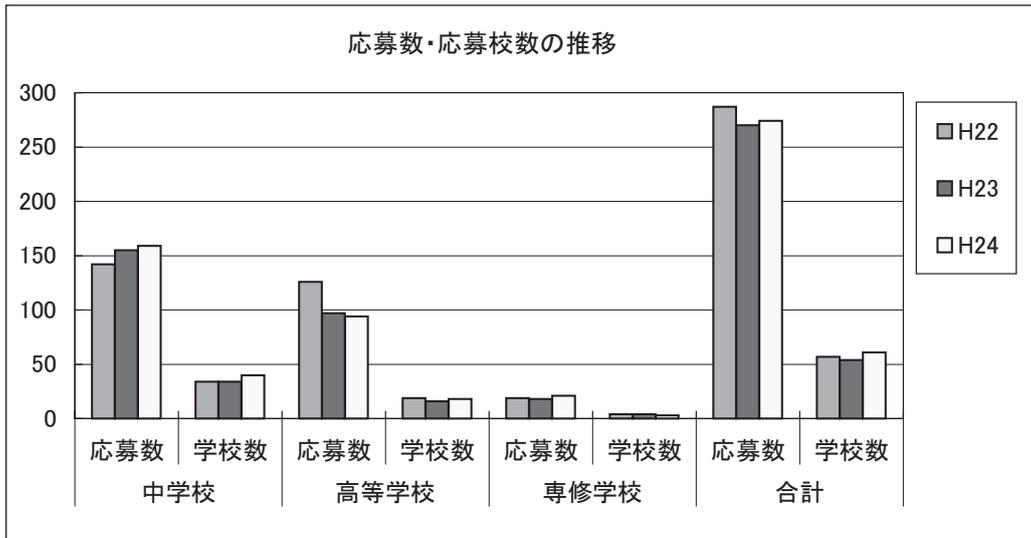


分野別応募数 中学校の部(本年度)

	数	%
①技術・家庭科の授業等を通して学び得たこと	19	11.9
②高等学校等における専門教科の学習を通して学び得たこと	0	0.0
③インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと	14	8.8
④職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと	34	21.4
⑤つくることの喜び、ものづくりの喜び	9	5.7
⑥働くことの喜び	2	1.3
⑦学習に対する心構え	8	5.0
⑧私の生きがい	9	5.7
⑨私の進路、将来の夢	54	34.0
⑩私の職業観	10	6.3

159





	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H22	142	34	126	19	19	4	287	57
H23	155	34	97	16	18	4	270	54
H24	159	40	94	18	21	3	274	61

応募数の変化(前年度から見た変化)

校種	平成21年度(09)		平成22年度(10)		平成23年度(11)		平成24年度(12)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	151⇒161	7%増	161⇒142	12%減	142⇒155	9%増	155⇒159	3%増	152
高校	112⇒96	14%減	96⇒126	31%増	126⇒97	23%減	97⇒94	3%減	108
専修学校	19⇒9	53%減	9⇒19	111%増	19⇒18	5%減	18⇒21	14%増	16
総数	282⇒266	6%減	266⇒287	8%増	287⇒270	6%減	270⇒274	1%増	276

作文コンクール 入選数の集計

校種	平成21年度(09)			平成22年度(10)			平成23年度(11)			平成24年度(12)			平均%
	応募数	入選数	%										
中学校	161	28	17	142	23	16	155	22	14	159	23	14	15%
高校	96	18	19	126	20	16	97	16	17	94	15	16	17%
専修学校	9	3	33	19	3	16	18	3	17	21	3	14	20%
総数	266	49	18	287	46	16	270	41	15	274	41	15	16%
参考	選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			—

本会の概要

平成24年度 事業経過報告

(平成25年2月20日現在)

1 会計監査

4月17日(火) 午後3時から、都庁第二本庁舎28階 第三会議室を会場
常任監事、監事2名による各種帳簿類等の監査実施(本会事務局長立会い)

2 理事会

5月11日(金) 午後3時から、都庁第二本庁舎31階 特別会議室26で開催

3 総会・講演会

6月8日(金) 午後2時から、BEZ新宿(新宿区産業会館)1階 多目的ホールにて開催

○ 講演 演題 「宇宙と私たちの暮らし」

講師 財団法人日本宇宙フォーラム理事長 間宮 馨 氏

※ 総会報告は会報第142号に、講演報告は第143号に掲載し、本会誌に転載しました。
(本誌 p.47～50)

4 委員会

(1) 企画推進委員会 7月6日(金) 都庁第二本庁舎31階 特別会議室25で開催

(2) 中学校技・家教育功労者選考委員会

9月21日(金) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

(3) 作文選考委員会 6月21日(木) 全体会 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

10月29日(月) 分科会(高校・専修の部) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催(会誌50号表紙イラストコンペ・二次選考委員会を終了後開催)

10月30日(火) 分科会(中学校の部) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:中学校技術・家庭科教育功労者(7名)及び御下賜金記念産業教育功労者(23名)の表彰式を11月21日(月)午後3時から都庁第二本庁舎31階・特別会議室25において挙行了た。(財)産業教育振興中央会と本会よりの表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(本誌 p.51～52)

(2) 研究団体助成:産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 作文コンクール:中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は274点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞7名(中学校3名、高校3名、専修学校1名)、佳作32名(中学19名、高校11名、専修学校2名)計41名の入選者を選定した。12月21日(金)に都庁第二本庁舎・10階201・201会議室において「作文コンク

ル表彰式」を行い、賞状と賞品を授与した。また、入選されなかった応募者全員に記念品を贈呈した。(本誌 p.55 ~ 62)

- (4) 卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長並びに産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校（公私立中等等）	815 名	高等学校（国公私立等）	221 名	
専修学校	32 名	高専・短大	16 名	計 1084 名

○産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校	計 120 名
--------------	---------

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援の名義使用を承認している。本年度は6団体7事業に対して後援名義の使用を承認した。(本誌 p.52)

6 産学交流事業

産学懇談会を11月8日（木）（午後1時～5時分）に都立蔵前工業高等学校を会場として行った。工業学科の教育内容や産学連携等について話し合い、有意義な懇談会であった。参加者は会場校校長・教員および産業界・公立高校中学・私立高校・専修学校の管理職等、教育庁指導部・高校教育課職員等計20名であった。懇談会終了後、浅草橋駅近くで自由参加（9名）による教育懇親会を持った。(本誌 p.53 ~ 54)

7 情報連絡事業

- (1) 本年度は会報「東京の産業と教育」を年2回発行、第142号を7月17日、第143号を12月17日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第50号を3月中旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第23号は入選作品41編を掲載して、3月中旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する。
- (4) 全国産業教育振興会連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議は、5月24日（木）東京の工業教育会館で開催された。本会より会長、副会長、事務局長と、その他少数の会員が出席した。
- (5) 文部科学省・岡山県教委・産業教育振興中央会ほか主催の第54回全国産業教育振興大会・第22回全国産業教育フェア岡山大会が11月10日（土）～11日（日）、岡山県総合グランド体育館（桃太郎アリーナ）他3会場で開催され、本会から副会長と会員数名が参加した。(本誌 p.44 ~ 46)
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。
- (7) 産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」また同会主催の「産業実地研修会」、「海外産業教育事情視察」等の事業には、今年度は本会よりの応募者・参加希望者はなかった。

8 会員の増加運動の推進

企業4社および江東区教育委員会（中学校23校）が新規に加入した。(山)

平成 23 年度 決 算

総収入額 　　¥3,274,641
 総支出額 　　¥2,780,654
 差 引 額 　　¥ 493,987

[収入の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,468,000	2,300,000	△ 168,000	1 学校関係 1,466,000
				① 公立・私立中学校 391 校 782,000
				② 都立高校 全 54 校 324,000 定 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 22 校 132,000 定 1 校 3,000
				④ 高専・短大 4 校 24,000
				⑤ 専修学校 17 校 18 口 108,000
				2 産業界関係 834,000
				① 企 業 55 社 82 口 820,000
				② 個 人 7 名 7 口 14,000
				利子収入 503 144 △ 359 預金利息
雑収入 125,000 270,000 145,000 広告料ほか				
繰越金 704,497 704,497 0 前年度繰越				
合 計 3,298,000 3,274,641 △ 23,359				

[支出の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
事務費	600,000	510,447	89,553	
項 目	需用費 90,000 92,620 △ 2,620	総会資料印刷、消耗品費等		
	役務費 450,000 370,007 79,993	配送費、郵便振込手数料、郵券等		
	旅 費 60,000 47,820 12,180	全国産業教育フェア（鹿児島）		
	会議費 40,000 28,056 11,944	理事会、総会、各種委員会		
事業費	2,468,000	2,177,151	290,849	
項 目	940,000	795,801	144,199	①教育功労者表彰 147,165
				②研究奨励助成 125,000
				③作文表彰 402,998
				④永年会員表彰 15,898
				⑤表彰状印刷 80,010
				⑥表彰状筆耕料 24,730
情 報 連絡費	1,518,000	1,375,200	142,800	①会報発行（2回分） 252,000
				②会誌 49 号発行 491,400
				③作文集 22 号発行 436,800
				④ HP 更新費 189,000
				⑤全産協参加費 6,000
				⑥中央会図書費 0
産学交流費	10,000	6,150	3,850	産学懇談会
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費	125,000	0	125,000	緊急対応
合 計	3,298,000	2,780,654	517,346	

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成24年度 予 算

総収入額 　　¥3,085,400
 総支出額 　　¥3,085,400
 差引額 　　　　¥ 0

〔収入の部〕

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要		
会 費	2,426,000	2,468,000	△ 42,000	1 学校関係	1,506,000	
				① 公立・私立中学校	414 校	828,000
				② 都立高校	全 53 校	318,000
					定 31 校	93,000
				③ 私立・国立高校	全 22 校	132,000
					定 1 校	3,000
				④ 高専・短大	4 校	24,000
				⑤ 専修学校 17 校	18 校	108,000
				2 産業界関係		920,000
				① 企 業 60 社	90 社	900,000
② 個 人 10 名	10 名	20,000				
利子収入	413	503	△ 90	預金利息		
雑収入	165,000	125,000	40,000	広告料ほか		
繰越金	493,987	704,497	△ 210,510	前年度繰越		
合 計	3,085,400	3,298,000	△ 212,600			

〔支出の部〕

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要		
事務費	530,000	600,000	△ 70,000			
項 目	需用費	90,000	90,000	0	総会資料印刷、消耗品費等	
	役務費	400,000	450,000	△ 50,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等	
	旅 費	40,000	60,000	△ 20,000	全国産業教育フェア（岡山）	
	会議費	100,000	40,000	60,000	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,287,000	2,468,000	△ 181,000			
項 目	振 興 奨励費	839,000	940,000	△ 101,000	①教育功労者表彰	160,000
					②研究奨励助成	125,000
					③作文表彰	410,000
					④永年会員表彰	14,000
					⑤表彰状印刷	90,000
					⑥表彰状筆耕料	40,000
項 目	情 報 連絡費	1,438,000	1,518,000	△ 80,000	①会報発行（2回分）	280,000
					②会誌 50 号発行	510,000
					③作文集 23 号発行	450,000
					④ HP 更新費	190,000
					⑤全産協参加費	6,000
					⑥中央会図書費	2,000
産学 交流費	10,000	10,000	0	産学懇談会		
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会		
予備費	103,400	125,000	△ 21,600	緊急対応		
合 計	3,085,400	3,298,000	△ 212,600			

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成 24 年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

平成 24 年 6 月 8 日現在

会 長	前(株)企業再生支援機構代表取締役社長	西 澤 宏 繁
副 会 長	(株)イーナ 顧問・CEO	久保村 昭 衛
〃	(株)カナック企画相談役	金 子 昌 男
〃	☆ 東京都立六郷工科高等学校長	石 井 末 勝
理 事 長	東京都教育委員会教育長	大 原 正 行
常 任 理 事	東京都教育庁都立学校教育部長	直 原 裕
〃	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	藤 本 龍 夫
理 事	☆ 公益社団法人経済同友会・常務理事	伊 藤 清 彦
	☆ 東京商工会議所総務統括部長	小 林 治 彦
	東京経営者協会常務理事	和 栗 安 広
	信川化学工業(株)取締役社長	信 川 仁 道
	(株)日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
	三和電気工業(株)代表取締役社長	石 井 卓 爾
	☆ 墨田区教育委員会教育長	横 山 信 雄
	☆ 江東区教育委員会教育長	岩 佐 哲 男
	武蔵野市教育委員会教育長	山 上 美 弘
	☆ 品川区教育委員会学務課長	和 氣 正 典
	☆ 荒川区教育委員会学務課長	平 賀 隆
	東京誠心調理師専門学校理事長	廣 瀬 喜久子
	☆ 日本工業大学駒場高等学校長	吉 田 忠 雄
	岩倉高等学校長	浅 井 千 英
	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
	東京都立農芸高等学校長	花 野 耕 一
	☆ 東京都立六郷工科高等学校長 (副会長兼任)	石 井 末 勝
	東京都立第一商業高等学校長	戸 田 勝 昭
	東京都立忍岡高等学校長	浦 部 万里子
	☆ 東京都立杉並総合高等学校長	三 橋 信 也
	府中市立府中第二中学校長	三 浦 登
	☆ 足立区立東島根中学校長	池 田 敦 彦
	☆ 東京都教育庁指導部長	坂 本 和 良
	☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	増 渕 達 夫
	☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	藤 井 大 輔
	東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長	矢 野 克 典
理事・事務局長	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長	江 頭 正 晃
常 任 監 事	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長	高 橋 秀 幸
監 事	(有)飯吉製作所代表取締役	飯 吉 修一呂
〃	☆ 中野区立第十中学校長	関 年 隆

東京都産業教育振興会各委員会 委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	千 谷 順一郎
東京都立工芸高等学校長	松 本 光 正
東京都立第四商業高等学校長	大 林 誠
東京都立城東高等学校長	小 峯 健 治
東京都立葛飾総合高等学校長	三 田 清 一
昭和第一学園高等学校長	及 川 勉
京北学園白山高等学校副校長	杉 原 米 和
東京誠心調理師専門学校副理事長	廣 瀬 道
首都大学東京東京都立産業技術高等専門学校長	荒 金 善 裕
中央区立佃中学校長	加 藤 讓 司
東京都教育庁指導部 高等学校教育指導課指導主事	平 柳 伸 幸
東京都教育庁指導部 義務教育特別支援教育指導課指導主事	富 永 大 優

作文選考委員会

東京都立墨田工業高等学校長 (高校・専修の部委員長)	加 藤 秀 次
東京都立農産高等学校長	後 藤 哲
東京都立葛飾商業高等学校長	高 石 公 一
東京都立東村山高等学校長	大 塚 一 雄
東京都立王子総合高等学校長	今 澤 秀 夫
安田学園高等学校教頭	稲 村 隆 雄
安部学院高等学校長	安 部 元 彦
国際理容美容専門学校事務局次長	佐 谷 肇
清瀬市立清瀬第五中学校長 (中学校の部委員長)	片 倉 義 博
東久留米市立下里中学校長	藪 野 勝 久
東大和市立第二小学校長	井 内 潔
足立区立第十二中学校長	杉 浦 伸 一
港区立神応小学校長	高 松 政 則
小平市立第十五小学校長	熊 井 久 乃
新宿区立落合第二中学校副校長	深 井 明 美
新宿区牛込第三中学校副校長	寺 島 京 子
荒川区立峡田小学校副校長	出 井 玲 子
立川市立立川第三中学校副校長	坂 詰 悦 子
教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	金 澤 正 美
教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	佐々木 敏 治
教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	富 永 大 優
教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	吉 川 泰 弘

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区	—	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。世界各国の最新機器の日本への紹介。
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
3	(株)イーナ	千代田区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	当社は、より安心して快適な社会の実現を目指し、高輝度蓄光式誘導標識をはじめ、蓄光技術を様々な形に変えて、皆様に「安全」と「環境」と「省エネ」をご提供してまいります。
4	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。 平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	エス・イー・シー エレベーター(株)	台東区	(○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	エレベーター、エスカレータの保守点検及び新設、ニューリアル工事
7	(株)エヌ・アール	千代田区	—	不動産の賃貸及び管理業
8	(株)大崎コンピュータ エンジニアリング	品川区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウトソーシングサービスまで、トータルな IT 環境を提供する総合インテグレータ。富士通・富士電機・NTT グループのディーラー業務等。
9	小沢(株)	中央区	(○) 四大卒	紳士服、婦人服製造卸売（オーダー有り）
10	(株)オーム社	千代田区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OH M』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊 5 誌。
11	(株)カナック企画	葛飾区	—	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカー AV（Audio Visual）機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001 を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
12	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 24 店舗（1 出張所を含む）を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
13	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
14	機械研究(株)	台東区	—	教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
15	(株)ククチ	品川区	(○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事
16	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
17	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
18	(株)建築資料研究社	豊島区	—	建築資料研究社は、日建学院をはじめとして書籍やハード・ソフト、関連用品、スクール等建築・建設に関する様々なニーズにお応え致します。（あなたの「夢」応援します。）
19	(株)小葉印刷所	中央区	—	創業 80 年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインや Web 用のデータ作成業務に力を入れている。
20	(株)コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。
21	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	従業員 70 名の中小企業ですが、2011 年に創業 70 周年を迎える現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界 74 ヶ国以上に輸出し、SANWA ブランド製品として高い信頼を得ています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
22	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
23	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備(自動火災報知設備、消火設備、避難設備)、弱電設備(インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯)の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
24	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001:2008認証取得により品質管理を徹底しております。
25	青和信用組合	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される約99,620世帯(人口207,820人)と、地域内で事業を営まれる中小企業、そこに勤務される方々を対象に営業しており、現在45,520世帯(63,880人)の個人の皆様と、2,374先の法人等にお取引をいただいております。
26	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	携帯電話やコンピュータ等には欠かせない「ほんだ」では世界のトップメーカーです。インテル社より2010年度最優良納入業者として表彰(世界で13社)を受けました。海外拠点も26ヶ所あります。
27	(株)第一科学	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁(都内)への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
28	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金8,000万円、従業員25名(常勤役員4、正社員19、パート2)。年商10億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
29	大洋塩ビ(株)	港区	—	
30	(株)竹尾	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙(ファインペーパー)の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約400銘柄、9,000種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
31	田中設計事務所	狭山市	—	タイヤ製造設備装置(機械)及び自動車製造設備装置(機械)の設計事務
32	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
33	(株)ツバサ・翼学院	葛飾区	—	学習障がい、不登校、非行歴のある子など約200名の塾生(保育園生から在籍)が当塾から都立高、私立中学などへ巣立っていきます。また、高校中退者が当校で高校を卒業できるシステムもあります。「学校でさじを投げた子を必ずなんとかしてくれる塾」として、著書・メディアの取材が多数あります。
34	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。
35	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	当社は、1885年の創立以来、120年余りの長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、1000万件を超えるお客さまに対し、都市ガスに加え、電力・熱供給などエネルギーまわりの付加価値を提供させていただいております。
36	東京書籍(株)	北区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1909(明治42)年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、教科書、辞典、エッセイなどを幅広く発行。
37	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	概要：指導・信用・共済・経済事業等を行っている。 特色：地域に密着した取組をしている。
38	東京都農業会館	立川市	—	

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
39	(株)東京都民銀行	港区	(○)専修卒 (○)短大卒 (○)四大卒	昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ、各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約9,300ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取れるサービス「前給」(特許取得済)の取扱、ビジネスマッチングのための展示商談会の開催、中国でのビジネス支援をするコンサルティング会社としての上海現地法人「都民銀商務諮詢(上海)有限公司」の設立、M&A等のご相談等様々な金融ビジネス展開を行なっています。
40	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
41	戸田建設(株)	中央区		
42	(株)トンボ鉛筆	北区	(○)四大卒 (○)高専卒 (○)工業高校卒	文具の製造販売。「書く」「消す」「貼る」「育む」の4つの分野を中心に商品開発、販売をします。
43	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○)四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙
44	(株)日本化薬東京	足立区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして(3つのCSQE)、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティー」「クオリティー」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
45	日本自動ドア(株)	中野区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)高専卒 (○)短大卒 (○)四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
46	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2他計21台。クレーン20t、10t他。
47	(株)箸勝本店	千代田区	—	明治43年創業の割箸専門店です。業務用から家庭用まで、300種類以上の特長有るお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
48	日野自動車(株)	日野市	(○)中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
49	日の丸自動車(株)	文京区	(○)高校卒 (○)短大卒 (○)四大卒	当社は観光バスから乗合バスまで幅広くビジネス展開している会社として、無料巡回バスやスカイバスを手掛けており、今後も水陸両用バス計画など新事業に積極的に取り組んでまいります。
50	丸工化学(株)	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員17名。主に容器の製造。中空成形機14台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
51	(株)三井住友銀行	千代田区	(○)専修卒 (○)短大卒 (○)四大卒	経営目標である「お客様、株主や市場、社会から最高の信頼を得られ世界に通じるトップバンクの実現」に向けて、強みである個人向けコンサルティング、中小企業向け融資、投資銀行ビジネスなどに注力しながら、他業態とのアライアンスなど新たなビジネスに積極的に展開していく。
52	(株)ムトーエンジニアリング	世田谷区	(○)専修卒 (○)四大卒 (○)大学院卒	設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売。LED関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。CADソフト及びデバイス類の販売。
53	森山精機(株)	文京区	(○)高校卒 (○)四大卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。
54	山崎教育システム(株)	東村山市	(○)専修卒 (○)四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店500社)
55	山崎製パン(株)	千代田区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)高専卒 (○)短大卒 (○)四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売
56	ヤマ産業(株)	文京区	(○)高校卒 (○)四大卒	教育備品を販売して50年。学校よりの信用を得て、安定している。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
57	(株)読売新聞社 東京本社	中央区	(○)四大卒 (○)大学院卒	「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。千代田区大手町に新社屋を建設中(2014年秋に完成予定)で、その間、中央区銀座に一時移転している。
58	ルネサスエレクトロニクス(株)	千代田区	(○)高校卒 (○)高専卒 (○)短大卒 (○)四大卒	2010年4月に(株)ルネサステクノロジとNECエレクトロニクス(株)が合併して発足した半導体企業です。創造力を発揮し、絶え間ない技術革新により、世界中のお客様のニーズに誰よりも早く応えます。そして、信頼されるパートナーとして、持続的に成長する強いグローバル半導体企業を目指します。

個人会員

1. 堀居 英治 2. 齋藤 武捷 3. 倉持 俊義 4. 梶谷 正義 5. 末松 茂孝 6. 内川 武雄 7. 中村 浩

学校会員名簿

50音順

学校名	所在地	課程	平成25年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	----------------------	----------

私立高校

1	愛国高等学校	江戸川区	全	普通科(240) 商業科(120) 家政科(80) 衛生看護科(40) 衛生看護専攻科(40)	昭和13年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。平成22年春に新学生寮落成。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級2年コース)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科)・保育専門学校(幼児教育科・介護福祉士専攻科)がある。
2	安部学院 高等学校	北区	全	商業科(200)	1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業教育のみの女子高校」と歩み続け、現在で満69年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2年次よりコース制になり、簿記1級の取得を目指す「会計コース」とパソコンなどの実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の2コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、以前は就職する生徒が9割近くを占めましたが、現在は就職希望者だけでなく、進学希望者も増えています。
3	岩倉高等学校	台東区	全	普通科(130) 運輸科(105) 機械科(70) 商業科(70)	我国最初の鉄道学校として明治30年に創立。卒業生の多くは鉄道・運輸業界で活躍している。機械科・運輸科・商業科・普通科を持つ高校として、就職のみならず進学面でも成果が顕著である。平成21年4月に新校舎が完成し、充実した環境の中で、特色ある教育内容や新コースの設置等、生徒の夢をより具現化するカリキュラムで学力の向上をはかっている。
4	大森学園 高等学校	大田区	全	普通科(160) 工業系(200) 機械科 電気科 情報技術科 総合技術科	【創立】昭和14年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立70周年(平成21)にむけて「学校改革」始まる。平成16年、新校舎建築に着手。平成17年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第1期生をむかえる。平成19年校舎建築完了、普通科を共学化。平成21年4月、創立70周年記念式典を挙行政した。
5	科学技術学園 高等学校	世田谷区	通	普通科(2,750) 電気科(900) 機械科(600)	昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和52年普通科設置し現校名に変更する。昭和53年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。通信制課程では集団(企業・専修学校等)を対象とした技能連携コース(全国に35校)と個人を対象とした単位制コースを持ち、単位制コースには「週4日通学コース」、週に1~3日通う「登校コース」インターネットで学習する「eラーニングコース」と生徒個々の学習環境に合わせたコースを設置している。昼間定時制課程(男子のみ募集)は、主要教科は習熟度別学習プログラムでわかる授業を実践し、また社会へのプロローグとして「ものづくり」を中心とした体験学習を特別活動として導入し、生徒目線の教育活動に取り組んでいる。
6	蒲田女子 高等学校	大田区	全	普通科: デザインクラス(30) 医療福祉クラス(40) 幼児教育クラス(80) スポーツクラス(40) 生活文化クラス(60)	昭和16年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である。」にもとずく、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。教育内容改革改善の取組みとして5つのクラス制を導入し、特に医療福祉クラスでは、ホームヘルパー2級、障害者ヘルパーの資格が取得でき、2年次より看護系進学者に対する指導にも力を入れ特進クラスも設けている。

	学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
7	関東第一 高等学校	江戸川区	全	特別進学コース（男女 40） 進学選抜・進学 A コース （男女 200） 進学 G コース（男女 200） スポーツコース（男 80）	大正 14 年、帝国書院の創立者守屋荒美雄・初代校長村上周三郎によって神田錦町に 関東商業学校として設立。昭和 14 年、江戸川区の現在地に移転し、昭和 28 年、関東商工 高等学校と改称。昭和 48 年、普通科設置とともに現校名となる。 平成 16 年度には普通科を共学化。平成 17 年度には特別進学コース、平成 19 年度には 進学選抜コースを設置。そして平成 24 年度からは普通科 5 コース制として、関東商業 学校時代より培った「貫行」の精神で新たな一歩を踏み出す。
8	京華商業 高等学校	文京区	全	商業科（150）	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたき めこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、 キャリア教育にも力を入れている。
9	京北学園 白山高等学校	文京区	全	商業科（160）	人間力を ①自己学習能力 ②コミュニケーション能力 ③プレゼンテーション能力の 3 つ の力で定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率 7 割の新しいスタイルの商業科進学学校
10	昭和第一 高等学校	文京区	全	普通科（280） 商業科（募集なし）	昭和 4 年設立、平成 17 年度男女共学開始。 校訓「明るく、強く、正しく」のもとに生徒一人ひとりがしっかりとした目標を持ち、 円満な人格と高い教育を身につけ、国際社会にも通用する心身ともに調和のとれた人間 を育成する。きめ細かな教科指導はもとより、生活指導にも力を入れている。
11	昭和第一学園 高等学校	立川市	全	普通科（336） 工学科（240） 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科：特進コース、総合進学コース（2 年次より文・理選抜）。 工学科：1 年次共通の科目を学ぶ。2 年次から 4 つのコースに分かれる。 総合工学コース、（進学向けのコース）、機械コース、電子情報コース、 建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
12	昭和鉄道 高等学校	豊島区	全	鉄道科（215）	昭和 3 年創立、平成 16 年共学。鉄道専門科目を通し、実践的な教育に取り組み、鉄道 業界を中心に多くの卒業生を送り出している。
13	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース（70） 文理進学コース（280） 情報進学コース（40）	116 年の伝統校でありながら、常に改革を進め教育の充実に向けています。さらに施設 の面での充実が学習環境を支えており、特進コースはもちろん文理進学コースでの進学 実績も向上しています。また、情報進学コースでは、全員に情報処理検定 1 級合格を目 指して専門技能の習得に力を入れています。
14	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全 通	普通科（35） 商業科（65） 22 年度閉課程	少人数クラスをベースにしなが、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開していま す。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
15	東京学園 高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース（220） 選抜コース（60）	男子に特化した多様な教育によって、生徒一人ひとりの強みを引き出し、自信を持って 生きていける知力・気力・体力と他者を尊重する心を養い、優れた学力と逞しい人間力 を育成します。また、平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内に目黒区の災 害用防災倉庫を設置し、地域の方々にも貢献する事が出来る態勢を整えています。
16	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科（135） 電気科： 電気コース（45） ゲーム IT コース（45） 普通科： ビジネスコース（180） 文理コース（90）	全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学 校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を 注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際 理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度 があります。 電気科ゲーム IT コースは平成 22 年度より開設。
17	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース（30） 理数特進コース（30） 総合進学コース（80） 工業科： 理数工学科（80） 国際工学科（40） 機械科（80） 建築科（40） 電子情報システム科（40）	105 年間培ってきた工業技術教育を大切に、その有用性を生かした新しい時代の新しい 普通科と工業科により、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。 普通科・工業科の生徒とも進学の成果をあげています。 また、カナダ・アルバータ州のクローズネストパスにある本校のカナダキャンパスは、 中高の短期留学と高校卒業後の州立大学留学の拠点となっています。
18	八王子実践中学 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース（40） 文理コース（160） 普通コース（280） 調理科（80）	建学の精神は「自重・自愛・自制・自立」、そして伝統的教育理念である「実践」を根幹 として「知育・徳育・体育」の調和のとれた全人教育を目標に 86 年の歴史を歩んでいます。 普通科は特進コース、文理コース、普通コースの 3 コースを設け、進学や就職など、多 様な進路選択ができるよう学習指導等を行っています。 一方調理科は、和・洋・中・製菓の全般の知識と技術を修得。卒業と同時に調理師の資 格が取得でき、食育インストラクター、栄養士、管理栄養士といった資格への道も開か れています。
19	朋優学院 高等学校	品川区	全	調理科・ 調理コース（45） デザイン科・ デザインコース（45） 普通科・ 特進コース（60） 進学コース（185） 美術コース（45） 国公立コース（15）	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業 による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース（3 学科 6 コース）とも男女共学。

	学校名	所在地	課程	平成25年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
20	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
21	安田学園 高等学校	墨田区	全	普通科 (236) 進学コース (180) 特進コース (36) S特コース (20)	本学園は、創立者 安田善次郎翁の建学の精神のもと、幅広い社会の中でその世界のトップクラスとなる人材を育成することを目指しています。平成25年度に創立90周年を迎えるにあたり、普通科のみの募集への転換、最難関国立大を目指すコースの新設、男女共学化の準備など、一連の大幅な改革を実施しております。
22	日野工業 高等学園	日野市	通	(40)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダの育成を目指す企業内高校です。 授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。
24	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。

都立高校

▽農業に関する学科					
1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	平成20年度に100周年を迎えたが、平成18年度に重点支援校の指定を受け、地域やNPO等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。 定時制では家庭的な雰囲気での学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。
			定	園芸科 (30)	
2	都立農業 高等学校	府中市	全	都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物科 (35)	全日制では、農業・家庭の両科の専門学習とその教育資材を生かし、環境教育に取り組んでいる。学校設定科目「地域貢献」を通じて、生徒が専門教科の学習の目的を理解し、自信を持って学べるように取り組んでいる。平成19年より、都市からの農業の担い手育成事業である「東京アグリカレッジ」を東京農工大学をはじめとする地域の諸機関と連携・協力して開催している。さらに、食育、環境教育に重点を置き全校をあげて教材開発及び授業実践を行っている。 定時制では、「食育」、「環境」、「奉仕」を三本柱として地産地消と循環型農業の学習に取り組んでいる。また、平成21年度入学生より三修制を実施しています。
			定	食品化学科 (30)	
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	今年度で創立111年の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の3学科4学級、定時制に農芸科1学科を設置している。 都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて73,304m ² という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。 JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、平成18年度にエコアクション21(環境省認証)を取得し、環境にやさしい農業高校を目指している。なお、都立高校唯一の馬術部を設置しており、2頭の馬を飼育・管理している。平成25年度東京国体に向け東京都から強化指定校に指定され、日々練習に励んでいる。
			定	農芸科 (30)	
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑を創造する学校」を目指し教育活動が行われている。 全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。 定時制は、園芸系と食品系両方を学ぶことができ、通常授業の前後に行なわれる授業を受けることにより、3年間で卒業できる制度があり人気が高い。
			定	農産科 (30)	
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育てている。 定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
			定	併合科(普通・農業) (30)	
▽工業に関する学科					
6	都立足立工業 高等学校	足立区	全	総合技術科 (175)	機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気の基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。 第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、2学年全員のインターンシップ実施や小中学生向けの体験学習の実施など地域連携を積極的に推進している。 施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全	電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格(第2種電気工事士等)を取得させ生徒に自信をつけさせ、より確かな進路実現を図る。とくに、第2種電気工事士の合格者は、6年連続30名以上の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
			定	電気・電子科 (30)	

学校会員名簿

	学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全	機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70)	都教委指定のデュアルマイスター導入校(平成 23 年度入学生～) 施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 地域と協働し、実践力ある生徒を育てる。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全	総合技術科 (175)	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材育成に取組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者など社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定 100%を保持している。 平成 21 年度 6 月に「エコアクション 21」の認証を取得し、環境教育に全学年で取組み環境問題や資源リサイクルへの啓発から具体的なアクションへと繋げている。 東京都教育委員会より、工業実習の拠点校として指定を受け、施設・設備が整え、近隣の工業と連携し、ものづくりの技術・技能習得と継承に力を入れている。 新たに、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者育成を目指している。
			定	機械科 (30)	○定時制 機械科の単科の定時制である。各学年一学級 30 定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。就職希望者の内定率 100%を維持している。軟式野球部などを中心に、部活動を通じて心身ともに成長を促し、資格取得指導の充実により、より確かな進路実現への力を培っている。
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	○全日制 東京都教育委員会からもものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」及び「ものづくり高大連携教育推進校」の指定を受け、3 年生から進学コース、専門コースに分かれ、スペシャリストの育成を目指した教育を実践している。
			定	建築工学科 (30)	○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。 学修方法によっては、3 年間で卒業も可能。 学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11	都立工芸 高等学校	文京区	全	マシンクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアート科 (35)	本校は、100 年を越える伝統と実績のある都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。 Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来 2 万人を越える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受賞者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生対象のコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。
			定	マシンクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアート科 (30)	卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野に進学しています。
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	定	機械科 (60) 電気科・電子科 (30)	平成 22 年 3 月に全日制課程が閉課程となり、平成 22 年度から定時制単独校になる。施設設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。ここ数年、入学者が定員枠いっぱいまで入ってきている。校舎の改築改修工事が進み、新校舎が平成 23 年 8 月に完成した。23 年 9 月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは旧校舎で行っている。全日制課程は多摩科学技術高校となり、平成 22 年 4 月に第一期生が入学している。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	都立工業高校で唯一(都立高校全体で 2 校)、環境マネジメントシステム ISO14001 を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。 平成 20 年度に高反射率塗装(屋上)及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。 資格取得に力を入れている。平成 17 年度の資格取得者数が都立高校 No.1。 部活動が活発で、柔道部及び陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。 平成 19 年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	全日制は、4 学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100%を常に維持している。今年度 112 周年を迎える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。
			定	総合技術科 (30)	定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100%を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図る。
			定	総合技術科 (60)	定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間で卒業が可能な三修制を実施する。
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科である。建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。また今年度からデュアルシステムを開始する。インターンシップについても、引き続き実施する。

	学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35)	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 24 年度に 50 周年を迎える。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科変更した。 さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改変を行った。 全校を上げての環境教育、環境活動が環境省が提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するという事で平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。 平成 21 年度文科省「人権教育研究指定校」。削除 平成 22 年度東京都教育委員会「スポーツ教育推進校」。 平成 23 年度「デュアルシステム」導入校
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全 定	総合技術科 (175) 総合技術科 (30)	<p>本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行っている。また、都内で、唯一食品工業が学べる工業高校である。</p> <p>1 学年で、工業の基礎を学習しながら、自分が目指す専門分野を探索する。全日制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型、工業化学類型の係わる各コースを選択し、専門性を深める。定時制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深める。</p>
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニク技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立八王子工業 高等学校	八王子市	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみ。平成 22 年 3 月閉過程・閉校。
21	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	都教委より「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 野球部を中心にバスケット部、陸上部、少林寺拳法部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
22	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
23	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの 5 つの系列からなりますが、1 年次では系列に関係なく同じ内容で学習します。2 年次から生徒自らの興味や関心、進路希望に基づき 5 系列にわかれ学習します。選択科目も数多く設置しており、充実した施設・設備の下、自分に適した学習ができます。
▽工業に関する学科（単位制）					
24	都立六郷工科 高等学校	大田区	全 定	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (30) 定時制課程 普通科 1 学年 (30) 生産工学科 1 学年 (30)	平成 16 年 4 月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。 全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車 3 級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の 4 科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も 1 学年と 2 学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。 デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大 29 単位卒業の単位として認めている。 定時制には、単位制と 3 修制を取り入れた生産工学科と普通科の 2 科がある。
▽科学技術科					
25	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210) 専攻科 (40)	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成 19 年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、分野選択制、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験（実習）、研究の 3 ステップ学習による科学技術教育を行っています。
26	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する学習と、大学進学に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。
▽商業に関する学科					
27	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	本年、創立 50 周年の記念すべき年を迎えました。商業の専門高校として伝統を引き継ぐとともに、新たなチャレンジ・そして次の 50 年に向けスタートを切ります。 【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の 3 つの柱のもので、社会での自立を目標に、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援します。スポーツ科学センターや赤羽自然観察公園など恵まれた「西が丘」の環境のもとで、商店街連携など地域に育てられ、地域とともに歩む学校です。

	学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
28	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数 16、在籍生徒数約 300 名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は 4 学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では 2 名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は 18 年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。
29	都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成 18 年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定 (3 年間) され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会の PR フラッグのデザインを考案 (年 4 回更新) したり、生徒のデザインによるラッピング都電 (外装塗装) を、平成 18 年より 22 年 3 月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成 21 年度創立 50 周年を迎えた。
			定	商業科 (90)	
30	都立五日市 高等学校	あきる野 市	全	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市市に位置しています。普通科は平成 17 年度より「ことばと情報」コースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし 3 年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に分かれ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。25 年度入学選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子 1 名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現 100% を目指しています。
			定	併合科 (30)	
31	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	全日制は、平成 23 年 4 月に創立 50 周年を迎え地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、資格取得の向上を図り、生徒ひとりひとりの進路実現に取り組んでいる。健全育成に努め、社会に貢献できる人材育成を目指している。22・23・24 年度部活動推進、23・24・25 年度言語能力向上推進の各指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。
			定	普通科 (30) 商業科 (30)	
32	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語 (IT、会計、英語) に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
33	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	平成 17 年度より 4 年連続日本商工会議所 1 級合格者 (大学卒業レベル) を出す。公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業 (ビジネス) 教育の先導的役割を果たしている学校です。
34	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、大学進学では指定校や公募推薦等で現役合格している。平成 22 年度には、卒業生が 20 歳で公認会計士試験にて合格した。ソフトボール部や女子バレー部及び簿記部など部活動も盛んで、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
35	都立第三商業 高等学校	江東区	全	商業科 (210)	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。基礎・基本を重視するとともに高度な資格取得にも力を入れています。また、企業とのつながりを大切にしながら、進路保障 100% の実現を目指しています。今後も優良企業への就職や大学進学に十分対応できるよう、教育活動の点検・改善に鋭意取り組んで参ります。
			定	商業科 (30)	
36	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	一マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校一 昭和 15 年の創立から今日に至るまで、70 年を越える伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。 地元商店会と連携した Web ページやポスター作成等の体験的授業の実施や IT パスポート試験合格などを通して着実な力をつけさせています。 部活動も盛んで、珠算部、簿記部、ワープロ部の全国大会出場、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、吹奏楽部なども学校として力を入れている。
37	都立第五商業 高等学校	国立市	全	商業科 (210)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。 定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人ひとりの夢を実現するために計画的に指導します。
			定	商業科 (60)	
▽ビジネスコミュニケーション科					
38	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO / NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。

	学校名	所在地	課程	平成25年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
39	都立大田桜台 高等学校	大田区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	「本当に英語を使える人」を育てるために10,000冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ(1年生)」「キャリア・アップ修学旅行 in 九州 APU(2年生)」などの学校行事を通し、国際理解を深めます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション技術」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。
▽家庭に関する学科					
40	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成18年4月1日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第7限に設置している。
41	都立町田 高等学校	町田市	全	普通科 (320) 家政科 H22年度から 募集停止	戦前からの長い伝統を誇る本校家政科は、一般教養を高めるとともに、被服・食物・保育等の生活に関する理論と実習、またフードデザイン・ファッションデザイン・被服製作・発達と保育・家庭情報処理・家庭看護福祉などのユニークな専門科目を通して、高度な専門的技術・知識の習得、並びに豊かな人間性を育てることを目標に取り組んでいる。
▽福祉に関する学科					
42	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
▽国際関係に関する学科					
43	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、前者は文系4年制大学、後者は理系・海洋系4年制大学や海洋系公務員等を目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による国際航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習3時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
▽併合科					
44	都立大島 高等学校	大島町	全	普通科 (80) 併合科(農林・家政) (35)	生命と環境のスペシャリストを育てる農林科では、17万m ² という広大な敷地の中で、草花、野菜、畜産、森林の農業の各分野を、実習をおとして学習できるという特徴があります。広大な農場で、気持ちいい汗をいっぱいかきながら、島民の期待に応える最高の生産品を作り、環境を創造していく実習はこころも身体も健康にしてくれます。生活産業のスペシャリストを育てる家政科では、大島の生活産業現場や社会福祉施設と幅広く連携し、教科書にはない専門的な技術や知識を習得できます。また、地域産業を視野に入れた学習で社会性を磨き、職業観を養い、生徒が自らの進路を深く考えられる授業を展開しています。
45	都立八丈 高等学校	八丈町	全 定	普通科 (120) 併合科(園芸・家政) (35) 普通科 (30)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。敷地面積は約7万平米(東京ドームの1.5倍)を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している(昨年度進路実績95%)。部活動が大変盛んで、生徒の約88%が所属している。定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約50分、1日3便就航。大変至便な学校である。
46	都立三宅 高等学校	三宅村	全	普通科 (40) 併合科(農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科					
47	都立橋 高等学校	墨田区	全 定	産業科 (210) 産業科 (60)	本校は、キャリア教育を重視し、「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、産業界で活躍する人材や起業家を育成することを目標予定されていることから、「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、勤労観・職業観を身に付ける教育を実践します。
48	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野(35) ：ビジネス情報分野(70)	本校はIT特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を進展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業界」の育成です。
▽情報科(単位制)					
49	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定 通	普通科 (150) 情報科 (65) 普通科 (110)	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制(通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している)を設置している、22年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取り組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の3点セットをクリアしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。

学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽総合学科（単位制、チャレンジスクール）				
50 都立青梅総合 高等学校	青梅市	全	総合学科（240）	平成 18 年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。 全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設けている。
		定	総合学科（90）	
51 都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科（240）	平成 19 年 4 月に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクスの 6 系列を通して、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、希望進路実現を図る。
52 都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科（240）	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成 16 年度に都立で 3 番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。
53 都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科（240）	○平成 20 年 4 月開校 ○幅広い 6 系列（社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり）に 100 科目以上を配置し、大幅な科目選択制で、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー（身だしなみ、頭髪等）を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視
54 都立つばさ総合 高等学校	大田区	全	総合学科（240）	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い 5 系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001（国際環境認証）を取得し、環境教育にも力を入れている。平成 19 年度「環境大臣賞」を、平成 21 年度には「文部科学大臣賞」を受賞した。地域との連携も深めている。
55 都立晴海総合 高等学校	中央区	全	総合学科（240）	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。
56 都立東久留米総合 高等学校	東久留米市	全	総合学科（240）	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、三修制を実施。
		定	総合学科（60）	
57 都立若葉総合 高等学校	稲城市	全	総合学科（240）	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。 教育目標のコンセプト "TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE" ※大志を抱き（AMBITIOUS）、生き生きと活動し（ACTIVE）、 魅力あふれた（ATTRACTIVE）若者を育てる学校
58 都立町田総合 高等学校	町田市	全	総合学科（240）	○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」；「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動
59 都立王子総合 高等学校	北区	全	総合学科（240）	平成 23 年度開校、全日制総合学科高等学校。 ○「Design Your Dream」（自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校）をキャッチフレーズとしている。自己の進路へ自覚を深め自ら夢を描き、その実現に向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。 ○「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝統文化・工芸」「スポーツ・健康」の 5 つの系列があります。
60 都立大江戸 高等学校	江東区	定	総合学科（150）	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科（単位制、定時制）高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の 3 系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」
61 都立桐ヶ丘 高等学校	北区	定	総合学科（150）	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール（総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制）です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。

	学校名	所在地	課程	平成25年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
62	都立世田谷泉 高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「制作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
63	都立椛ヶ丘 高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成19年4月に開校したチャレンジスクール(三部制定時制、総合学科、単位制)です。各学年7学級で、校服(制服)があり静かな学習環境です。心理学に裏づけされた授業「コーピング」があり、「対人関係力、学習スキル」を向上させていきます。「強い(つよい)心」「自立した未来」のもとたくさんの選択科目や少人数授業、体験学習を行っています。
64	都立六本木 高等学校	港区	定	総合学科 (150)	平成17年に開校し八年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成24年度末には第5回目の卒業生が出ます。
▽普通教育を主とする学科(単位制)					
1	都立浅草 高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。

国立高校

1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦60、一般140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術、情報・コンピュータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、立体造形・デジタルデザインの5分野に分かれる。
---	------------------------------	----	---	------------------------	---

高等専門学校

1	都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	平成18年度に都立工業高等専門学校(工業高専)と都立航空工業高等専門学校(航空高専)の再編統合を行い、本科の“ものづくり工学科”に新たな8つの教育コースを設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を目指しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科5年の上に2年の専攻科課程“創造工学専攻”を設立し、現在は6つの教育コースが設置されています。平成20年4月には、公立大学法人首都大学東京に移管し、同法人の産業技術大学院大学との連携による9年間一貫のものづくり教育も推進しています。
---	------------------	------------	---	-------------------------------	--

専修学校

1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (40)	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年100%の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼 夜	建築工学科 (35) 建築設計デザイン科 (80) 建築インテリア工学科 (35) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (65) 建築設計研究科 (60) 建築科 (60) インテリア工学科 (30)	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の8学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	国際デュアル ビジネス専門 学校(新校名) 国際観光専門 学校(旧校名)	台東区	昼	国際観光学科 4月生(40)10月生(40) 国際ホテル学科4月生(40) 国際ホテルデュアル学科 4月生(40) 航空貿易学科4月生(40) 医薬デュアル学科4月生(40)	実践的な観光、医療及び業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。現場力のある職業人を養成していく。平成22年4月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更した。
4	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 夜 通	専門課程⇒理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (120) 【修業年限2年】 高等課程⇒美容高等科 (40) 【修業年限3年】 専門課程⇒美容科Ⅱ部 (40) 【修業年限2年】 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限3年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシヤンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育を育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目標としています。

	学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
5	中央工学校	北区	昼	建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築 科、建築設備設計科、建 築室内設計科 (250) インテリアデザイン科、 インテリア科 (40) エンターテインメント 設営科 (20) 都市環境学科、土木建 設科、造園デザイン科、 測量科、地理空間情報 科 (170) 機械学科、メカニカルデ ザイン科、3D-CAD 科 (50) スポーツ健康学科 (40)	中央工学校は 1909 年(明治 42 年)に創設し、2009 年 10 月 21 日創立 100 周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は 10 万人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制で決め細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にあふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に 2 級建築士の受験資格、土木・造園・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校=就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
			夜	建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	
6	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科 (100) 英語キャリア科 (80) ホテル科 (80) ブライダル科 (40) 観光旅行科 (40) 鉄道交通科 (40) 研究科 (40)	昭和 48 年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する人材を育成。こうした教育内容が評価され、航空会社の採用指定校にも選ばれている。
7	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	コンサート・イベント 科(40) 音響芸術科(30) ミュージック科(30) 放 送芸術科(30) 演劇・声 優科(40) ゲームクリエ ーター科(40) CG クリエ ーター科(20) Web クリエ ーター科(20) マンガ科(40) アニメーション科(30) グラフィックデザイン科 (30) スポーツビジネス 科(40) 幼児教育学科(40) こども学科(40) 教育専 攻科(20) 公務員科(40) 建築学科(40) インテリ アデザイン科(30) 情報 システム科(40) 情報処 理科三年制(20) 電気電 子学科(40) 電気主任技 術者専攻科(20) 航空学 科(20) 法律情報科(30) 経営情報科(40) メディ ア文学科(20) 大学併修 学科(40) 研究科(40)	昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を 50 年以上社会に送りだしている。28 学科 44 コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。また、中央大学、産業能率大学、日本大学との 4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
8	専門学校東京工科 自動車大学校 (新校名) 東京工科専門学校 (旧校名)	中野区	昼	1 級自動車整備学科 (4 年・40 名) 自動車整備学科 (2 年・160 名) エンジンメンテナンス科 (2 年・80 名)	平成 22 年 4 月より専門学校東京工科自動車大学校と校名を変更し、自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラム改革を展開し、安心できる授業システムによる解る・出来る取れる授業運営をしております。
9	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門	調理師科 2 年制 (120) 調理師科 1 年制 (120) [調理技術・洋菓子製 パン・福祉調理]	1970 年創立。2007 年 8 月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO 22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科 2 年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができる。その他にも地元下丸子の農園と提携し、野菜(食材)の提供だけでなく学生が体感できる農場実習も実施しています。この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
			高等	調理師科夜間部 2 年制 (40)	
10	東京デザインテク ノロジーセンター 専門学校	新宿区	昼	スーパー IT 科 (80) IT・デザイン科 (80) IT・デザインコミュニ ケーション科 (80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。

	学校名	所在地	課程	平成25年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
11	東京美容 専門学校	新宿区	昼 通	ヘアスタイリスト科(専門課程)(80) エステティック科(専門課程)(20) トータルビューティー科(専門課程)(40) メイク・ネイルアーティスト科(一般課程)(40) 美容通信科(通信)(80) エステティック通信講座(16)	本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に60年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
12	東京ホテル ビジネス 専門学校	豊島区	昼	総合サービスビジネス科(80) ホテル・レストランコース、ブライダルプロデュースコース	接客&ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶホテリエコース、料飲部門(料理・飲料)のサービススタッフを育成するレストラン&バーコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダルプロデュースコースがある。
13	日本電子 専門学校	新宿区	昼 夜	コンピュータグラフィックス科(160)、高度コンピュータグラフィックス科(40)、CG映像製作科(40)、ゲーム制作科(150)、ゲーム制作研究科(120)、ゲームCGデザイン科(80)、ゲーム企画科(80)、アニメーション科(80)、アニメーション研究科(40)、Webデザイン科(80)、グラフィックデザイン科(80)、コンピュータミュージック科(40)、ケータイ・アプリケーション科(40)、Webシステム科(40)、組込みシステム科(80)、コンピュータネットワーク科(80) ネットワークセキュリティ科(80) 情報処理科(120) 情報システム開発科(80) 高度情報処理科(80)、電子応用工学科(40) 電気工学科(50) 電気工事技術科(50) コンピュータグラフィックス科(40)、キャラクターデザイン科(40)、ゲーム制作科(40)、ネットワークセキュリティ科(40)、情報処理科(40)、電気工学科(50)、電気工事士科(50)	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。
14	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科(40) 栄養士科(120) 調理師科(136)	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成をしてまいりました。平成14年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成20年には第3期生の87.8%を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては2つのコースを2年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率100%を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学習、調理技術実習は390時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。
15	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校	中野区	昼 夜	旅行学科(100) ホスピタリティサービス学科(150) 航空・運輸学科(130) 旅行学科(60) ホスピタリティサービス学科(120) 航空・運輸学科(100)	当校は旅行・観光業界から「プロを養成してほしい」という要請を受けて設立された「観光業界立」の学校です。観光・サービス産業で最も大切な「ホスピタリティマインド」＝「おもてなしの心・相手を思いやる心」を持った業界人を育成するため、「Smile for you」を合言葉に、学生・先生すべてが笑顔の絶えない学校を目指しています。各学科とも企業実習を取り入れ、実践で役立つ資格取得や多くの体験型授業(イベント)にも取り組んでいます。また、1年間の米国シアトルへのサンドイッチ留学など国際感覚を養う独自の制度も特徴です。
16	マリールイズ 美容専門学校	新宿区	昼	美容本科(40) ・ブライダルアーティストコース ・国際ヘアスタイリストコース	創立者マリールイズ女史の言葉にあります「一に人格・二に技術」をモットーに人材育成に努めております。また、明治神宮・明治記念館・目黒雅叙園にある美容室を運営する関連会社(株)美容マリールイズの協力のもとに、ブライダルアーティストコースと国際ヘアスタイリストコースを設置し、プロを養成する実践的なカリキュラムを編成しております。
17	武蔵野東技能 高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科(75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間の成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。

学校名	所在地	課程	平成 25 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	------------------------	----------

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻（50） 食物栄養専攻（50）	家政専攻では、衣食住の分野を幅広く学び、豊かな教養とともに実践的な生活スキルを持つ自立した社会人を育成します。また、食物栄養専攻では、食と健康に関わる広範囲な学問を学び、人々の健康の維持・増進に役立つ栄養士を育成します。 そして、家政専攻では中学校教諭二種免許状（家庭）を、食物栄養専攻では栄養士免許証を、また、両専攻ともに卒業と同時に社会福祉主事任用資格を取得できます。加えてフードスペシャリスト（食栄のみ）、医療事務、パソコン検定、秘書技能検定、簿記検定などの資格取得を支援しています。
2	嘉悦大学 短期大学部	小平市	全	ビジネスコミュニケーション学科（150）	本学では、社会で即戦力として活躍するための実践的なビジネス知識・技能を2年間で習得します。 「医療・福祉」「会計・FP」「販売・営業」「観光・ホテル」「広報・企画」「編入学・留学」など多様な進路に直結した6つの育成モデルを用意しています。
3	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科（120） 栄養科（80）	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成 24 年度 会 員 中 学 校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	12	渋谷区	8	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	江東区	23	中野区	11	足立区	37	狛江市	4
港区	10	品川区	15	杉並区	23	葛飾区	24	東大和市	5
新宿区	11	目黒区	10	豊島区	8	江戸川区	33	羽村市	3
文京区	10	大田区	28	北区	12	武蔵野市	6	三宅村	1
台東区	7	世田谷区	29	荒川区	10	府中市	11		

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立富士高等学校附属中学校
都立大泉高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校
都立南多摩中等教育学校
都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

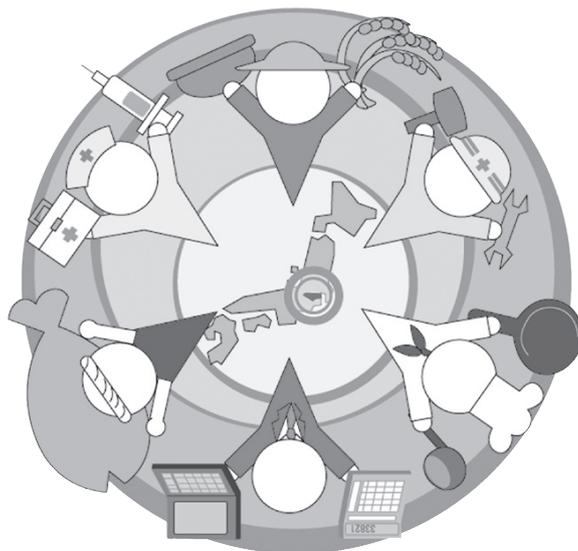
国立大学法人
筑波大学附属中学校

◆◆◆ 本誌「東京の産業教育」50号記念表紙イラスト・コンペについて ◆◆◆

本会の会誌50号を記念して、表紙のイラストを変更することが7月の企画推進委員会で決定されました。高校生を対象として募集することとなり、会員高等学校全校にイラストの応募を呼びかけました。その結果6校から計14点の応募がありました。

一次・二次選考を経て、下記の最優秀イラストが決まり、本誌の表紙に採用されました。

表紙イラスト・コンペ最優秀賞



製作者

東京都立工芸高等学校 グラフィックアート科 3年 川口 彩花 さん

川口さんのコメント

日本には色々な産業があります。一つではなく、異なる産業同士が関わり合い協力することで、日本がより活発に、より明るくなっていくイメージを絵にしました。具体的には、この絵ではそれぞれ産業人ごとに基調の色を変えることで各産業の個性を表現しています。

そして、全体的に明るい色を用い、東京から各産業の人々が飛び出しているように描いています。これらの構図や色づかいで、東京から明るくパワフルで個性のある日本を作っていく産業人を表現しました。これを見た人が少しでも日本の産業の素晴らしさに気がついてもらえたり興味を持ってもらえたりしたらすごく嬉しいです。



表紙イラスト最優秀賞の川口さんに薄謝を進呈し、イラスト応募者全員に参加賞を贈りました。ご協力頂きました学校・先生・生徒さんに感謝いたします。(事務局)

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、東京都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善を図り、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業や個人で、入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

(問合せ先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都新宿区教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会 事務局
TEL 03-5320-6729 FAX 03-5388-1727

編集後記

特集テーマは、本年度新たに「魅力ある産業教育を目指して」とし、各学校・各学科での実践的な教育活動や特色ある取り組みについて、執筆していただきました。また産業界から3社、執筆をお願いしました。併せて本誌へのご協力を感謝申し上げます。

産業界と学校、教育行政が連携して、産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要なことですが、昨今の社会経済状況や普通科志向は、産業教育にとって厳しい現実となっております。従って更なる産業教育の向上・改善・深化に向け、教育力を高める必要があります。本誌が幾許かの参考になればと願っております。今後も、本会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。(山)

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

東京の産業教育 第50号

発行 平成25年(2013年)3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになって、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

■ スチール・木製家具

■ 各種特別教室

■ 黒板・スクリーン

■ 学校用品

■ 室内装飾

■ 図書館設備

■ 視聴覚設備

■ OA事務機器



〒112-0015

東京都文京区目白台3-26-8

TEL：03(3941)7258

FAX：03(3943)3826

高輝度蓄光製品

BLUECHE

ブルーシェ

高輝度・長残光

- ・JIS規格の数値の約10倍以上の残光性を持っています。

屋外での利用が可能

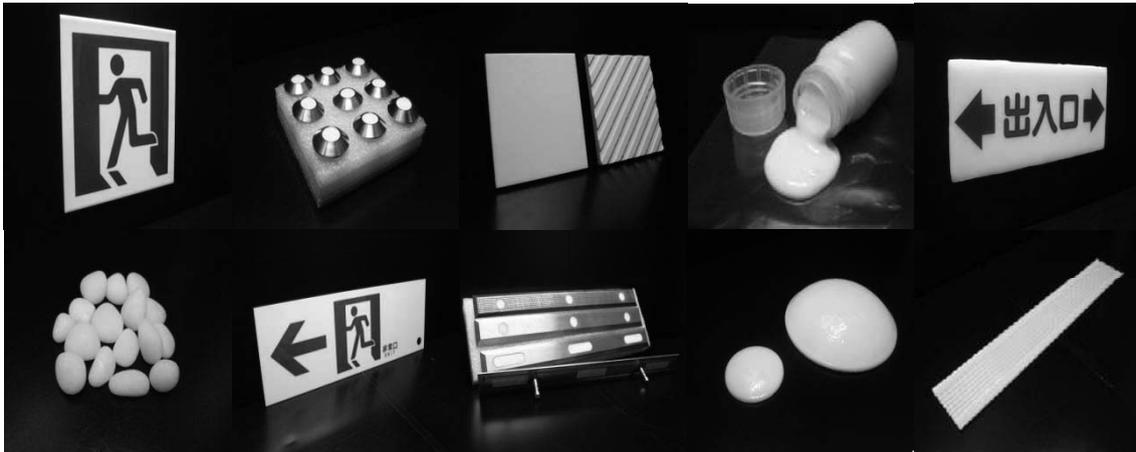
- ・耐水性に優れているので、従来では使用制限があった箇所での利用が可能。

心を落ち着かせる効果

- ・青緑色には人の心を落ち着かせる効果があり、医学的にも照明されている。

製品ラインナップ(一部)

- ・高輝度蓄光式誘導標識
- ・セラミック蓄光材
- ・蓄光石
- ・点字鋏、線状鋏
- ・蓄光水性塗料



事業者名	株式会社イーナ
代表者名	唐沢 真理
所在地	東京都千代田区神田須田町1-7 神田ミハマビル6階
電話番号/FAX番号	03-3252-1133/03-3252-1128
主要製品	高輝度蓄光式誘導標識、その他蓄光技術を用いた安全対策製品
事業内容	蓄光技術を様々な形に変えて、皆様に「安全」と「安心」を提供。 環境の改善に貢献するとともに、「幸せな未来の社会」を作ることを目指す。

印刷とともに80年

学会誌、社内報、教科書・教材、研究会報、
講演会録、自伝、句会録・歌集、少部数印刷等

80年にわたり培ってきた信用が当社の
財産です。安心してお問合せ下さい。



Since 1930



Small but Excellent

株會 小藥印刷所

〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4

TEL (03) 3551-1222 FAX (03) 3551-3447

E-Mail kogusuri@blue.ocn.ne.jp

日本初登場

課外授業にスカイホップバスを

2階建てオープンバスによる

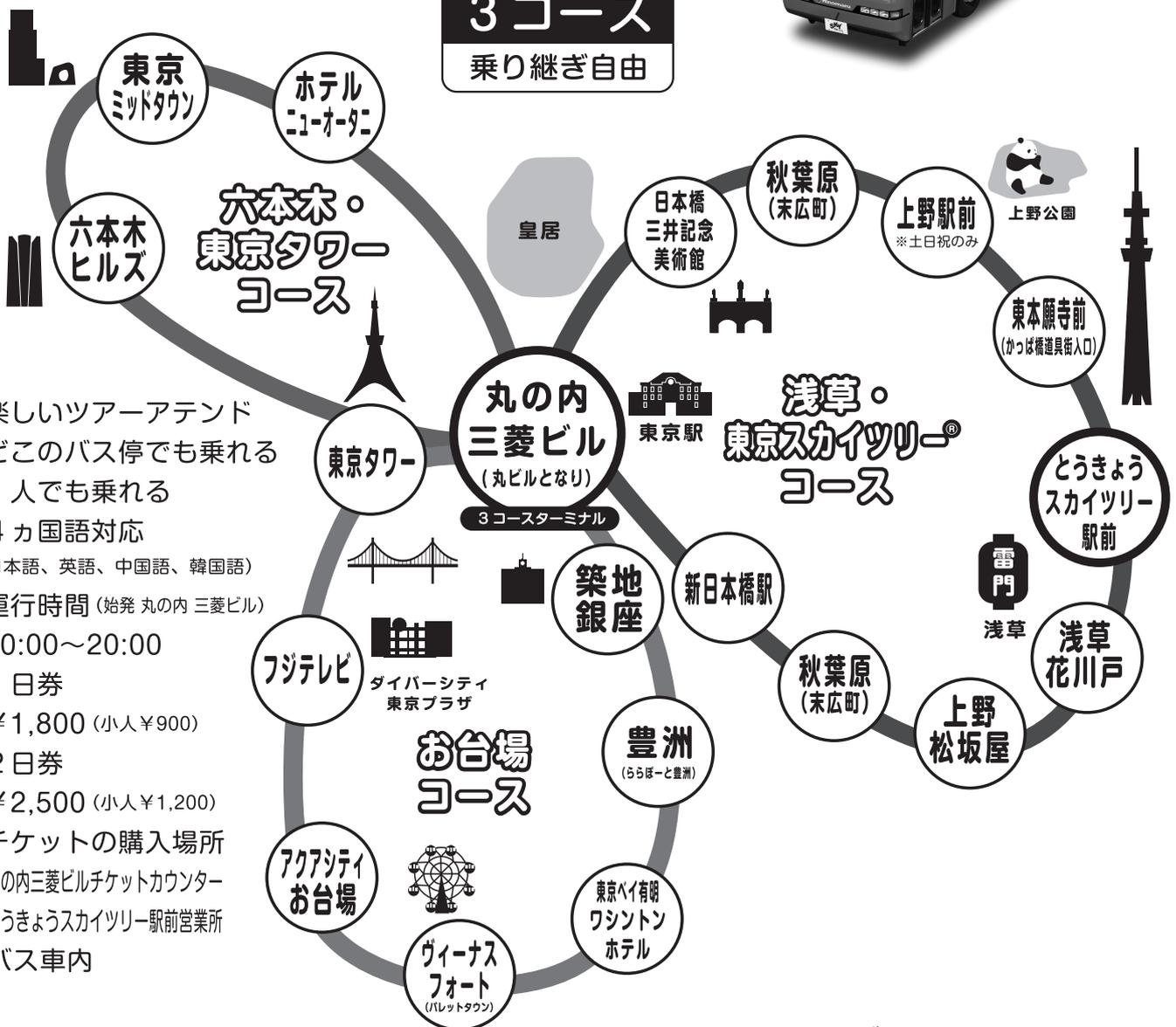
乗り降り自由

スカイホップバス



3コース

乗り継ぎ自由



- ◎楽しいツアーアテンド
- ◎どここのバス停でも乗れる
- ◎1人でも乗れる
- ◎4カ国語対応
(日本語、英語、中国語、韓国語)
- ◎運行時間 (始発 丸の内 三菱ビル)
10:00~20:00
- ◎1日券
¥1,800 (小人¥900)
- ◎2日券
¥2,500 (小人¥1,200)
- ◎チケットの購入場所
丸の内三菱ビルチケットカウンター
とうきょうスカイツリー駅前営業所
バス車内

“スカイホップバスで
気ままに東京散歩”

スカイバスコールセンター
TEL.03-3215-0008
<http://www.skybus.jp/>

〔調理師科 2 年制〕

フランス料理専攻コース
イタリア料理専攻コース
日本料理専攻コース
中国料理専攻コース

〔調理師科 1 年制〕

調理技術コース
洋菓子製パンコース
福祉調理コース
ボリュームケータリングコース
※入学後にコースを選択

〔調理師科夜間部 2 年制〕

国際フード製菓専門学校

〔製菓製パン科 2 年制〕

洋菓子専攻コース
和菓子専攻コース
パン専攻コース

〔製菓製パン科 1 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

〔製菓製パン科夜間部 2 年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0003

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区楠町14-4

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411

伝承される技術と心。

The beauty training school which was established by The principal Marie Louise at 1912. By keeping the history and tradition for 100 years, it have been become The Marie Louise Beauty Special School. We have philosophy that of `1st personality, 2nd technique`. We educate students who will be able to produce the beauty and the happiness. We create originality by absorbing from the leading fashion, yet inheriting from the tradition. Yes! We, Marie Louise Beauty Special School, will send out many `professionals` to the world.



マリールイズ美容専門学校が新たな歴史を歩み始めました。

初代校長マリールイズが創設した美容講習所は、100年の歴史を経て現在のマリールイズ美容専門学校に至っています。「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、オリジナリティを大切にした教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出しています。

■国際ヘアスタイリストコース

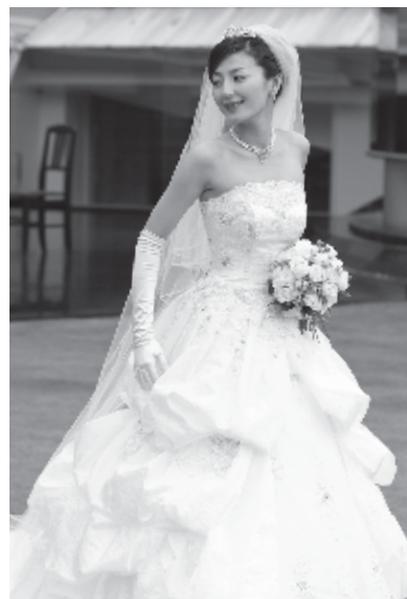
海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

■ブライダルアーティストコース

マリールイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

●一学年 40 名の少人数体制 ●美容師免許取得可能 ●充実したサロン実習

「学校見学 & 体験入学」随時受付中！ ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ美容専門学校

<お問い合わせ>

TEL:03-3357-8015 www.marie-louise.ac.jp

中央工学校

100年を超える伝統と実績！
あなたの夢《未来》を勝ち取る！



建築・木造・設備

- 建築学科 (4年) ○建築設備設計科 (2年)
- 建築工学科 (3年) ○建築室内設計科 (2年)
- 建築設計科 (2年) ○夜間 建築科 (2年)
- 木造建築科 (2年)

《建築関連学科》

— 平成24年1級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —
平成24年1級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績を収めました。
(平成24年12月20日、財団法人建築技術教育普及センター発表)



室内・インテリア・家具

- インテリアデザイン科 (3年)
- インテリア科 (2年)

《インテリア関連学科》

住空間・商業空間のインテリアデザインから、施工方法まで学び、さらに家具デザイン・家具制作技術などを身につけた、インテリアデザイナーを目指します。



舞台美術・イベント設営

- エンターテインメント設営科 (2年)

《エンターテインメント設営科》

TVや野外ステージなどの設営に必要な設計技術(舞台造形・空間装飾デザインなど)から、仮設足場を計画し、イベント設営物の制作・設営技術まで習得します。



土木・測量・造園

- 都市環境学科 (4年) ○造園デザイン科(2年)
- 土木建設科 (2年) ○夜間 土木科 (2年)
- 測量科 (1年) ○夜間 測量科 (2年)
- 地理空間情報科(1年)
- 《測量士補取得者対象》

《土木・測量関連学科》 ※造園デザイン科を除く

Point 1	Point 2	Point 3
卒業と同時に測量士補を無試験取得※	2年の実務で測量士を無試験取得※	地理空間情報科を卒業すると測量士を無試験取得

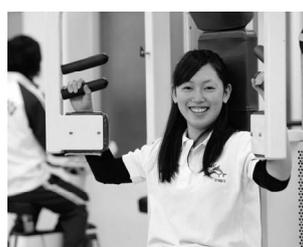


機械・CAD

- 機械学科 (4年)
- メカニカルデザイン科 (2年)
- 3D-CAD科 (2年)

《機械・CAD関連学科》

身の回りの工業製品などの、設計技術を作品制作を通して、習得します。
また、最先端のCAD技術を短期間に習得できます。



スポーツ《ビジネス・トレーナー・インストラクター》

- スポーツ健康学科 (2年)
- ・スポーツビジネスコース
- ・スポーツインストラクターコース
- ・スポーツトレーナーコース
- ・チャイルドスポーツコース
- ・福祉スポーツコース
- ・競技スポーツコース

《スポーツ健康学科》

スポーツの専門知識や技術はもちろん身に付きませんが、PC・流通・簿記会計のビジネス教育も学び、スポーツ業界で幅広く活躍できるスペシャリストを育成します。

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
- TEL : 03-3905-1511 (入学相談室) ☎ 0120-79-1511
- PC : <http://chuoko.ac.jp> (携帯からもアクセス可)
- Mail : info@chuoko.ac.jp



オフィシャルサイトにアクセスできます。
(資料請求や学校説明会・体験入学の申込可能)



中・高・大学受験 創業以来、不合格者ゼロ！

学習困難な児童・生徒のための進学・補習塾

進学・補習の 翼学院

「1か月で偏差値20伸ばす芦澤式学習法」



もくじ

- 【第1章】 芦澤式学習法～教育関係者、保護者が心得ておくべき視点
- 【第2章】 芦澤式コミュニケーション法～自尊感情、意欲向上のために
- 【第3章】 芦澤式の真髄～記憶の仕方から問題の解き方まで
- 【第4章】 こんな授業をする塾、学校を選べ～50人の個別指導を可能とする芦澤式クラス指導法によるチェックリスト
- 【第5章】 芦澤式面接・小論文突破法
- 【第6章】 芦澤式子育て道
- 【第7章】 大きく羽ばたくツバサ生たち～ご家庭との連携による学習支援
- 【第8章】 方針も経営も安定した塾選びのための視点



学院長・芦澤唯志の著書やNHK総合テレビ、雑誌・新聞のインタビュー記事を読んで葛飾区外・東京都外から通塾する塾生や中学・高校のカウンセリングルーム・教員からの紹介による塾生が多数在籍！

☆LSA（港区、川崎市、明石市などの教育委員会採択の学習支援員）

養成講座東京会場指定校、文部科学省委託事業教材普及推進委員

お問い合わせは…

本部代表番号 03-5699-5283（ゴーカクツバサ）

葛飾区 青砥駅前校 水元校

翼学院 検索 



学校法人 愛国学園

愛国中学校 募集人員 60名

愛国高等学校 募集人員

普通科 240名

(一般教養コース・進学コース)

商業科 120名

(会計コース・情報処理コース)

家政科 80名

卒業と同時に無試験で

調理師免許取得

衛生看護科 40名

准看護師試験受験資格取得

資格試験 100%合格実績

創立75年

伝統ある中高一貫女子教育

愛国中学校・愛国高等学校

TEL.03-3658-4111 FAX.03-5668-1717

〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1

中学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/junior-high/>

高等学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/>

京成小岩駅下車徒歩3分・JR小岩駅北口下車徒歩10分・北総線新柴又駅下車徒歩13分・JR金町駅よりバス7分

優先入学できる上級併設学校

愛国学園大学 人間文化学部



仕事や生活に直結する
専門的知識や技能を修得

取得できる資格

- 認定心理士
- 上級秘書士
- 上級情報処理士
- 社会福祉主事任用資格
など

愛国学園短期大学 家政科(家政専攻・食物栄養専攻)



食と健康に関する
広範囲な知識を修得

取得できる資格

- 栄養士免許
- 中学校教諭二種免許
- フードコーディネーター3級
(平成25年度より) など

愛国学園保育専門学校 幼児教育科(2年制)



人間性豊かな保育士、
幼稚園教諭へ

取得できる資格

- 幼稚園教諭二種免許
- 保育士

愛国高等学校 衛生看護専攻科(全日制2年過程)



看護師として必要な
知識、技術を修得する

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格

※衛生看護専攻科受験資格
高等学校卒業かつ
准看護師資格所有

愛国学園は皆さんの夢を応援しています